

ArcGIS 関連用語集

はじめに

本書は GIS（地理情報システム）ソフトウェア「ArcGIS」を利用する際に役立つ用語集です。

ArcGIS（主に ArcGIS for Desktop）ソフトウェアの操作画面やヘルプ トピック上に示される用語はもちろんのこと、一般的な GIS 用語、さらには地理学や地図学、測量、リモートセンシングなどの GIS に関連する分野の用語を収録しました。

用語の編成においては ArcGIS 製品付属のヘルプに記載されている解説よりも簡潔に分かりやすく説明していますので、ArcGIS をこれから利用し始めるユーザからすでに ArcGIS を使い慣れているユーザまで幅広いユーザ層が参考にしていただけます。

本書が業務や研究を進める上で参考となり、結果として ArcGIS の理解度の向上の一助となれば幸いです。

2014 年 12 月吉日
ESRI ジャパン スタッフ一同

本書の利用にあたって

見出しは欧文用語、和文用語とに分けてそれぞれでまとめてあります。

欧文用語はアルファベット順としています。

欧文用語の読み方は、必ずしも原文の正しい発音によらず、慣習的な読み方に従っています。

和文用語は表音方式 50 音順に配列しています。

濁音・半濁音を含む用語に関しては、それらを無視しています。

ArcGIS に関する用語および用語の説明はバージョン「10.2.2」時点のものです。過去のバージョンでの用語とは異なる場合がありますので、予めご了承ください。

凡例解説

■「(A)」… ArcGIS 用語

ArcGIS 固有の用語および一般用語として存在するものの説明文の内容が ArcGIS におけるものである場合は、見出し語に続き「(A)」マークを記しています。

■「解説文」+ [n] … 引用

解説文が引用の場合は、文章全体を かぎかっこ「」で囲み、続きに [n] マーク（n = 数値）を記しています。引用元については巻末に記載しています。

■「⇒」… 関連用語

用語の解説文中では直接使用されてはませんが、参照することが望ましい用語について、解説文の後に「⇒ 用語名」を記しています。

■ 文中の下線について

他の用語へのリンクがある場合は、その用語に下線を引いています。

記載例

アノテーション [Annotation] (A)

ArcGIS のマップ上で個別に選択、配置、プロパティの変更が可能な注記テキスト。アノテーションは、ユーザが手動で入力するか、ラベルから自動的に生成できる。アノテーションの格納先として、ジオデータベースとマップ ドキュメントの 2 種類がある。

⇒ 標準アノテーション、フィーチャリンク アノテーション

10 進経緯度

度、分、秒でなく、10 進形式で表される緯度と経度の値。たとえば、「北緯 35 度 30 分 45 秒」を 10 進形式の緯度で表すと「35.5125 度」となる。

19 座標系

「平面直角座標系」を参照。

平面直角座標系は、全国を 19 の座標系に区分して運用されるため、このように呼ばれる場合もある。

3D グラフィックス [スリー ディー グラフィックス(Graphics)] ④

ArcScene や ArcGlobe 上で対話的に作図された 3 次元の図形オブジェクト（ポイント、ライン、ポリゴン）。

3D シェープ [スリー ディー シェープ(Shape)] ④

X、Y、Z 座標から構成されるジオメトリ（ポイント、ライン、ポリゴン）。

3D シンボル [スリー ディー シンボル(Symbol)] ④

3 次元のオブジェクトを表すシンボル。球体や立方体のようなものから、樹木や自動車などの現実世界のオブジェクトを模したもので設定することができる。



3D フィーチャ [スリー ディー フィーチャ(Feature)] ④

現実世界に存在する地物や事象の位置や形状を 3 次元のフィーチャとしてモデル化した個々のデータ。ジオメトリの頂点に高さの情報（Z 値）を持つ。

3D ポリゴン [スリー ディー ポリゴン (Polygon)] ④

頂点に高さの情報（Z 値）を持つポリゴン。

3D マルチパッチ [スリー ディー マルチパッチ(Multipatch)] ④

「マルチパッチ」を参照。

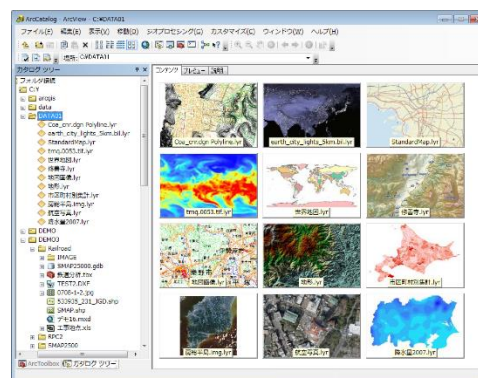
AOI [エー オー アイ]

Area Of Interest の略。

作業や調査・研究の対象となる地理的な範囲。

ArcCatalog [アーク カタログ] ④

ArcGIS for Desktop に付属するアプリケーションで、GIS データの整理や管理を行うことができる。新規データの定義や既存データのプロパティの変更、メタデータの作成などで使用される。



ArcGIS [アーク ジー アイ エス] ④

Esri 社の開発による、GIS ソフトウェア ファミリーの総称。デスクトップ、サーバ、モバイルに、クラウドを加えた幅広い環境で利用可能な GIS ソフトウェア/サービスおよびデータ製品から構成され、単体での利用から任意の組み合わせによるシステムの構築まで、機能要件、システム規模、コストに応じた柔軟な選択をすることができる「GIS プラットフォーム」である。

ArcGIS 3D Analyst [アーク ジー アイ エス スリー ディー アナリスト] ④

ArcGIS の機能を拡張するエクステンション。複数のサンプル データからの地形の作成、3D 解析の実行、複数のデータを使用したリアルな景観の作成、3D のナビゲーション操作とアニメーション作成などの機能を提供する。

ArcGIS Data Interoperability [アーク ジー アイ エス データ インターオペラビリティ] ④

Safe Software 社の FME 製品を利用した、GIS データの抽出、変換、読み込みのための ArcGIS のエクステンション製品（日本では未サポート）。

ArcGIS Engine [アーク ジー アイ エス エンジン] ①

デスクトップ GIS アプリケーションを開発するための開発者向け製品。「ArcObjects」と呼ばれる組み込み可能な GIS コンポーネントやツール群を豊富に提供する。必要に応じて各種エクステンションを追加することによって、更なる機能強化を図ることができる。

ArcGIS for Desktop [アーク ジー アイ エス フォー デスクトップ] ①

地理情報および関連情報を統合し、利活用するための一連の機能（表現、検索、分析、管理、編集、出力等）を Windows アプリケーション形式で提供するデスクトップ GIS 製品。機能のグレードに応じて 3 つのエディション（Basic、Standard、Advanced）があり、必要に応じて各種エクステンション製品を追加したり、カスタマイズしたりすることによって、更なる機能強化を図ることができる。

ArcGIS for Server [アーク ジー アイ エス フォー サーバ] ①

マップや高度な GIS 解析機能などを GIS Web サービスとして共有・公開、一元管理する機能を提供する Web GIS サーバ製品。機能のグレードに応じて 3 つのエディション（Basic、Standard、Advanced）とシステム規模に応じて 2 つのレベル（Workgroup、Enterprise）があり、必要に応じて各種エクステンション製品を追加することによって、更なる機能強化を図ることができる。

ArcGIS for Windows Mobile [アーク ジー アイ エス フォー ウィンドウズ モバイル] ①

ArcGIS for Desktop、ArcGIS for Server と連携して使用する、現地調査に必要な標準的機能を備えたモバイル GIS 製品。専用の .NET 開発キットを使って業務に特化したモバイル GIS ソリューションを開発することもできる。

ArcGIS Geostatistical Analyst [アーク ジー アイ エス ジオスタティスティカル アナリスト] ①

ArcGIS の機能を拡張するエクステンション製品。地球統計学（Geostatistics）に基づき、強力な空間データの内挿機能を提供する。

ArcGIS Network Analyst [アーク ジー アイ エス ネットワーク アナリスト] ①

ArcGIS の機能を拡張するエクステンション製品。道路網などの交通ネットワーク データをもとに、最短経路検索や到達圏解析などの機能を提供する。

ArcGIS Online [アーク ジー アイ エス オンライン] ①

Web 上でマップの検索、利用、共有が可能な Esri 社のクラウド GIS サービス。

ArcGIS Publisher [アーク ジー アイ エス パブリシャー] ①

ArcGIS for Desktop の機能を拡張するエクステンション製品。無償のマップ閲覧ソフト ArcReader で表示できる PMF ファイルを作成することで、ArcGIS for Desktop を保有していないユーザに ArcGIS for Desktop で作成したマップを配布する機能を提供する。

ArcGIS Runtime SDK [アーク ジー アイ エス ランタイム エス ディー ケー] ①

デスクトップおよびモバイル デバイスに対応したネイティブ アプリケーション開発キット。開発キットの種類として、.NET、iOS、Android などがある。

ArcGIS Spatial Analyst [アーク ジー アイ エス スペーシャル アナリスト] ①

ArcGIS の機能を拡張するエクステンション製品。ラスタ データをベースとした高度な GIS 解析機能を豊富に提供する。

ArcGIS Tracking Analyst [アーク ジー アイ エス トラッキング アナリスト] ①

ArcGIS の機能を拡張するエクステンション製品。時間・位置・属性情報を含む時系列データを効果的に可視化し解析する機能を提供する。

ArcGIS データコレクション [アーク ジー アイ エス データ コレクション(Data Collection)] ①

ArcGIS ですぐに利用できる低コストな加工・調製済み GIS データ製品。データの種類として、スタンダードパック(広域地図、公共地図、街区レベル住所、基本統計)、詳細地図、道路網、住居レベル住所、地形、統計などがある。

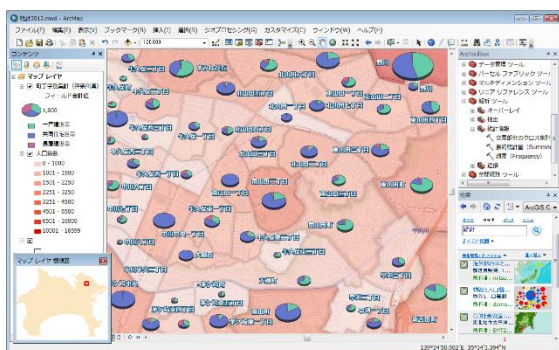
ArcGlobe [アーク グローブ] ①

ArcGIS 3D Analyst エクステンションに付属するアプリケーションで、地球レベルから局地レベルの 3 次元景観の表示や解析を行うことができる。



ArcMap [アーク マップ] ①

ArcGIS for Desktop に付属するアプリケーションで、GIS データの表示、検索、解析、編集、管理、出力を行うことができる。



ArcObjects [アーク オブジェクト] ①

ArcGIS の基盤となるソフトウェア コンポーネントのライブラリ。ArcGIS for Desktop、ArcGIS Engine、ArcGIS for Server は、ArcObjects ライブラリを使用して構築されている。

ArcPad [アーク パッド] ①

モバイル デバイス (Windows) 上での GIS データの表示、作成、編集が可能で、現地調査に必要な豊富な機能を標準装備した汎用的なモバイル GIS 製品。

ArcPy [アーク パイ] ①

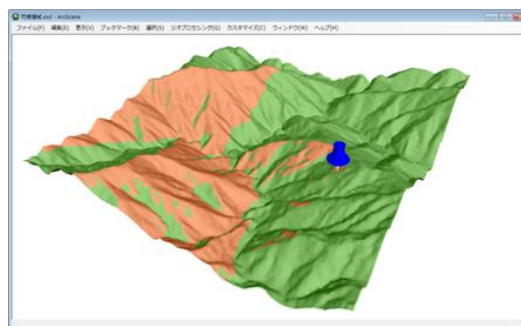
ArcGIS の機能に特化した Python のサイト パッケージ。ArcPy にはさまざまなモジュールが用意されており、データ解析、データ変換、データ管理などを行うことができる。

ArcReader [アーク リーダー] ①

ArcGIS Publisher エクステンションを使用して作成される PMF ファイルを表示、閲覧、印刷する無償のアプリケーション。

ArcScene [アーク シーン] ①

ArcGIS 3D Analyst エクステンションに付属するアプリケーションで、局地的な 3 次元景観の表示や解析を行うことができる。



ArcSDE [アーク エス ディー イー] ①

RDBMS のテーブルに空間データを格納して管理するための ArcGIS for Server コンポーネント。ArcGIS クライアントと RDBMS との間のゲートウェイとしての機能を提供する。

ArcSDE Enterprise ジオデータベース [アーク エス デー イー エンタープライズ ジオデータベース(Geodatabase)] ①

汎用的な RDBMS (Oracle、SQL Server、PostgreSQL など) に GIS データを格納して管理できる、複数ユーザによる同時編集をサポートする組織向けの ArcSDE ジオデータベース。

ArcSDE Personal ジオデータベース [アーク エス デー イー パーソナル ジオデータベース(Geodatabase)] ①

SQL Server Express Edition に GIS データを格納して管理できる単一ユーザ向けの ArcSDE ジオデータベース。

ArcSDE Workgroup ジオデータベース [アーク エス デー イー ワークグループ ジオデータベース(Geodatabase)] ①

SQL Server Express Edition に GIS データを格納して管理できる、同時接続最大 10 ユーザまでをサポートするワークグループ向けの ArcSDE ジオデータベース。

ArcSDE ジオデータベース [アーク エス デー イー ジオデータベース(Geodatabase)] ①

ArcSDE によって管理される ジオデータベースの総称。
ArcGIS for Desktop においては、Standard および Advanced ライセンスで ArcSDE ジオデータベースのデータに対する編集を行うことができる。

ArcSDE システム テーブル [アーク エス デー イー システム テーブル(System Tables)] ①

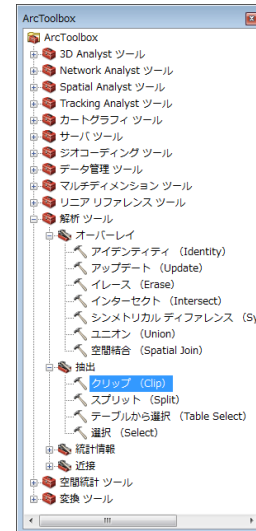
ArcSDE で管理されるジオデータベースのユーザ テーブルの メタデータを格納するテーブル群。

ArcSDE データベース サーバ [アーク エス デー イー データベース サーバ(Database Server)] ①

ArcSDE Personal または ArcSDE Workgroup のジオデータベースを格納するために使用される、SQL Server Express Edition のインスタンス。

ArcToolbox [アーク ツールボックス] ①

ArcGIS で提供されるすべての ジオプロセッシング ツールや モデル、スクリプトを統合したユーザ インタフェース。



AVHRR [エイ ブイ エイチ アール アール]

Advanced Very High Resolution Radiometer の略。
米国の極軌道衛星 NOAA に搭載された光学センサー。
植生、雲、海岸線、水、雪、氷などから反射する可視光線および赤外線を計測する。AVHRR データは、多くの場合、気象の予測や植生の把握に利用される。

BLOB [ビーロブ]

Binary Large Object の略。

RDBMS においてバイナリ データを格納するためのデータ タイプ。主に、画像や音声、ジオメトリなどのデータの格納に使用される。

CAD [キャド]

Computer-Aided Design の略。

実世界のオブジェクトを設計およびドキュメント化するために使用するコンピュータ ベースのシステム。主にエンジニアリング、建築、測量などの分野で使用されている。

CAD データセット [キャド データセット(Dataset)] ①

「CAD フィーチャ データセット」を参照。

CAD ファイル [キャド ファイル(File)]

CAD システムで作成された図面等の情報が格納されたファイル。ArcGIS ソフトウェアでサポートされる形式には、DWG、DXF、DGN、SXF がある。

CAD フィーチャ データセット [キャド フィーチャ データセツト(Feature Dataset)] ④

CAD ファイルの情報をフィーチャ データセットのスキーマに基づいて表現したもの。CAD フィーチャ データセットは、ポイント、ポリライン、ポリゴン、マルチパッチ、アノテーションの 5 つの参照専用フィーチャクラスで構成される。

CAD フィーチャクラス [キャド フィーチャクラス(Feature Class)] ④

CAD ファイルの情報をフィーチャクラスに分類して表現したもの(参照専用)。ポイント、ポリライン、ポリゴン、マルチパッチ、アノテーションの 5 種類がある。

COGO [コゴ] ④

Coordinate Geometry の略。

計測値(方位、距離、角度など)を元に、ジオメトリの座標値を計算する手法。

CU [シー ユー] ④

Concurrent Use の略。

「同時使用ライセンス」を参照。

DBF [ディー बी エフ]

DBMS の一種である dBASE のファイル形式。ArcGIS では、シェープファイルの属性情報を格納するために使用している。

DBMS [ディー बी エム イス]

Database Management System の略。

「RDBMS」を参照。

DEM [デム]

Digital Elevation Model の略。

数値標高モデルとも呼ばれ、標高値(Z 値)の配列によって、地形を表現したデータ モデル。



DGN [ディー ジー エス]

Bentley Systems 社の CAD ソフトウェア「MicroStation」のファイル形式(拡張子 *.dgn)。

DGPS 測位 [ディー ジー पी エス ソカイ]

2 台以上の GPS 受信機を使用して位置を測定する相對測位の方法の 1 つ。正確な位置がわかっている基地局と観測点で同時に単独測位を行い、その測定結果の誤差から観測点の位置の座標値を補正する。

⇒ 干渉測位

DM [ディー エム]

Digital Mapping の略。

「日本の地図作成においては、国土交通省公共測量作業規程第 283 条に基づく作業であり、空中写真測量等により、地形、地物に関わる地図情報をデジタル形式で測定し、電子計算機技術により、数値地形図を新たに構築する作業のことをいう。作成された数値地形図のデータファイルは、体系的に整理され、「DM データファイル」という。」^[1]

⇒ 拡張 DM

DMS [ディー エム イス]

Degrees-Minutes-Seconds の略。

「度/分/秒」を参照。

Douglas-Peucker アルゴリズム [ダグラス ポーカー アルゴリズム(Douglas-Peucker Algorithm)]

複雑なラインを構成するポイントの個数を減らすことにより単純化するアルゴリズム。

DRA [ディー アール エー]

Dynamic Range Adjustment の略。

表示範囲内のピクセル値のみに基づいてストレッチする処理。

DSM [ディー イス エム]

Digital Surface Model の略。

数値表層モデルとも呼ばれ、地表面に加えて地表面上の地物（植物や建物など）も含んだ高さを表現したデータモデル。

⇒ DEM、DTM

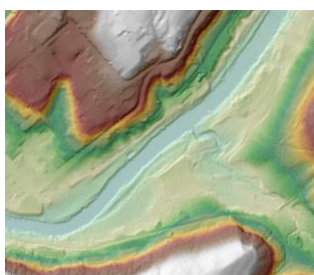


DTM [ディー ティー エム]

Digital Terrain Model の略。

数値地形モデルとも呼ばれ、地表面の高さを表現したデータモデル。DEM と同義で使用されることもある。

⇒ DSM



DWG [ディー ダブルユー ジー]

Autodesk 社の CAD ソフトウェア「AutoCAD」の標準ファイル形式（拡張子 *.dwg）。

⇒ DXF

DXF [ディー エックス エフ]

Drawing Exchange Format の略。

Autodesk 社の CAD ソフトウェア「AutoCAD」のファイル形式（拡張子 *.dxf）。CAD ソフトウェア間の交換フォーマットとして定着している。

⇒ DWG

EDN [イー ディー エヌ] ①

Esri Developer Network の略。

カスタム GIS アプリケーションを開発するために必要なソフトウェアやリソースを開発者に提供する、年間契約を基本単位としたプログラム。

EPSG ID [イーピーエスジー アイディー]

European Petroleum Survey Group によって定義された座標系の ID。

Esri Grid [エスリ グリッド] ①

Esri 社独自のラスタ データ形式。セルの値として 32 ビットの整数と 32 ビットの浮動小数点をサポートしている。

False Easting [フォールス イースティング]

「東距」を参照。

False Northing [フォールス ノーシング]

「北距」を参照。

FID [エフ アイ ディー] ①

「ObjectID」を参照。

GCP [ジー シー पी]

Ground Control Point の略。

「コントロール ポイント」を参照。

GDB [ジー ディー बी] ①

Geodatabase の略称。

「ジオデータベース」を参照。

GeoTIFF [ジオティフ]

地理的な位置情報を内部に格納している TIFF ファイル。

GIS [ジー アイ エス]

Geographic Information Systems の略。

日本語では「地理情報システム」と呼ばれる。位置に関連づけられたさまざまな情報を作成、加工、管理、分析、可視化、共有するための情報システム。

⇒ 空間データ、空間解析、モデル

GIS データ モデル [ジー アイ エス データモデル(Data Model)]

現実世界に存在する地物や事象を GIS で利用するためにモデル化したもの。主にベクタ データ モデルとラスタ データ モデルがある。

GlobalID [グローバル アイ ディー] ①

ジオデータベースのテーブルに付加されるフィールドで、ジオデータベース内および複数のジオデータベース間で個々のレコードを一意に識別するために使用される。ジオデータベース レプリケーションの対象となるフィークラスおよびテーブルには必須となる。このフィールドの値はジオデータベースによって自動的に管理され、ユーザが編集することはできない。

GLONASS [グロナス]

Global Navigation Satellite System の略。

ロシアにより運用されている衛星測位システム。

⇒ GPS、準天頂衛星システム

GML [ジー エム エル]

Geography Markup Language の略。

OGC によって定義された、XML を使用した地理フィークチャ、およびそのジオメトリと属性を表すための標準プロトコル。

GNSS 測量 [ジー エヌ エス エス ソクホウ]

GNSS は、Global Navigation Satellite System の略。

GPS や GLONASS、準天頂衛星などの衛星測位システムを用いた測量。測量方法として、大きく分けて単独測位と相対測位の 2 つが存在する。

GPS [ジー ビー エス]

Global Positioning System の略。

アメリカ合衆国によって運用されている衛星測位システム。ナビゲーション、マッピング、測量など、正確な位置計測が必要な用途に使用されている。

⇒ GLONASS、準天頂衛星システム

GPS 測量 [ジー ビー エス ソクホウ]

GPS を用いた測量。

GPX [ジー ビー エックス]

GPS eXchange Format の略。

GPS で取得したデータをやりとりするための XML ベースのデータ形式（拡張子 *.gpx）。

Grid スタック [グリッド スタック(Stack)] ①

Esri ソフトウェアで複数属性のラスタ データを格納するためのメカニズム。ジオデータベースから参照される、空間的に重なり合った Esri Grid データの順序付きセットで構成される。

GRS80 [ジー アール エス ハチジュウ]

Geodetic Reference System 1980 の略。

「IAG (International Association of Geodesy : 国際測地学協会) および IUGG (International Union of Geodesy and Geophysics : 国際測地学及び地球物理学連合) が 1979 年に採択した、地球の形状、重力定数、角速度等地球の物理学的な定数および計算式を定義したモデル。GRS80 では、楕円体の形状や軸の方向及び地球重心を楕円体の原点とすることも定められている。この楕円体を GRS80 楕円体という。」^[2]

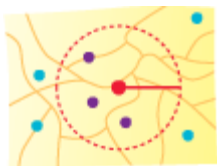
⇒ 日本測地系 2000、日本測地系 2011

IDW [アイディー ダブルユー] ㊤

Inverse Distance Weighted の略。

処理する各セルの近傍にあるポイントの計測値を平均することによりそのセルの値を推定する内挿手法。推定するセルの中心にポイントが近いほど、平均化処理への影響、つまり加重が大きくなる。

⇒ クリギング、Natural Neighbor、スプライン



IERS 基準子午線 [アイイー アール イス キジュンシゴセン]

現在国際的に使用されている本初子午線。

InSAR [インサー]

Interferometric Synthetic Aperture Radar の略。

「干渉合成開口レーダー」とも呼ばれる。2 つのレーダー センサーから得られた画像をもとに、標高や地形の変化の情報を得る技術。

ISO/TC211 [アイ イス オー/ティー シー トゥーイレブン]

ISO (International Organization for Standardization) における専門委員会 (Technical Committee) の 1 つで、地理情報の国際標準化を担当する。ISO/TC211 によって策定された国際標準規格群は「ISO 19000 シリーズ」と呼ばれる (基本的に 19000 番台の規格番号が付与されるため)。

JGD2000 [ジェイジー ディー ニセン]

「日本測地系 2000」を参照。

JGD2011 [ジェイジー ディー ニセンジュウイチ]

「日本測地系 2011」を参照。

JMP [ジェイ エム ピー]

Japan Metadata Profile の略。

地理情報のメタデータの国際標準規格である

ISO19115 に準拠して作成された日本版メタデータ プロファイル。

JPGIS [ジェイピー ジー アイ エス]

Japan Profile for Geographic Information Standards の略。

地理情報標準プロファイルを英語で表記したもの。

JSGI [ジェイ エス ジー アイ]

Japanese Standards for Geographic Information の略。

地理情報標準を英語で表記したもの。

KML [ケー エム エル]

地理情報を格納する XML ベースのデータ形式 (拡張子 *.kml)。現在は、OGC が管理する国際標準規格である。

KMZ [ケー エム ゼット]

KML ファイルを ZIP 圧縮した形式 (拡張子 *.kmz)。

Landsat [ランドサット]

土地利用調査や、地質・鉱物学探査、作物や森林評価、地図作成で利用する衛星画像収集のために NASA

(National Aeronautics and Space Administration, アメリカ航空宇宙局) が開発したマルチスペクトルの地球観測衛星。

⇒ マルチスペクトル画像

LAS [ラス]

LIDAR で得られた情報を保持する業界標準のバイナリファイル形式。

⇒ LAS データセット

LAS データセット [ラス データセット] ㊤

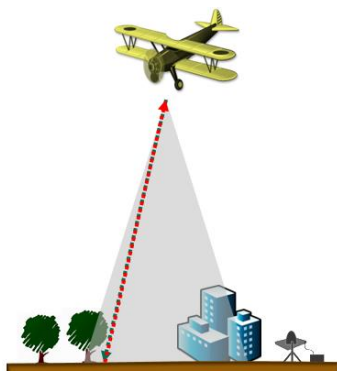
LAS ファイルをそのまま参照して作成される地理データセット。

⇒ LIDAR

LIDAR [ライダー]

Light Detection And Ranging の略。

レーザー光線を使用して、対象物に関する情報（距離や性質など）を高密度で取得し、極めて精度の高い X、Y、Z 計測値を生成するリモート センシング技術。



M 値 [エム 値] ①

ライン フィーチャの頂点に付加される、ラインの起点からの累計距離の値。「メジャー値」とも呼ばれる。

⇒ [リニア リファレンス](#)

Maplex [マップレックス] ①

「[Maplex ラベル エンジン](#)」を参照。

Maplex ラベル エンジン [マップレックス ラベル エンジン (Label Engine)] ①

[ラベルリング](#)を行う仕組み(ラベル エンジン)のひとつ。
[標準ラベル エンジン](#)に比べて、ラベルを配置するためのより高度で豊富な機能を提供する。

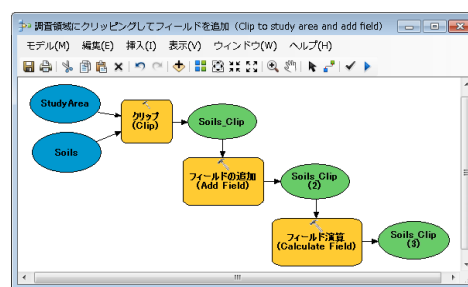
MMS [エム エム イス]

Mobile Mapping System の略。

自動車に 3 次元レーザー スキャナー、GPS、デジタルカメラなどを積載し、走行しながら道路やその周辺の画像データや 3 次元データを取得するシステム。

ModelBuilder [モデルビルダー] ①

ArcGIS でモデルを構築および編集するために使用するインタフェース。



MODIS [モーディス]

MODerate resolution Imaging Spectroradiometer の略。

中分解能撮像分光放射計。地球を周回する NASA の二つの衛星である、Terra と Aqua に搭載されている光学センサーの名称である。これらの MODIS が搭載された衛星は、地球全体のさまざまな波長や解像度の画像をわずかに二日ほどで記録する。

MXD [エム イクス ディー] ①

「[マップ ドキュメント](#)」を参照。

NaN [ナン]

Not A Number の略。

数値ではないこと。

Natural Neighbor [ナチュラル ネイバー] ①

[ドローネ三角形分割法](#)を使用した多変量データの内挿手法。内挿されるポイントの値は、三角形の最も近い周辺ポイントのウェイト値に基づいて推定される。

⇒ [IDW](#)、[クリギング](#)、[スプライン](#)



NDVI [エヌ ディー ビイ アイ]

Normalized Difference Vegetation Index の略。

NDVI (正規化植生指数) は植生の活性度を表す指標とされ、[マルチスペクトル センサー](#)で取得された画像の可視の赤 (R) と近赤外 (IR) の 2 つのバンドから算出される。

NetCDF [ネットシーデーエフ]

Network Common Data Form の略。

配列形式のデータとそのメタデータを格納したファイル形式。気温、湿度、気圧、風速、風向などの複数の科学データを表すための標準手法として、さまざまな国の多くの組織や科学者団体によって採用されている。

NITF [エヌアイティーエフ]

National Imagery Transmission Format の略。

NITF Standard Technical Board により仕様が定義されたデータ形式のこと。画像、メタデータ情報や注記の情報などを一つのファイルに格納したデータ。

NoData [ノーデータ]

ラスタデータのセルに値が記録されていない状態。

NoData は、数値の 0 とは異なる。

⇒ NULL 値

NULL 値 [ヌルチ]

属性に値が記録されていない状態。NULL は数値の 0 とは異なる。

⇒ NoData

NULL 制約 [ヌルセイヤク]

テーブルの列に定義する制約で、定義された列の値には NULL 値を設定できない。

ObjectID [オブジェクトアイディー] ①

ArcGIS において、レコードまたはフィーチャを一意的に識別するための管理用の ID。

OD コスト マトリックス [オーディー コスト マトリックス(Cost Matrix)] ①

OD は、Origin-Destination の略。

ArcGIS Network Analyst エクステンションにおいて、複数の起点から複数の終点までのネットワークに沿った 最小コスト パスを検出してテーブルを生成する解析。また、起点から各終点へ移動するためのネットワーク コストの昇順で、終点をランク付けする。

		目的地			
		A	B	C	D
起点	A	0	5	7	8
	B	5	0	14	11
	C	7	14	0	2.0

OGC [オージーシー]

Open Geospatial Consortium の略。

オープンな地理空間/位置情報サービス仕様を開発するための企業、政府機関、大学からなる国際的なコンソーシアム。OGC 仕様によって定義されたインタフェースとプロトコルは相互運用性をサポートする。

OGC/ISO Simple Features [オージーシー/アイエスオー シンプル フィーチャーズ]

OGC および ISO (International Organization for Standardization/国際標準化機構) によって定義された、主に 2 次元の基本的な空間データ (ポイント、ライン、ポリゴン) の格納方法およびアクセス方式の標準規格。

OLE DB プロバイダ [オーエルイーディービー プロバイダ (Provider)]

Object Linking and Embedding DataBase プロバイダの略。

アプリケーション間でデータを共有するための OLE 標準に準拠しているコンポーネント。ArcGIS では、OLE DB プロバイダを利用することで、OLE DB をサポートしている任意のデータベースにアクセスすることができる。

PMF [ピーエムエフ] ①

Published Map File の略。

ArcGIS Publisher エクステンションを使用して、ArcReader で読み込める形式に出力されたファイル (拡張子 *.pmf)。

PRJ [ピーアールジェー] ①

データの座標系の定義情報が記述されたテキスト ファイル (拡張子 *.prj)。シェープファイルでは、PRJ ファイルに座標系の情報を保持する。

Python [パイソン]

オープンソースの汎用スクリプト言語の 1 つで、ArcGIS では主に一連の処理を自動化するために使用される。

⇒ [ArcPy](#)

RDBMS [アール ディー बी エム イス]

Relational Database Management System の略。

1 つ以上のテーブル間で編成されているデータベースの種類。これらのテーブルは、キーと呼ばれる共通フィールドを通じて互に関連付けられる。

RMS エラー [アール エム イス エラー(Error)]

RMS は、Root Mean Square (二乗平均平方根) の略。既知の位置とデジタイズまたは補間された位置との間における誤差の測定値。

⇒ [コントロール ポイント](#)、[ジオリファレンス](#)

SDC [エス ディー シー] ④

Smart Data Compression の略。

ジオメトリ (ポイント、ライン、ポリゴン) と属性データを保存できる、高密度に圧縮された読み取り専用の Esri 社のデータ形式。

SDE ユーザ [エス ディー イー ユーザ(User)] ④

[ArcSDE](#) で使用される DBMS アカウント。SDE ユーザが [ArcSDE](#) ジオデータベースと [ArcSDE](#) サービスを構成および管理するためには、高度なデータベース権限が必要である。

SIMA [シーマ]

Surveying Instruments Manufacturers' Association の略。

測量データ共通フォーマットのこと。日本測量機器工業会が標準化を行ったテキスト形式の測量データのフォーマットである。

SPOT [スポット]

Satellite Pour l'Observation de la Terre の略。

フランスの政府機関である Centre National d'Etudes Spatiales (CNES、フランス国立宇宙研究センター) によって開発された地球観測衛星。SPOT 衛星によって撮影された高解像度画像は、自然資源管理、気候学、海洋学、環境モニタリング、人間活動のモニタリングなどに活用されている。

SQL [エス キュー エル]

Structured Query Language の略。

[RDBMS](#) のデータを取得および操作するための業界標準のクエリ言語。

SU [エス ユー] ④

Single Use の略。

「[単独使用ライセンス](#)」を参照。

SXF [エス イックス エフ]

Scadec data eXchange Format の略。

[CAD](#) データ交換標準コンソーシアムが策定した CAD データ交換標準仕様。

TIN [ティン] ④

Triangulated Irregular Network の略。

地理空間を、隙間なくかつ重ならない三角形に分割するベクタ データ構造。各三角形の頂点は、X 値、Y 値、Z 値を持ち、ドローネ三角形を形成するラインによって接続される。TIN は、サーフェス モデルの格納と表示に使用され、[ArcGIS 3D Analyst](#) エクステンションを使用して作成することができる。

⇒ [ドローネ三角形分割法](#)



UTM [ユー ティー エム]

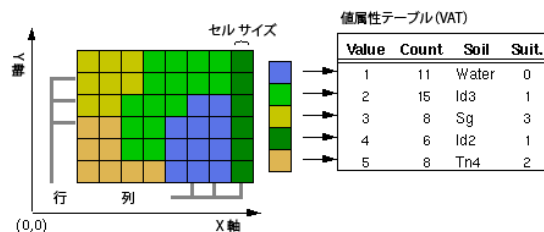
Universal Transverse Mercator の略。

日本語では「ユニバーサル横メルカトル」と呼ぶ。地球を経度で 6 度単位に（合計 60 ゾーン）に分割し、そのゾーンごとに横メルカトル図法を適用する地図投影法。

VAT [バイ エー テー] ㊤

Value Attribute Table の略。

Esri Grid の属性が含まれているテーブル。グリッドの属性には、ユーザ定義の属性、グリッドのセルに割り当てられた値、値が割り当てられているセルの数などがある。



VPF [バイピー エフ]

Vector Product Format の略。

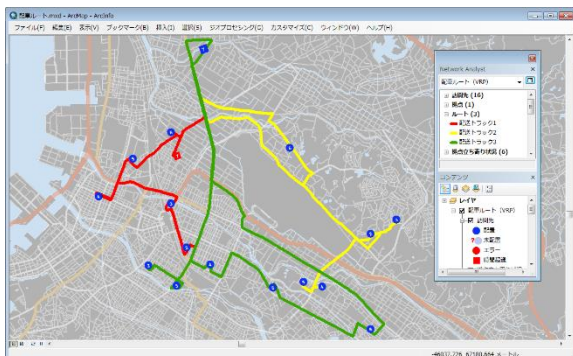
既定の基準に従って地理データを構造化し、格納し、アクセスするためのデータ形式。

VRP [バイアールピー] ㊤

Vehicle Routing Problem の略。

ArcGIS Network Analyst エクステンションのネットワーク解析機能の 1 つ。機能の名称は「配車ルート (VRP)」。複数のトラックを使用して配送をする際に、訪問時間の指定やトラックの最大容積量などの制約を考慮しながら最適な配送計画を立てることができる。

⇒ ルート解析



WCS [ダブルユー シー エス]

Web Coverage Service の略。

OGC が定める、インターネット上でラスタ データセットを共有するためのインタフェース仕様。WCS サービスは、解析やモデリングの入力として使用できる。

⇒ WMS、WFS、WMTS

Web マップ [ウェブ マップ(Map)] ㊤

ArcGIS Online 上に定義および保存されたマップ。さまざまな GIS サービスをレイヤとして参照し、そのシンボルや表示範囲などを定義することでマップとして保存および共有することができる。共有されたマップはデスクトップ アプリケーションからモバイルまで多様なプラットフォームで表示することが可能であり、利用環境に依存せずに一貫した表現と品質で情報を共有することができる。

Web メルカトル [ウェブ メルカトル(Mercator)]

Web アプリケーションで一般的に利用される地図投影法の 1 つ。この投影法を使用することで地球全体を正方形領域に当てはめて、256 x 256 ピクセルのタイルで覆うことができる。

WFS [ダブルユー エフ エス]

OGC が定める、インターネット上で地図表示とデータ操作を標準化するインタフェース仕様のひとつ。フィーチャのジオメトリや属性情報を Web 経由で提供するための仕様。

⇒ WMS、WMTS、WCS

WGS 1984 [ダブルユー ジー エス イチキュウハチヨン]

「WGS84」を参照。

WGS84 [ダブルユー ジー エス ハチジュウヨン]

World Geodetic System 1984 の略。

米国国防総省によって WGS72 の後継仕様として規定された、最も普及している測地基準系。GPS の計測値は WGS84 に基づく。

⇒ 世界測地系

WKB [ダブルユー ケー ビー]

Well-Known Binary の略。

OGC の Simple Features 仕様の一部であり、XY 座標を使用してポイント フィーチャ、ライン フィーチャ、ポリゴン フィーチャのシンプルな格納モデルを実装したもの。ジオメトリの座標値の汎用的な表現が、連続的なバイト ストリームとして提供される。

⇒ [OGC/ISO Simple Features](#)、[WKT](#)

WKID [ダブルユー ケー アイディー] ①

Well Known ID の略。

各座標系に割り当てられている ID。[EPSG ID](#) をベースとしているが、Esri 社が追加で割り当てた ID も含まれる。

WKT [ダブルユー ケー ティー]

Well-Known Text の略。

OGC の Simple Features 仕様の一部であり、XY 座標を使用してポイント フィーチャ、ライン フィーチャ、ポリゴン フィーチャのシンプルな格納モデルを実装したもの。ジオメトリの座標値を標準的なテキスト形式で記述する。また、空間参照系を記述する場合にも使用される。

⇒ [OGC/ISO Simple Features](#)、[WKB](#)

WMS [ダブルユー エム エス]

Web Map Service の略。

OGC が定める、インターネット上で地図表示とデータ操作を標準化するインタフェース仕様のひとつ。

WMS は、地図画像を Web 経由で提供するための仕様。

WMTS [ダブルユー エム ティー エス]

OGC が定める、インターネット上で地図表示とデータ操作を標準化するインタフェース仕様のひとつ。キャッシュされたタイル画像を Web 経由で提供するための仕様。

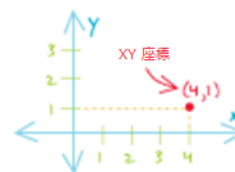
⇒ [WMS](#)、[WFS](#)、[WCS](#)

World Geocoding Service [ワールド ジオコーディング サービス] ①

[ArcGIS Online](#) が提供する、住所や地名からジオコーディングを行うためのクラウド サービス。

XY 座標 [エックス ワイ ザコウ]

原点 (0,0) からの水平軸 (X) と垂直軸 (Y) の 2 つの軸に沿った距離を表す値の組み。地図上では、XY 座標は地球の球面上の地物を表すために使用される。



X、Y 値 [エックス ワイ チ]

「[XY 座標](#)」を参照。

XData [エックス データ]

AutoCAD のドローイング エlementに関連付けられるオプション データ。

XY イベント [エックス ワイ イベント(Event)] ①

XY 座標値（例：緯度と経度）から動的に生成されたポイント フィーチャ。

XY 許容値 [エックス ワイ キョウチ] ①

フィーチャクラスに定義される値。空間的な演算処理において座標間の最短距離を設定するために使用される。デフォルトは地表単位で 0.001 メートル。ジオメトリ操作を使用してフィーチャクラスを処理する際、互いの X 方向の距離と Y 方向の距離が XY 許容値の範囲内にある座標は、同一（つまり、同じ X、Y 位置を共有している）とみなされる。

XY 座標精度 [エックス ワイ ザコウセイド] ①

「[座標精度](#)」を参照。

Z スコア [ゼット スコア(Score)]

値が平均からどれくらい外れているかを示す統計的な尺度。標準偏差の単位で表される。平均値の Z スコアはゼロであり、標準偏差 (σ) は 1 である。Z スコアは、平均値と標準偏差が異なるさまざまな分布を比較できる共通の尺度である。

⇒ 標準偏差

Z 許容値 [ゼット キョウウチ] ④

空間処理における Z 座標間の最短距離の値。処理の際、2 つの Z 座標の距離が Z 許容値の範囲内にある座標は、同一とみなされる。

Z 座標 [ゼット サコウ] ④

「Z 値」を参照。

Z 値 [ゼット チ] ④

1. ジオメトリの頂点の高さを表す値
2. ラスタ、TIN、テレイン、LAS データセットなどのサーフェスにおいて、特定の属性の量や密度（例：標高、大気汚染物質の濃度）を Z 軸に表した値。



Z 値の倍率 [ゼット チバイルツ] ④

垂直方向および水平方向の計測値を同じ計測単位に合わせるための変換係数。具体的には、水平方向の単位あたりの垂直方向の単位 (Z 単位) の数を指す。たとえば、サーフェスの水平方向の単位がメートルで、高さ (Z) がフィートの場合、Z 値の倍率は 0.3048 (1 フィートあたりのメートル数) である。

アクティブ データ フレーム [Active Data Frame] (A)

ArcMap で現在作業中のデータ フレーム。アクティブ なデータ フレームの名前はコンテンツ ウィンドウに太字で表示される。

アジャスト [Adjust] (A)

ベクタ データの位置合わせや補正を対話形式で行うことができる、ArcMap が提供する編集ツール群。

⇒ 射影変換、エッジ マッチ、ラバーシート

アタッチメント [Attachment] (A)

ジオデータベースのフィーチャクラスにおいて、個々のフィーチャに関連付けた添付データ（画像、PDF、テキスト文書など）をジオデータベース内に保存したもの。

1 つのフィーチャに複数のアタッチメントに関連付けることができる。アタッチメントは、ArcGIS for Desktop の Standard および Advanced ライセンスで作成することができる。

アドイン [Add-in]

既存ソフトウェアに付加する拡張機能やプログラム。

ArcGIS for Desktop の開発キットでは、アドインを開発するため仕組みを提供している。

アドレス マッチング [Address Matching]

住所または住所のテーブルを参照データセットの住所属性と比較して、特定の住所が参照データセットの地物に関連付けられた住所範囲に含まれているかどうかを判断するプロセス。地物の住所範囲に含まれている住所は一致すると見なされ、位置情報が返される。

⇒ ジオコーディング

アニメーション [Animation] (A)

1 つのオブジェクト（1 つのレイヤなど）または一連のオブジェクト（複数のレイヤなど）のプロパティの変化を視覚化したもの。視点の変化、時系列による変化などを表現するのに使用される。

アニメーション マネージャ [Animation Manager] (A)

ArcMap、ArcScene、および ArcGlobe において、アニメーションのキーフレーム、トラック、時系列プロパティを編集し、アニメーションをプレビューするためのインタフェース。

アノテーション [Annotation] (A)

ArcGIS のマップ上で個別に選択、配置、プロパティの変更が可能な注記テキスト。アノテーションは、ユーザーが手動で入力するか、ラベルから自動的に生成できる。アノテーションの格納先として、ジオデータベースとマップ ドキュメントの 2 種類がある。

⇒ 標準アノテーション、フィーチャリンク アノテーション



アフィン変換 [Affine Transformation]

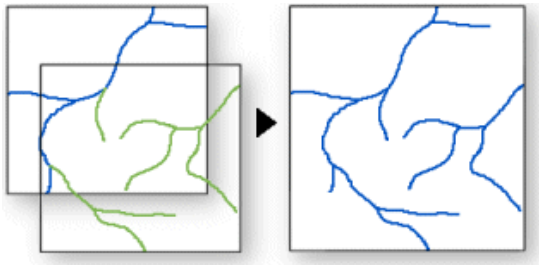
任意の 2 つのユークリッド空間で画像または座標を拡大/縮小、回転、傾斜、平行移動する地理座標変換。GIS では、一般に、マップをある座標系から別の座標系へ変換するとき使用される。アフィン変換では、平行なラインは平行に、線分の中点は中点に、直線上のポイントはすべて直線上に保たれる。



アペンド [Append] ①

既存のデータセットに同じジオメトリ タイプ(ポイント、ライン、ポリゴン) の複数のデータ ソースのフィーチャを追加するジオプロセッシング ツール。

⇒ マージ



アンダーシュート [Undershoot] ①

別のラインと接続するには長さが足りないライン。

⇒ オーバーシュート、ダングル



アンチエイリアス [Anti-aliasing]

コンピュータで画像を表示する場合や画像を作成する場合にピクセルのギザギザ(ジャギー)を目立たなくする技法。斜め線や曲線の境界の色を調整し、ジャギーを軽減する。

一意識別子

ある要素の集合において、集合からそれぞれの要素を一意に識別するために使用できる値。ArcGIS ではジオデータベースに格納されたフィーチャクラスのフィーチャやテーブルのレコードを一意に識別するために、一意識別子として ObjectID 列が自動的に作成され、各フィーチャもしくはレコードは一意の ObjectID 値を持つ。

一意性制約

テーブルの列に定義する制約で、定義された列の値はそれぞれ一意でなければならず、他の行に同じ値が含まれてはならない。

一方向レプリケーション [One-way Replication] ①

親から子レプリカ、または子から親レプリカへデータ変更を複数回送信できるジオデータベース レプリケーション。

緯度

赤道の北または南の子午線に沿って計測された角距離(通常は度)。

⇒ 経度

移動抑制許容値 ①

ArcMap での編集時に、選択したフィーチャを実際に移動するためには、画面上でポイントを移動しなければならないが、この値を設定しておくでポイントを指定の距離以上移動させるまで、選択したフィーチャは移動しない。フィーチャ選択時に意図せずに移動しないようにする設定。

移動リンク [Displacement Link] ①

ArcGIS において、アジャスト処理の移動元と移動先の座標を定義するために作成されたリンク。リンクは、移動先の方向を向いた矢印として表される。

イベント [Event] ①

テーブルに格納されている数値データ(例: XY 座標)を動的にマップ上に表示したオブジェクト。

イベント テーブル [Event Table] ①

イベントの情報が格納されたテーブル。

イメージ [Image]

一般に、カメラなどの光学的または電子的なデバイスによって生成される画像データのこと。例としては、リモート センシング データ(衛星データなど)、スキャン データ、写真などが挙げられる。

⇒ ラスタ

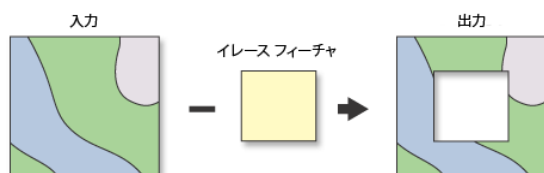
イメージ サービス [Image Service] ①

ArcGIS Image Extension for Server により公開される画像サービス。マップ サービスと異なり、画像の属性情報を閲覧できたり、画像解析ウィンドウやジオプロセシングの入力データとして使用できる。

イレース [Erase] ①

入力データにポリゴン フィーチャを重ね合わせて、ポリゴン フィーチャに重なる部分を切り抜いたフィーチャを出力する処理。ジオプロセシング ツールのオーバーレイ解析機能の 1 つ (ArcGIS for Desktop の Advanced ライセンスで利用可能)。

⇒ インターセクト、ユニオン



陰影起伏 ①

地形データに対して光源の位置や角度を設定し、地表面の照度や陰影をシミュレートすることで地形の起伏を表現したマップ。ArcMap の画像解析ウィンドウや ArcGIS Spatial Analyst エクステンションおよび ArcGIS 3D Analyst エクステンションのジオプロセシング ツールで作成できる。



インシデント [Incident] ①

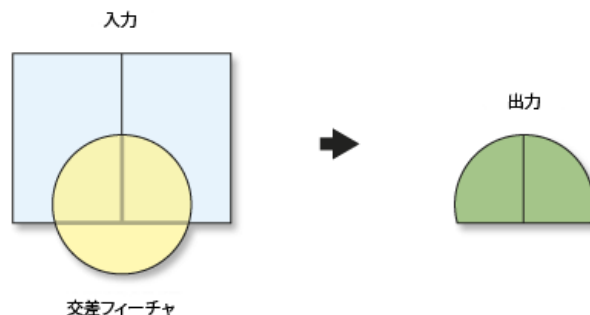
ネットワーク解析において、最寄り施設の解析に使用されるネットワーク ロケーション。インシデントの例としては、自動車事故、犯罪現場、火災現場などが挙げられる。

⇒ 最寄り施設解析

インターセクト [Intersect] ①

複数の入力データを重ね合わせて、すべての入力データに共通のフィーチャまたはフィーチャの部分を入力する処理。ジオプロセシング ツールのオーバーレイ解析機能の 1 つ。

⇒ ユニオン、イレース



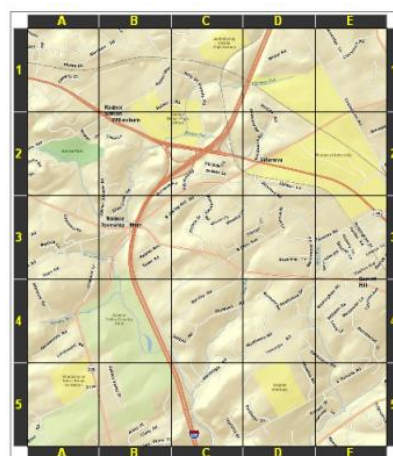
インターフェログラム [Interferogram] ①

近くの 2 つのアンテナによって取得された干渉縞を記録したレーダー画像。

インデックス格子線 [Reference Grid] ①

指定した数で等間隔に区切られた網目状の水平線および垂直線。インデックス格子線はページ レイアウト内に配置される。

⇒ 方眼格子線



インピーダンス [Impedance] ④

ネットワーク解析において、ネットワークのあるエレメントから別のエレメントへ移動するために必要な抵抗量（コスト）の尺度。移動距離、移動時間、移動速度を距離などで乗じた値が抵抗の尺度になる場合もある。インピーダンス値が高ければ、それだけ移動に多くの抵抗がかかり、0 の値は抵抗がかからないことを意味する。最適なネットワーク パスはインピーダンスが最小のパスであり、「最小コスト パス」と呼ばれる。

⇒ ネットワーク エレメント

インピーダンス モデル [Impedance Model] ④

最も抵抗の少ない道を見つけることで最適ルートを決めるルート解析モデルのこと。

⇒ インピーダンス

ウェイト [Weight] ④

1. 特定の演算における変数の重要度を示す数値。重みとも言う。変数に割り当てられているウェイトが大きいほど、その変数の計算結果への影響が大きくなる。
2. ネットワーク解析において、ネットワーク上のあるエレメントから別のエレメントへ移動するために必要な抵抗量（トラバース コスト）の割り当てやエレメントの定義に使用される、ネットワーク エレメントのプロパティ。ウェイトは、各ネットワーク フィーチャの属性に基づいて計算される。

ウェイト フィルタ [Weight Filter] ④

ジオメトリック ネットワークにおいて、ネットワーク フィーチャのウェイト値に基づいて、トレース可能なネットワーク フィーチャを指定すること。

⇒ ネットワーク トレース

ウェーブレット圧縮 [Wavelet Compression]

数学関数を使用した非可逆のデータ圧縮方式。画像や音声の圧縮に使用される。

埋め込みフィーチャクラス [Embedded Feature Class] ④

トレイン データセットの中に埋め込まれたマルチポイント フィーチャクラス。データセットの中に直接属性がコピーされ、トレインの構築後、埋め込みフィーチャにポイントが格納されるため、ソース フィーチャクラスは参照されなくなる。埋め込みフィーチャクラスは、LIDAR データなどの大量点群データの容量を削減するのに適している。

衛星測位システム

地球上の位置を測定するために使用されるシステム。周回軌道衛星と地球上の任意の場所にあるレシーバとの三角測量により位置が算出される。

⇒ GPS、GLONASS、準天頂衛星システム

エイリアス [Alias] ④

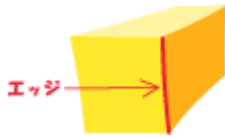
フィーチャクラス、テーブル、フィールドに対して指定される、実際の名前よりもわかりやすい別名。

エクステンション [Extension] ④

ArcGIS において、専門的なツールと機能を追加するオプションのソフトウェア。ArcGIS Spatial Analyst、ArcGIS Network Analyst、ArcGIS 3D Analyst などがある。

エッジ [Edge] ①

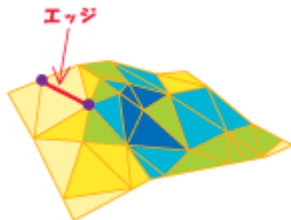
1. 境界を形成する 2 つのポイント間を結ぶライン。図形のエッジは 2 つの面の間の境界を形成する。トポロジにおいては、ラインまたはポリゴンの境界を定義する。



2. イメージの異なる色のエリアを分割する線。
3. ネットワーク データセットにおいて、物や人や交通が流通するライン フィーチャ。例としては、輸送網の道路や下水道管が挙げられる。ジオメトリック ネットワークには、シンプル エッジまたはコンプレックス エッジの 2 種類のネットワーク エッジがある。

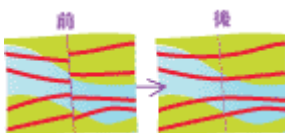


4. TIN データ モデルのノード（サンプル データ ポイント）間の線分。エッジには、それらが区切るフェイスに関するトポロジ情報が格納される。



エッジ マッチ [Edge Match] ①

ある範囲の端にあるフィーチャの端点を隣接範囲の対応するフィーチャの端点に一致させる処理。アジャストの補正方法の 1 つ。



エッジ-エッジ ルール [Edge-Edge Rule] ①

ジオメトリック ネットワークにおいて、ジャンクションを介してエッジとエッジを接続する方法を定義する接続性ルール。

⇒ エッジ-ジャンクション ルール

エッジ強調 [Edge Enhancement]

画像内のエッジやラインを強調する画像処理技術。

エッジ-ジャンクション ルール [Edge-Junction Rule]

①

ジオメトリック ネットワークにおいて、エッジをジャンクションに接続する方法を定義する接続性ルール。

⇒ エッジ-エッジ ルール

エッジ-ジャンクション基数 [Edge-Junction Cardinality]

①

ネットワークの接続性リレーションシップにおいて、1 つのジャンクションに接続できるエッジの数。

⇒ 接続性ルール、エッジ-ジャンクション ルール

エッジ抽出 [Edge Detection]

ピクセル値の急激な変化を調べることでにより画像内のエッジを抽出する画像処理技術。

エバリュエータ [Evaluator] ①

ネットワーク データセットのネットワーク エlementの属性値を決定する関数。たとえば、車高規制をモデリングする属性は、関数エバリュエータを使用して、道路の高さ制限を属性パラメータに格納されている車両の実際の高さと比較することができる。

エフェメリス [Ephemeris]

衛星自身の正確な軌道情報のこと。衛星の正確な位置情報そのものを表す。

エリア [Area]

境界線にまたは連続するラスタ セルによって定義される 2 次元の閉じた領域。面積のことを指すこともある。

⇒ ポリゴン

円弧

2 つの点の間を結び、円の一部分である曲線。



円錐図法

回転楕円体または球体上の点を接円錐または割円錐上に投影する地図投影法。地球にとんがり帽子を被せるように投影し、投影後、円錐を切り開いて、平面地図として展開する。

エンタープライズ GIS [エンタープライズ (Enterprise) ジーアイエス]

組織全体に統合された地理情報システム。大勢のユーザが、データの作成、変更、表現、解析、配布を含め、さまざまなニーズに対処するための空間データと関連情報の使用、管理、共有を行うことができる。

エンタープライズ ジオデータベース [Enterprise Geodatabase] (A)

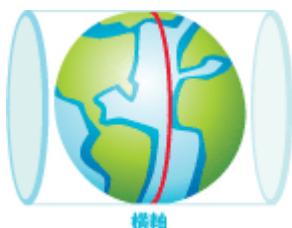
「マルチユーザ ジオデータベース」を参照。

鉛直座標系

ジオイド高の基準となる参照系。

円筒図法

回転楕円体または球体上の点を接円筒または割円筒上に投影する地図投影法。投影後、円筒を切り開いて、平面地図として展開する。



エンベロープ [Envelope] (A)

座標空間において 1 つ以上のフィーチャを囲む四角形。X、Y 方向の最小座標と最大座標の範囲によって決定される。

エンベロープ



オーバーシュート [Overshoot] (A)

別のラインとの交点から飛び出したライン部分。

⇒ ダングル



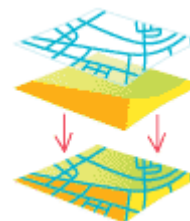
オーバーライド [Override] (A)

1. ArcGIS での、リプレゼンテーション ルールのプロパティへの例外。フィーチャを、同じルールを共有する他のフィーチャとは異なる方法で描画する。
2. ネットワーク データセットのジャンクションの接続性ポリシーの 1 つ。

オーバーレイ [Overlay] (A)

1. 位置的に重なりあう複数の空間データ（レイヤ）を重ね合わせて表示すること。
2. 複数の空間データ（レイヤ）を重ね合わせ、重なり合う部分において結合、削除、変更、または更新して、新しいデータを生成すること。

⇒ インターセクト、ユニオン、イレース



オブジェクト クラス [Object Class] ④

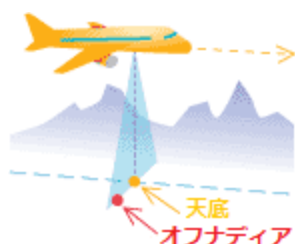
ジオデータベース内の、非空間オブジェクトのこと。ジオデータベースにおいて、空間オブジェクトはフィーチャクラスに格納され、テーブルなどの非空間オブジェクトはオブジェクト クラスに格納される。

⇒ フィーチャクラス

オフナディア [Off-nadir]

スキャナー探知機の真下ではなく、少しずれたところにあるポイントのこと。

⇒ 天底、天頂



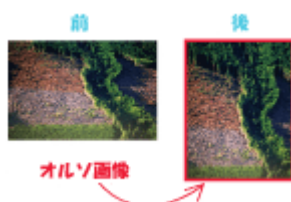
親レプリカ [Parent Replica] ④

ジオデータベース レプリケーションにおいて、複製元となるジオデータベースのデータ。

⇒ レプリカ

オルソ画像 [Ortho Image]

衛星画像や航空写真を歪みのない画像に変換し、正しい位置情報を付与した画像。



オルソ幾何補正 [Ortho Correction]

DEM を関連づけることによって、衛星画像や航空写真に含まれる地形による歪み・センサーの姿勢・センサーの内部特性による地理的な誤差を取り除き、修正する幾何補正のひとつ。

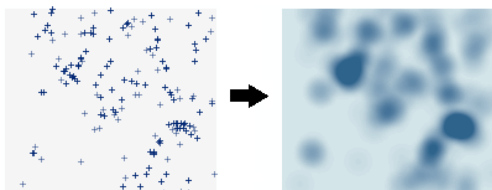
カートグラフィ [Cartography]

地球の自然および社会的な事象について地図を通して視覚的に表現する人文科学。

カーネル密度 [Kernel Density] ①

カーネル関数に基づいて、あるエリアにおけるポイントまたはラインの分布や影響の大きさの密度を算出する処理。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションの機能の 1 つ。

⇒ 密度解析



概観図 ①

別の地図の表示範囲を枠などで表示した小縮尺の地図。

街区

道路や河川などに囲まれたひとまとまりの土地（区画）の位置を表す表記方法の一つ。住所の表記において、「〇町△丁目□番」までを表したものを街区単位という。

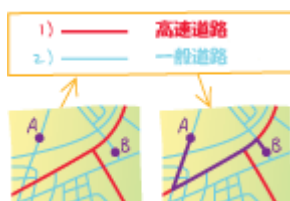
⇒ アドレスマッチング、ジオコーディング

解析範囲 ①

空間解析の対象となる地理的な境界領域。境界領域は対角上の XY 座標（通常は結果の左下隅と右上隅）を定義することによって設定される。

階層 ①

ネットワーク データセット内のネットワーク エレメントのネットワーク属性の 1 つ。ネットワーク エレメントに優先順位を割り当てることが可能。たとえば、一般道路よりも高速道路を優先することができる。



外挿

ある特定の範囲内の既存データから、範囲外の値を予測すること。

⇒ 内挿

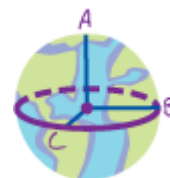
解像度

画像データにおける詳細さをあらわし、解像度が高くなるほど 1 ピクセルのサイズが小さくなり詳細になる。たとえば、50cm 解像度の衛星画像の場合、画像の 1 ピクセルが実世界では 50cm の長さとなる。

回転楕円体

1. 楕円において軸を中心に一回転すると得られる立体。短軸を中心に一回転した場合は扁球が得られ、長軸を中心に一回転した場合は長球が得られる。
2. 地球を表すために使用される場合は、短軸を中心に楕円を回転することによって作成される立体であり、ほぼ地球全体の大きさか、ジオイドに該当する部分にほぼ相当する。

⇒ 地球楕円体



外部キー [Foreign Key]

別のテーブルの主キーと一致するテーブルの属性または属性の組み合わせ。外部キーと主キーはデータベースでのテーブルの結合に使用される。

ガウス-クリューゲル図法 [Gauss-Krüger Projection]

横メルカトル図法の一つであり、回転楕円体から投影を行う地図投影法。主にヨーロッパやアジアで使用され、日本では平面直角座標系で採用されている。

拡張 DM [カクチョウ ディー エム]

「DM データファイル仕様について、デジタルマッピング取得分類基準を明確にし、かつ、応用測量成果等を含める形で拡張したデータファイル仕様のこと。」^[3]

角度単位

球体または回転楕円体の計測単位（通常は度）。中央子午線、標準緯線などの地図投影パラメータは角度単位で定義される。

⇒ 線形単位

加重オーバーレイ [Weighted Overlay] ①

複数のラスタを結合するオーバーレイ手法のひとつ。各ラスタに重みづけし、セルの値を足し合わせることで総合的な評価を行う。適地選定に利用されることが多い。

⇒ ウェイト

可視領域 ①

1 つ以上の指定されたポイントまたはラインから見たことが可能な領域。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションおよび ArcGIS 3D Analyst エクステンションのジオプロセシング ツールで作成できる。



画像解析ウィンドウ [Image Analysis Window] ①

ArcMap での画像とラスタ データの解析と活用を効率的に行うため、よく使用される表示機能と処理機能を集約したウィンドウ。

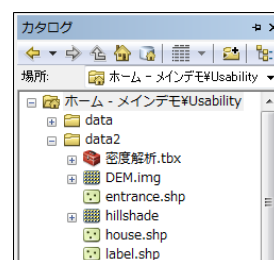


画像強調

イメージやラスタに特定の処理を施すことで、画質や可用性を向上させること。このような処理には、コントラスト、ストレッチ、エッジ強調、フィルタリング、スムージング、シャープニング等が含まれる。

カタログ ウィンドウ [Catalog Window] ①

ArcGIS for Desktop でのデータの整理と管理に利用するウィンドウ。GIS データやフォルダがツリー ビューで表示される。



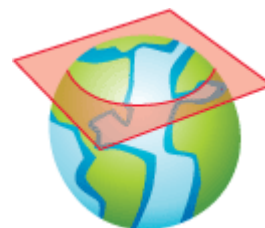
カタログ ツリー [Catalog Tree] ①

ArcCatalog、またはカタログ ウィンドウでのフォルダ、データベース、サーバへの接続を階層で表示したもの。ローカル ディスクに保存されている GIS データやネットワーク上で共有されている GIS データへのアクセスや管理を行うことができる。

割図法

投影面が地表面と交差する地図投影法。たとえば、割円錐図法または割円筒図法の場合、投影面は地球の地下に潜り込み、2 つの円で交差する。割線の位置では、ひずみは生じない。

⇒ 地図投影、接図法

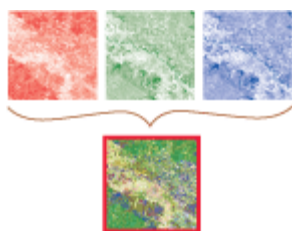


カバレッジ [Coverage] (A)

ArcInfo Workstation のベクタ データ モデル。空間データと属性データから構成されており、トポロジ情報を保持することができる。「ArcInfo カバレッジ」とも呼ばれる。

カラー コンポジット [Color Composite]

マルチスペクトル画像の単色バンドに赤色、緑色、青色を割り当て、カラー合成した画像。



カラー マップ [Color Map] (A)

特定の色に関連付けられた一連の値。

カラーマップ画像の表

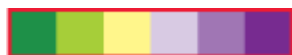
1	5	3	2	2	4
5	2	4	2	5	1
5	5	5	5	3	3
2	1	2	4	1	3
4	4	4	1	1	3
2	4	2	1	3	3

カラーマップ

	Red	Green	Blue
1	255	255	0
2	64	0	128
3	255	32	32
4	0	255	0
5	0	0	255

カラー ランプ [Color Ramp]

ある範囲の値を持つデータに対して、その値の高低（大小）を表現するために適用させる色のグループ。



関数チェーン [Function Chain] (A)

ラスタ データセットに適用される一連の処理の関数を順番に並べたもの。

ガンマ補正 [Gamma Correction]

通常、入力データとディスプレイ等の出力値の間には指数関数的な特性が現れ、この指数パラメータをガンマ値と呼ぶが、この値を調整することで表示輝度値のひずみを除去する画像処理。

キーフレーム [Key Frame] (A)

アニメーションの基本的な構成要素。レイヤに適用された透過表示やカメラの角度など、アニメーションのある時点でのオブジェクト プロパティのスナップショットを表す。

幾何補正

位置座標を持たないデータ（主に画像）に正確な地図上の位置を与え、歪みなどを補正すること。

⇒ オルソ幾何補正、ジオリファレンス

疑似ノード [Pseudo Node] (A)

2 本だけのラインで共有される共通の端点。



基準縮尺 (A)

シンボルやラベルのサイズがマップ縮尺に適した高さで幅で描画される基準となる縮尺。通常シンボルやラベルはマップの拡大/縮小に関わらず指定したサイズで表示されるが、基準縮尺を設定することで、その縮尺を基準としてマップの拡大/縮小に応じてサイズが拡大または縮小される。

規制 (A)

ネットワーク データセットの通過制限に使用するネットワーク エlement属性。制限の例としては、一方通行、トラック進入禁止、バス専用などがある。解析時に規制を適用したElementの通過を完全に禁止するか、回避するか、あるいは逆に優先するように、特定のElementに規制を関連付けることができる。

基盤地図情報

地理空間情報活用推進基本法により、国土地理院を中心に整備がすすめられた電子地図における位置の基準となる情報。行政区画、道路、標高などのデータがあり、国土地理院の Web サイトでダウンロード提供している。

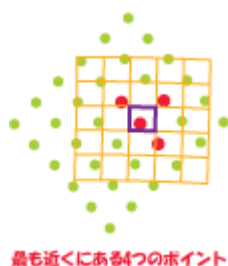
キャリブレーション [Calibration] ④

機器によって計測された精度の高いデータを既存のデータと比較して補正すること。たとえば、ルートの M 値 を既知の計測値に基づいて調整し正確な値にする。

共一次内挿法 ④

最も近くにある 4 個のセルの平均に基づいて、新しいセル値を計算するラスタ データの リサンプリング 手法の 1 つ。最近隣内挿法を使用する場合よりも滑らかな表現になる。

⇒ 三次たみ込み内挿法、最頻値



競合 ④

データベースの編集時に、複数のユーザが同時に 1 つの バージョンを編集するか、2 つのバージョンを リコンサイルしたときに発生する矛盾した状態。同じフィーチャに対して 2 人のユーザが異なる編集を行い、各ユーザの編集を保存しようとした時点で競合が検知される。

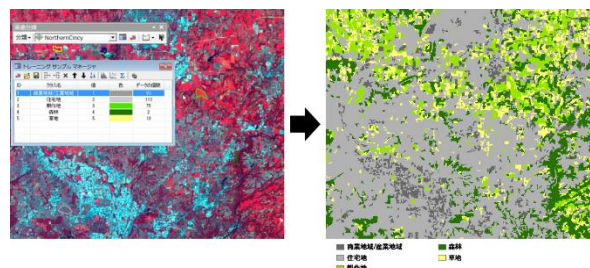
競合の解決 ④

競合を解決するプロセス。ArcGIS では、各フィーチャの状態（編集前、別ユーザの編集、自分の編集）を対話的に選択することができる。

教師付き分類

分類前にあらかじめその場所が何であるか、地物がわかっている場合に、地物の特徴的なデータ（水、人工構造物、植生など）を教師（トレーニング エリア）として画像データを分類する処理。

⇒ 教師無し分類



教師無し分類

画像データのクラス（カテゴリ）を自動的に検出し、主題ごとに分類する処理。

⇒ 教師付き分類

極投影図法

北極または南極のいずれかに中心点を置く地図投影法。



極半径

地球の中心と極点を結んだ長さ。地球を 回転楕円体 と見た場合の短軸。

距離単位

距離の 計測単位（フィート、マイル、メートル、キロメートルなど）。

切り盛り ④

除去（切り）または追加（盛り）により変化した サーフェスの面積と体積を計算すること。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションおよび ArcGIS 3D Analyst エクステンションの機能の 1 つ。

近接解析

フィーチャもしくはラスタのセルからの距離に基づく解析方法。

⇒ バッファ

空間インデックス [Spatial Index] ①

フィーチャクラスに対して、空間検索のパフォーマンスを向上させるために定義する仕組み。

空間解析

空間データの位置情報を利用して、空間的な重なりや位置関係から新たな情報を取得したり関係性を分析したりする手法。

空間結合 ①

2 つのレイヤにあるフィーチャの相対位置に基づいて、一方のレイヤの属性テーブルのフィールドがもう一方のレイヤの属性テーブルに追加される結合手法の 1 つ。

空間検索 ①

位置関係に基づいてフィーチャを検出する手法。たとえば、指定した距離内にある別のレイヤのフィーチャを検出したり、互いに隣接しているフィーチャを検出したりできる。

⇒ 属性検索

空間参照 ①

地理データに格納される座標系と許容値および座標精度。

⇒ XY 許容値、Z 許容値

空間データ [Spatial Data]

XY 座標値で表される地球上の位置に関連付けられた情報と図形の形状に関する情報。

空間データベース [Spatial Database]

大量の空間データがデータベースに格納されたもの。情報を効率的に保存および取得できるように構成された、空間データと関連する属性データの構造化されたコレクション。

空間的自己相関 ①

一連の空間フィーチャの属性値が互いに近い地点同士で似た値を示す傾向がある（正の空間的自己相関）か、空間内で均質に分散している（負の空間的自己相関）か、値の分布に特徴がみられない（ランダム分布）かの度合いを示す尺度。

空間統計

数学的な計算に場所や空間的な関係性（データの距離、面積、体積、長さ、高さ、方向、中心性、またはその他の空間的な特性）を使用する統計の手法。空間統計は、パターンや形状の分析、サーフェスのモデリングや予測、空間データの統計比較、空間的相互作用など、異なるさまざまな種類の分析に利用される。

クエリレイヤ [Query Layer] ①

SQL 文によって定義されたレイヤもしくはテーブル。

SQL 文は ArcMap 内で定義され、その実行結果が動的にレイヤもしくはテーブルとして表示される。クエリレイヤを使用することで RDBMS 内の空間データおよび非空間データを柔軟に結合してレイヤまたはテーブルとして利用することができる。

クラスタ許容値 [Cluster Tolerance] ①

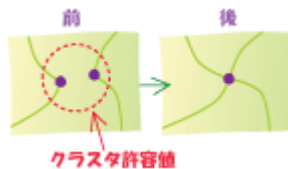
ジオデータベース トポロジの作成時に、一定の距離内にある頂点は同じ位置にあるとみなされクラスタリング処理が実行されるが、その際に指定する距離のこと。

クラスタ分析 [Cluster Analysis]

比較的同質のグループに集団を分割する統計的な分類手法。クラスタ分析は消費者の区分や顧客の位置を求めるためのマーケット分析で頻繁に使用されるが、他の分野でも適用されている。

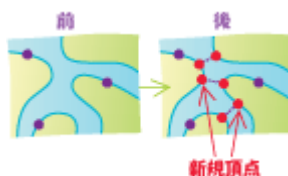
クラスタリング [Clustering] ④

1. 空間データを位置または属性で分類する手法。
2. ジオデータベース トポロジの整合チェック プロセスの一部。クラスタ許容値内にある頂点同士がスナップされる。



クラッキング [Cracking] ④

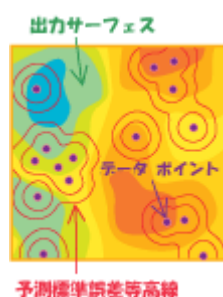
ジオデータベース トポロジの整合チェック プロセスの一部。フィーチャのエッジの交点となる部分に頂点が作成される。



クリギング [Kriging] ④

重み付けされた一連のポイントの計測値からセル値を推定する内挿手法。データの空間的なばらつきがサーフェスにわたって均等であると仮定するように重み付けされる。

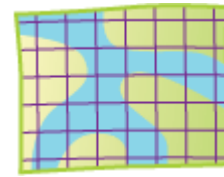
⇒ Natural Neighbor、スプライン



グリッド [Grid] ④

1. マップ上の位置を特定するために使用する、格子状の等間隔の水平線および垂直線。
2. 「Esri Grid」を参照。

⇒ ラスタ

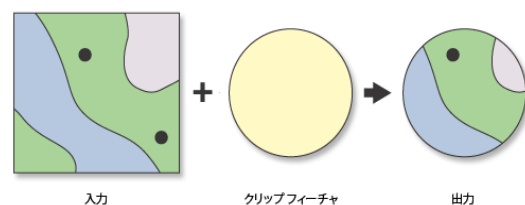


グリッド子午線 [Grid Meridian]

中央子午線に平行な子午線。平面直交座標系の位置を特定する場合に使用される。

クリップ [Clip] ④

フィーチャクラスの 1 つ以上のフィーチャをクッキーの抜き型のように使用して、別のフィーチャクラスの一部を切り抜くこと。



グリニッジ子午線 [Prime Meridian at Greenwich]

1884 年に国際協定によって「本初子午線」として採用された子午線で、他のすべての経度を計算するときの基準になる 0 度の子午線のことをいう。グリニッジ本初子午線は、イギリスのグリニッジにある王立天文台を通る。「現在、国際的に使用されている本初子午線はグリニッジ子午線を継承した IERS 基準子午線であり、およそ 100m 東を通る」。^[4]

⇒ 本初子午線



グループ レイヤ [Group Layer] ①

複数のレイヤを単一のものとして扱うことができるようにグループ化したレイヤ。グループ レイヤにより、レイヤの表示/非表示、高度な描画順序オプションの割り当て、別のマップで使用する際のレイヤの共有をより簡単に行うことができる。

グローブ ドキュメント [Globe Document] ①

ArcGlobe 上で行った各種設定（参照データ、グローブの表示設定など）を保存したファイル（拡張子 *.3dd）。

経緯線

地球の緯度を示す緯線および経度を示す経線を表す線。



計曲線

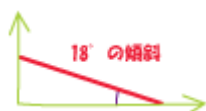
他の等高線より太く描き、標高を示す注記がつけられている等高線のこと。等高線の間隔に基づき、一般的に 5 番目の主曲線ごとに計曲線となる。

⇒ 補助曲線



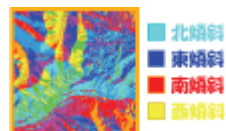
傾斜角 ①

サーフェスの傾きまたは勾配。傾斜角は、傾斜度（0～90、単位：度）または傾斜率（高低差÷距離×100、単位：パーセント）から計測することができる。45 度の傾斜角と 100 パーセントの傾斜角は同じである。TINのフェイスの傾斜角はそのフェイスによって定義される平面の最も急な下り勾配の角度であり、ラスタ内のセルの傾斜角はセルとその周囲の 8 つの近傍によって定義される平面の最も急な角度である。



傾斜方向 ①

地形の斜面の向きを示すコンパスの方向。通常は北からの角度で計測される。傾斜方向は DEM（サーフェス）から生成することができる。たとえば、TIN の フェイスの傾斜方向はそのフェイスの最も急な下り勾配の方向であり、ラスタ内のセルの傾斜方向はセルとその周囲の 8 つの近傍によって定義される平面の最も急な下り勾配の方向である。



計測単位

長さ、面積、高さなど、計測で使用する標準的な数量。

⇒ 角度単位、距離単位、線形単位、表示単位、マップ単位

経度

任意に定義した子午線（通常はグリニッジ子午線）の東側または西側にある地表上の点の角度単位の距離（通常は度、分、秒で表す）。すべての経線は、赤道と交わり、北極軸と南極軸を通過する大円。

⇒ 緯度



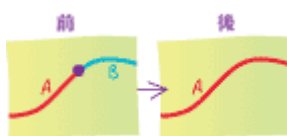
結果ウィンドウ [Results Window] ①

ジオプロセッシング ツールの処理履歴を記録・表示するためのウィンドウ。メッセージや環境設定、入出力データを確認できるほか、履歴から処理を再実行したり、ModelBuilder や Python で使用したりすることもできる。また、ジオプロセッシング サービスとしての共有もここから行うことができる。

結合 ④

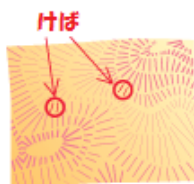
- 2 つのテーブルに共通する属性またはフィールドに基づいて、一方のテーブルのフィールドを他方のテーブルのフィールドに追加すること。通常は、レイヤの属性テーブルに新たな属性を追加する目的で使われる。
- 異なるデータセットの複数のフィーチャを接合して、それらを 1 つのフィーチャにすること。

⇒ 空間結合、テーブル結合



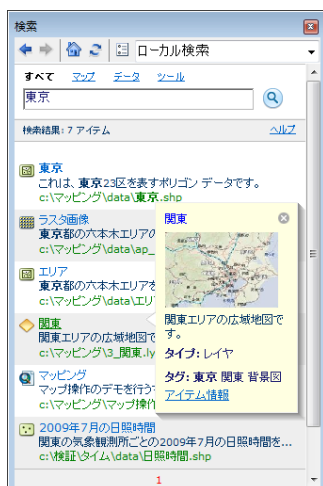
けば

地形の起伏を表す地図上の短い線。急斜面を示す場合は太く短く、けば同士を近づけて描き、緩斜面を示す場合は細く長く、けば同士を離して描く。



検索ウィンドウ [Search Window] ④

ArcGIS for Desktop でのマップ、データ、ジオプロセシング ツール、イメージの検索やインデックス作成を行うためのウィンドウ。キーワードだけでなく、データビューの表示範囲による検索ができ、検索対象についてはローカル以外に ArcGIS for Server や ArcGIS Online が配信するコンテンツも検索できる。

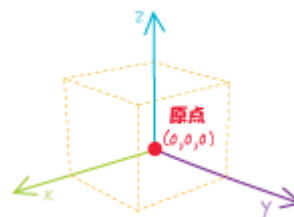


検索許容値 ④

主にネットワーク解析において、ネットワーク ロケーションに最も近いネットワーク エlementを検索するために使用される距離の閾値。

原点

他のすべての点の計算基準となる座標系の固定基準点。通常、平面座標系では座標 (0,0)、3 次元座標系では (0,0,0) で表される。ただし投影された地図の中心が常に原点であるとは限らない。



公共座標系

「平面直角座標系」を参照。日本の基本測量や公共測量において、経緯度座標以外で正式に用いることができる直交座標系であるため、このように呼ばれる場合もある。

航空レーザー測量

航空機から地上にレーザー光を照射し、反射する光との時間差を利用して行う測量法。

航程線

同じ射角ですべての子午線と交差する、地表面に沿ったカーブ。「等角航路」とも呼ばれる。航程線は単一のコンパス方位に進み、メルカトル図法では直線、極図法では対数螺旋になる。航程線は、球体上の 2 点間の最短距離ではない。

⇒ 大円



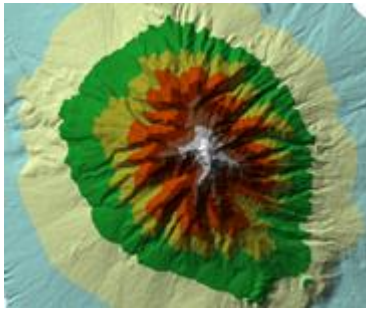
高度 ①

サーフェス上のポイントの高さまたは標高。通常、高度の計測値は海拔などの特定の参照する測地基準系に基づく。

高度段彩

高度ごとに色分けした地表表現の 1 つ。

⇒ 等高線、陰影起伏



コード値ドメイン [Coded Value Domain] ①

ジオデータベースにおいて、入力可能な属性値を制限するためのドメイン。コード値ドメインは、コードとそれに対応する値で構成される。たとえば、道路フィーチャクラスでは、1、2、3 という数字が砂利、アスファルト、コンクリートといった 3 つの道路タイプに対応するように定義する。コードはジオデータベースに格納され、それに対応する値は属性テーブルに表示される（上記の例では、ジオデータベースには「1」というコード値が格納され、ArcGIS アプリケーション上では「砂利」と表示される）。

コスト [Cost] ①

1. 時間、距離、またはその他要因（困難さやリソースの費用など）の関数。
2. ArcGIS Network Analyst で、ネットワーク データセットのインピーダンスと需要をモデリングするためのネットワーク エlementの属性。コストは、ネットワークの通行過程で累積される属性。

⇒ ウェイト、階層、規制、最小コスト パス、最短パス

コスト距離解析 [Cost Distance Analysis] ①

ある地点間の最短経路を直線距離ではなく、移動の際に負荷となる要素を移動コストとして定義したラスタを使用し、最小コストとなる経路を検出する解析。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションの機能の 1 つ。

⇒ 最小コスト パス

子レプリカ [Child Replica] ①

ジオデータベース レプリケーションにおいて、複製先となるジオデータベースのデータ。

⇒ レプリカ

コロプレス マップ [Choropleth Map]

特定の現象の階級値を表すために配色される主題図。

コンター [Contour]

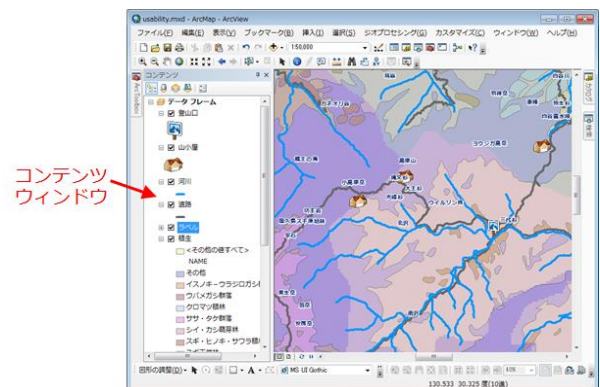
「等値線」を参照。

コンター間隔 [Contour Interval] ①

コンターを発生させる際に指定する間隔。

コンテンツ ウィンドウ [Contents Window] ①

ArcGIS for Desktop のマップ上にあるすべてのレイヤを一覧表示し、各レイヤのコンテンツが何を表しているかを示すためのウィンドウ。レイヤの表示順序とシンボルの割り当てを管理したり、各レイヤの表示プロパティおよびその他のプロパティを設定したりすることができる。



コントラスト [Contrast]

画像において最も明るい色と最も暗い色の差。コントラストが高い画像では、さまざまな地物が明瞭に識別でき、ストレッチ処理により調整することができる。

コントロール ポイント [Control Point] ㊦

座標値がわかっている、紙地図あるいはデジタル地図上のさまざまな位置のうちの一つ。異なる座標系により空間的に一致しないデータセットを、コントロール ポイントの座標系に変換するために使用する。また、紙地図からデータをデジタイズしたり、ラスタおよびベクタ データをジオリファレンスしたり、ラバーシートのようなアジャスト処理を行ったりするためにも使用する。

コンフィグレーション キーワード [Configuration Keyword] ㊦

ジオデータベースのオブジェクトをどのように格納するか定義したパラメータのグループの名前。

コンプレックス エッジ フィーチャ [Complex Edge Feature] ㊦

ジオメトリック ネットワークにおいて、エッジの中間部分でフローを変更できるように論理ネットワーク内で管理されるネットワーク フィーチャ。

⇒ フロー方向

コンプレックス ジャンクション フィーチャ

[Complex Junction Feature] ㊦

論理ネットワーク内の複数のネットワーク エlementを制御するジャンクション フィーチャ。

⇒ ジオメトリック ネットワーク

コンポジット リレーションシップ [Composite Relationship] ㊦

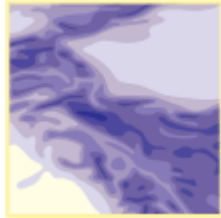
関連元オブジェクトの存続期間によって関連先オブジェクトの存続期間が制御されるオブジェクト間のリレーションシップ。たとえば、高速道路専用の標識は高速道路なしには存在しないため、高速道路とその標識の関連付けはコンポジット リレーションシップである。

⇒ シンプル リレーションシップ

サーフェス [Surface] ④

地理的事象を、連続性を持って変化する値（例：標高、気温、大気濃度など）をもとに面的な空間として表現したもの。

⇒ サーフェス モデル

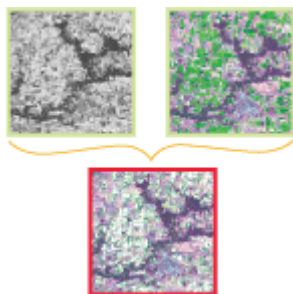


サーフェス モデル [Surface Model] ④

サーフェスを GIS で利用できるようにモデル化したもの。ラスタ、TIN、テレイン データセット、LAS データセットとして格納および表示される。

差異画像

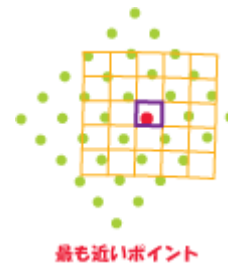
画像処理において、二つの異なる画像間で差を計算することにより作成された画像。「差分画像」とも呼ばれる。



最近隣内挿法 ④

最も近くにあるセルの値に基づいて、新しいセル値を割り当てるラスタ データのリサンプリング手法の 1 つ。入力ラスタ データセットのセルの値をそのまま使用するため、分類データや整数データ（土地利用、土壌、森林タイプなど）、あるいは（リモート センシング画像などの）放射量のリサンプリングによく使用される。

⇒ 共一次内挿法、三次たたみ込み内挿法、最頻値



最小/最大表示縮尺 ④

マップ上でレイヤが表示される最小/最大縮尺。各レイヤに最小/最大表示縮尺を設定することで、マップを拡大または縮小した際に、マップ上のレイヤの表示/非表示を制御することができる。

最小コスト パス [Least Cost Path] ④

2 つのポイント間で移動コストが最小のパス。この場合のコストは、時間、距離、またはその他要因（困難さやリソースの費用など）の関数となる。

⇒ 最短パス

最短パス [Shortest Path] ④

交通規制や時間帯による交通量などを考慮した、2 つ以上のポイント間の最適なルート。

⇒ 最小コスト パス

最頻値 ④

対象のセルとその周辺のセルの中で最も多いセル値を割り当てるラスタ データを表示する際のリサンプリング手法の 1 つ。

⇒ 最近隣内挿法、共一次内挿法、三次たたみ込み内挿法、最頻値

再分類 ④

ラスタのセル値を代替値に再分類すること。たとえば、値 1 ～ 50 を値 1 に、値 51～100 を値 2 に割り当てる。多くの場合、ラスタ データの解釈を容易にする、または変更するために使用される。

最尤法分類 ①

各クラスの属性値に基づいてそのクラスに属するセルの確率を計算し、確率が最大のクラスにセルを割り当てるラスタの分類法。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションの多変量解析ツールセットに属するツールの 1 つ。

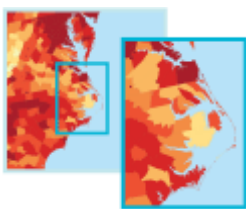
索引図

現在のページが地図の範囲全体からみてどこに位置するかを示すために使用する参照用地図。

差し込みマップ [Inset Map] ①

メインの地図に対して補助的に挿入する小さな地図。特定の範囲を拡大表示して詳細な情報が分かるようにしたものや、位置関係が分かるように小縮尺の地図にメインの地図の表示範囲を枠で示したものなどに使用する。

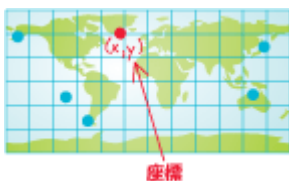
⇒ 概観図



座標

空間内の位置を特定するために使用される値。これらの値は X および Y で表され、必要に応じて Z 値 または M 値 でも表される。

⇒ 地理座標、投影座標、XY 座標



座標系

緯度と経度や XY 座標などを使用して地球上の位置を特定するための定義。使用する目的や地域により、さまざまな座標系が存在する。ArcGIS では、地理座標系、投影座標系、鉛直座標系の 3 つが主に使用される。

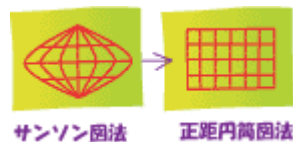
⇒ 座標

座標精度 ①

ジオデータベースのフィーチャクラス、もしくはジオプロセシング ツールの解析結果などの座標値を格納するために使用される最小距離（単位は座標値の座標系と同じ単位で表される）。ArcGIS は座標値をこの最小距離を 1 辺の長さとする非常に細かい格子状のグリッドで管理する。すべての座標値はこの格子の格子点にスナップされるため、この最小距離よりも小さい座標値は切り捨てられる。格納されるフィーチャの形状や解析結果の値の精度は座標精度が小さいほど高くなるが、座標精度があまりに小さいとデータの格納領域が増加しパフォーマンスに問題が発生する場合がある。デフォルトの座標精度は単位がメートルの座標系において 0.0001 メートル（座標系の単位が異なる場合は、0.0001 メートルに相当する値）であり、ほとんどの場合デフォルトの座標精度で適切なパフォーマンスとデータの精度を保持することができる。

座標変換

ある座標系における座標を移動や回転、数式等を用いて異なる座標系の値に変換すること。



サブタイプ [Subtype] ①

ジオデータベースにおいて、同じフィーチャクラス内のデータを属性値で分類したもの。たとえば、道路フィーチャクラスのデータを、一般道路、補助幹線道路、幹線道路の 3 つのサブタイプに分類し、サブタイプごとに異なるシンボルを設定したり、データを編集したりできる。

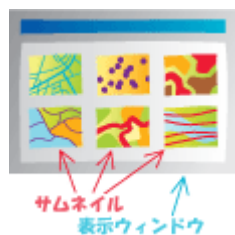
⇒ フィーチャクラス

差分テーブル [Delta Table] ①

フィーチャクラスまたはテーブルがバージョン対応として登録されたときに作成され、編集時のバージョンに対する変更内容を記録する ArcSDE ジオデータベースのテーブル。

サムネイル [Thumbnail] ①

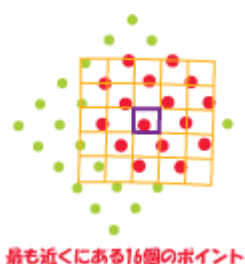
データ ソースやレイヤ、マップなどさまざまな地理データを見本として表す小さな画像。



三次たみ込み内挿法 ①

最も近くにある 16 個のセルの平均に基づいて、新しいセル値を計算するラスタ データのリサンプリング手法の 1 つ。出力値の計算に使用されるセルの数が多いため、共一次内挿法よりもデータが鮮明になる傾向にあり、航空写真や衛星画像などのリサンプリングによく使用される。

⇒ 最近隣内挿法、最頻値



参照整合性

子テーブルの行の外部キー値が常に親テーブルの主キー値と一致しなければならない DBMS 定義の制約。

⇒ NULL 制約、一意性制約

シームライン [Seamline] ①

モザイク データセット内のラスタ データのモザイク境界を定義するポリゴン。

シーン [Scene] ①

Esri 社の GIS アプリケーション上で表示される 3 次元の景観を表現したマップ。

シーン ドキュメント [Scene Document] ①

ArcScene 上で行った各種設定（参照データ、シーンの表示設定など）を保存したファイル（拡張子 *.sxd）。

シェープ [Shape] ①

地物をマップ上に表現するときの形状（ポイント、ライン、ポリゴン）。

シェープファイル [Shapefile] ①

Esri 社が策定した地理データのベクタ データ形式。基本的に 3 つのファイル（*.shp、*.dbf、*.shp）から構成され、ポイント、ライン、ポリゴンなどのジオメトリと属性情報を格納する。ファイルの仕様が公開されているので互換性が高く、多くの GIS ソフトウェアで利用することができる。

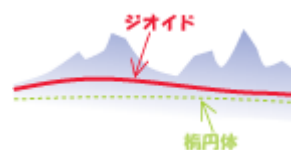
ジェネライズ [Generalize] ①

1. 縮尺に合わせて元データの形状を抽象化、単純化するプロセス。
2. ラインの基本的な形状を保ったまま、ラインの頂点の数を減らすプロセス。
3. ラスタ データの不要またはエラーとなっているピクセルをクリーンアップするプロセス。

⇒ ラインの単純化

ジオイド [Geoid]

水が地球の重力や遠心力に逆らわずに地球上を覆った場合の仮説上の不規則な海洋面形状。



ジオイド高 [Geoid Height]

回転楕円体面からのジオイドまでの高さ。

ジオコーディング [Geocoding]

住所、場所の名前などの情報から、地図上の位置を特定するプロセス。

⇒ アドレス マッチング



ジオコード サービス [Geocode Service] ①

ArcGIS for Server を使用してジオコーディング機能を Web サービス化したもの。

ジオタグ付き写真 [GeoTagged Photo]

GPS カメラ デバイスまたはスマートフォンで撮影された位置座標を記録している写真。

ジオデータ [Geodata]

「地理データ」を参照。

ジオデータベース [Geodatabase] ①

ArcGIS の地理データの標準データ形式。ジオデータベースの格納形態は、ファイル システム フォルダ、Microsoft Access データベース、汎用的な RDBMS (Oracle、Microsoft SQL Server、PostgreSQL、IBM DB2 など) のいずれかであり、ジオデータベース内にフィーチャクラス、属性テーブル、ラスタ データセット、ネットワーク データセット、トポロジなど、さまざまなデータを格納することが可能である。

ジオデータベース トポロジ [Geodatabase Topology]

①

ジオデータベースに格納されているフィーチャおよび複数のフィーチャ間の空間的な整合性を維持する仕組み。ジオデータベース内に関連するフィーチャクラスに対するトポロジの定義 (トポロジ ルール、クラスタ許容値など) が格納され、整合チェック、ルールに違反したデータの検知と修正を効率的に行うことができる。ジオデータベース トポロジは、ArcGIS for Desktop の Standard および Advanced ライセンスで利用することができる。

ジオデータベース レプリケーション [Geodatabase Replication] ①

ArcGIS において、2 つ以上のジオデータベース間でデータ変更の同期をとるためにデータを複製する手法。ジオデータベース全体またはジオデータベースのサブセットの複製が可能である。ジオデータベース レプリケーションには、双方向レプリケーション、一方向レプリケーション、チェックアウト/チェックイン レプリケーションの3種類がある。

⇒ レプリケーション

ジオデザイン [Geodesign]

地理・空間的な視点で都市や自然環境をデザインすること。包括的なデザインと最適な意思決定を行うために、地理情報のモデリング、シミュレーションによる影響の評価、関係者からフィードバックの取得などのプロセスを繰り返す手法をとる。

ジオフェンス [Geofence] ㊤

仮想的な地理的境界のこと。位置を確認できるデバイスを持った対象者および対象物が、あらかじめ設定されたジオフェンスへ出入りしたときに、何らかのアクション（プッシュ通知など）を起こすといった形で利用される。



ジオプロセッシング [Geoprocessing] ㊤

ArcGIS における GIS データに対するさまざまな処理（解析、変換、管理など）を意味し、入力データやパラメータを指定して処理を実行すると、その結果を新たなデータとして出力する。これら処理を実行するツールを「ジオプロセッシング ツール」と呼ぶ。

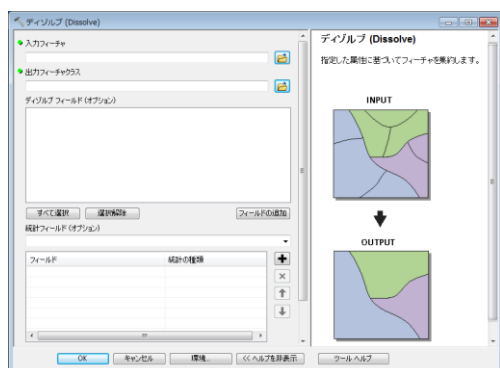
ジオプロセッシング サービス [Geoprocessing Service] ㊤

ジオプロセッシング処理を Web サービス化したもの。
ArcGIS for Server からジオプロセッシング サービスとして公開することにより、Web アプリケーションおよびその他のクライアント アプリケーションで使用できる。

ジオプロセッシング ツール [Geoprocessing Tool] ㊤

ジオプロセッシング処理を実行するためのツール。

⇒ ArcToolbox

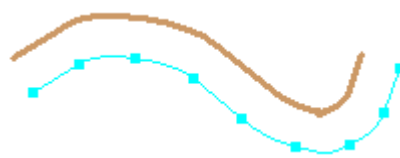


ジオメトリ [Geometry] ㊤

ベクタ データ（ポイント、ライン、ポリゴン）の形状およびそのプロパティ。

ジオメトリック エフェクト [Geometric Effect] ㊤

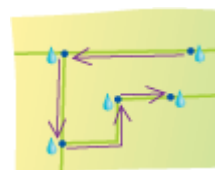
ジオメトリのマップ上での外観を動的に変更するリプレゼンテーションのルール。例として、ポイントを指定した半径の円形で表示する、ラインを指定した距離でオフセット表示する、など。



ジオメトリック ネットワーク [Geometric Network] ㊤

ジオデータベースのライン フィーチャクラスとポイント フィーチャクラスから構成されるデータ モデルで、主に電力、ガス、水道、通信などの設備管理や河川管理で使用される。現実世界の設備網をエッジ（例：上水道設備の配水管）とジャンクション（例：上水道設備の給水栓）に模して、接続性ルールを定義することでリソース（例：水）の流れを解析することができる。ジオメトリック ネットワークは、ArcGIS for Desktop の Standard および Advanced ライセンスで作成することができる。

⇒ 論理ネットワーク、フロー方向



ジオリファレンス [Georeferencing] ㊤

地理的な情報を持たない画像データや CAD データに対して、地理的な位置が定義されている空間データをもとに地理的な情報を付加する処理。

⇒ コントロール ポイント

ジオロケーション [Geolocation]

1. 表形式データと空間位置を照合することで、フィーチャを作成するプロセス。ジオロケーションの例としては、XY 座標のテーブルからポイント データを作成することが挙げられる。
2. 携帯電話やインターネットに接続されたモバイル端末などのオブジェクトの位置情報を特定する技術。

磁気偏角

地球上のある地点から測定された磁北と真北の間の角度。地球の磁場の変化によって、場所や時間の変化とともに変化する。

時系列データ [Temporal Data]

一定期間の時刻または日付を格納しているデータ。

自己交差 ①

ラインおよびポリゴンを形成する線分が自分自身に交差している状態(例: 数字の「8」の字のような形状)。ArcGIS においては、自己交差のあるポリゴンはエラーとみなされる。

子午線

北極と南極を通る地球の大円で、通常は経線と同義で使われる。経度 0 度の子午線が本初子午線。

⇒ 経度



自然分類 ①

マップ上でフィーチャを属性値で分類して表示する際に、データ分布の自然なグループに基づいてデータを分類する手法。データ値の差異が比較的大きい部分にしきい値が設定され、類似している値を最適にグループ化する。

⇒ 等間隔分類、標準偏差分類、等量分類

磁方位

磁北を基準として計測された方位角。

⇒ 磁気偏角

磁北

方位磁針の N 極が指す地表面のある地点から大圏を通じて北磁極に向かう方位角。

⇒ 磁方位、磁気偏角

シャープニング [Sharpening]

画像に対するフィルタリング手法の一つで、地物の輪郭を強調し、判読しやすくする。

射影変換 ①

4 個以上の移動リンクを必要とする変換で、直線の形状を直線のまま保てるように幾何補正できる。アジャストの補正方法の 1 つ。



写真測量

対象物を撮影した写真を用いて、位置の測定や内容の判読を行う技術のこと。

ジャンクション [Junction] ①

ジオデータベースのネットワーク データ モデルにおいて複数のエッジが接合するポイント。



住所フィールド [Address Field] ①

1 つ以上の住所エレメントを格納するテーブルの列。

縮尺範囲 ④

マップ内で個々のレイヤの描画に適用する縮尺の範囲。レイヤに対して縮尺範囲を設定することで、設定した縮尺の範囲内でそのレイヤは自動的に表示され、範囲外で非表示になる。縮尺範囲は、各レイヤのプロパティにて設定可能。

主題図

人口密度や地質など、1 つのトピックまたはテーマに関する情報を伝達するための地図。

⇒ コロプレス マップ

主題データ [Thematic Data]

特定のテーマ（主題）を表す地理データ。通常、主題ごとに個別のデータ（道路、建物など）となる。

主曲線

等高線の中で最も基本的な線。

⇒ 計曲線、補助曲線

準天頂衛星

一地域の上空に長時間とどまる軌道を取る人工衛星のこと。

⇒ 準天頂衛星システム

準天頂衛星システム

英語の呼称は Quasi-Zenith Satellite System で、「QZSS」と略される。

JAXA が準天頂衛星を用いて構築を目指している衛星測位システムのこと。GPS 衛星からの信号と組み合わせることで、測位できる場所や時間帯を拡大する。

小円

平らな面と球体のいずれかの表面を交差させた際にできる、球体の中心点を通らない円。赤道以外の緯線は小円である。

⇒ 大円



小縮尺

一般的に、地球上の広い範囲を簡略に表示している地図の縮尺。

⇒ 大縮尺

受動型センサー [Passive Sensor]

反射のみを受信できるイメージ センサー。

シンク [Sink] ④

1. ジオメトリック ネットワークのフローの終点となる ジャンクション フィーチャ。たとえば、下水道網では、水道管を通じて水が浄水場に流れ込むので、浄水場をシンクとしてモデリングすることができる。
2. DEM において、周囲のセルより極端に標高値が低いセル（例：窪地）。

⇒ ソース

シンプル エッジ フィーチャ [Simple Edge Feature]

④

ジオメトリック ネットワークにおいて、一方の端からリソース（例：電気、ガス）が入り、もう一方の端から出てくるエッジ フィーチャ。エッジの中間部分でフローを変えることができるコンプレックス エッジ フィーチャに対して、シンプル エッジ フィーチャは途中でフローを変えることはできない。

⇒ フロー方向

シンプル フィーチャ [Simple Feature]

ポイント、ライン、ポリゴンなどの単純なベクタ データを格納する GIS データ モデル。各フィーチャのジオメトリは、1 レコードとして格納される。

シンプル リレーションシップ [Simple Relationship]

①

関連元オブジェクトの存続期間が関連先オブジェクトに影響を与えない独立したオブジェクト間のリレーションシップ。

⇒ コンボジット リレーションシップ

真方位

真北を基準にして測定された方位。

真北

地球上の任意の地点から北極点に向かった方向。

シンボル [Symbol] ①

フィーチャまたはフィーチャクラスのマップ上での表現形式。シンボルには、それらの形状を模式化して表現されるもの（例：樹木、住居、鉄道）、抽象的な形状（例：三角形、円、点線）、またはテキストがある。

⇒ マーカーシンボル、塗りつぶしシンボル、ライン シンボル、テキスト シンボル、3D シンボル



シンボル レベル ドローイング [Symbol Level Drawing]

①

シンボルの種類に基づいて 1 つのフィーチャクラス内のフィーチャの描画順序を決定する設定。

水深測量

湖底や海底の地形を特定するために水域の深さを計測し図化する技術。

数値分類 ①

フィーチャクラスの属性値を使用して数量を表現する分類手法の 1 つ。マップ上では、色、等級シンボル、比例シンボル、ドット密度、チャートといった複数の方法を使用して、数量を表現する。

スキーマ [Schema] ①

1. ジオデータベースの構造または設計。スキーマによってジオデータベースの物理的な構造やジオデータベースに格納されているフィーチャクラスやテーブルのルール、リレーションシップ、およびプロパティが定義される。
2. フィーチャクラスやテーブルの構造または設計。スキーマによってフィーチャクラスやテーブルに含まれるフィールド名、フィールドのエイリアス、フィールドのデータ型、NULL 値の許可などが定義される。

スクリプト [Script]

コンピュータやソフトウェアに対して一連の処理の命令を記述したコンピュータ プログラム。機械語などコンピュータが解釈可能な言語への変換や実行可能ファイルへの変換と言ったコンパイル処理を必要とせず、記述したソースコードを即時実行することができる。

⇒ Python

スケッチ [Sketch] ①

ArcMap の編集セッションにおいてラインやポリゴンの形状を作図または変更する際のジオメトリの表現形態。



スタイル [Style] ①

レイヤなどに対してあらかじめ定義された色、シンボル、シンボルのプロパティ、およびマップに含まれるマップ エlement（方位記号、縮尺記号など）の集合。スタイルを使用することで、作成するマップを標準化し品質の一貫性を保つことができる。

⇒ スタイル マネージャ

スタイル マネージャ [Style Manager] ④

新しいスタイルの作成と既存のスタイルの編集に使用する ArcGIS for Desktop のツール。スタイル マネージャには、マップによって現在参照されているすべてのスタイルの内容が表示される。また、新規に作成したシンボルなどを含むユーザ独自のスタイルやその他マップで使用可能な追加のスタイルも含まれている。

ストップ [Stop] ④

ArcGIS Network Analyst エクステンションにおけるルート解析でルートが通過する必要のあるネットワークロケーション。解析時に複数のストップを指定することができ、少なくとも出発点と目的地の 2 つのストップを指定する必要がある。

ストリーム モード デジタイズ [Stream Mode Digitizing] ④

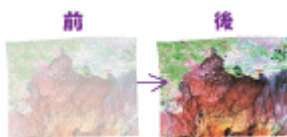
カーソルの動きに応じて、ポイントを事前に定義した間隔で自動的に記録するデジタイズ手法。

ストリーム許容値 [Stream Tolerance] ④

ストリーム モード デジタイズでの頂点間の最小間隔。ストリーム許容値はマップ単位で表される。

ストレッチ [Stretch] ④

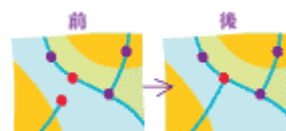
ラスタ データのピクセル値のヒストグラムを使用して、セル間のコントラストを際立たせる表示手法。



スナップ [Snap] ④

1. マウス ポインタの位置を編集対象のレイヤのフィーチャの頂点または線分の座標に正確に一致するように自動的に移動させる機能。スナップ機能を使用することで、たとえばあるラインに接する別のラインを正確に作図することができる。
2. あるフィーチャの頂点から指定された距離（許容値）内にある別のフィーチャの頂点を、両者の座標が正確に一致するように移動させる自動的な処理。

⇒ スナップ許容値



スナップ許容値 [Snap Tolerance] ④

ArcMap の編集セッションで、マウス ポインタやフィーチャの頂点を別の場所にスナップするときの最大の距離。スナップ先の位置（頂点、線分、中間点、または交点）がその距離内にある場合、マウス ポインタは自動的にスナップされる。スナップ許容値は、マップ単位またはピクセル単位で表す。

⇒ スナップ

スナップ対象ラスタ [Snap Raster] ④

セルの配列の範囲を既存のラスタと正確に一致させるためのジオプロセシング ツールの [環境設定] ダイアログ ボックスのオプション。指定された範囲の左下隅をスナップするラスタ内の最も近いセルの左下隅にスナップし、指定された範囲の右上隅をスナップするラスタ内の最も近いセルの右上隅にスナップさせる。

スプライン [Spline] ④

サーフェス全体の曲率を最小化する数学関数を使用してセル値を推定する内挿手法。入力ポイントを正確に通過する滑らかなサーフェスを生成できる。

⇒ IDW、クリギング、Natural Neighbor

スプリット ポリシー [Split Policy] ㊤

属性フィールドに属性ドメインが関連付けられているフィーチャを 2 つのフィーチャにスプリット（分割）する際に、その属性フィールドの値の割り当てをどのように処理するかを決定するポリシー。標準的なスプリットポリシーには、複製、デフォルト値、ジオメトリ比（分割後のジオメトリの面積の比率で数値を分配）がある。

⇒ マージ ポリシー

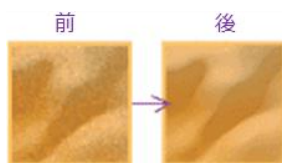
スペクトル分解能 [Spectral Resolution]

画像処理システムが検知できる波長の幅。

スムージング [Smoothing]

内挿やフィルタリングにより画像上のこまかな変化を除去したり、減らすことで画像内の全体のトレンドやパターンを明らかにしたりして描画するための画像処理。

⇒ ラインのスムージング



スリバー ポリゴン [Sliver Polygon] ㊤

微小なポリゴン。2 つ以上のフィーチャを重ねた場合に、それぞれの境界線が完全に一致していないために境界線のギャップによってスリバー ポリゴンが作成されることがある。



正角図法

小さな範囲の形状を正確に維持する地図投影法。正角図法では、経緯線は 90 度で交差し、地図上のどの点でも縮尺がすべての方向で同じになる。また、線分の交点間の角度を含め、各点ですべての角度が維持されるが、場所によっては面積に大きな歪みが生じる可能性がある。

⇒ 地図投影



正規化 ㊤

対象地域のサイズや、各対象地域のフィーチャの数に応じた値の差異を最小限に抑えるために、ある数値属性を別の数値属性で除算するプロセス。たとえば、総人口を総面積により正規化（除算）すると、単位面積あたりの人口、つまり人口密度が得られる。

正距図法

1 つ以上の線分に沿って、あるいは 1 つまたは 2 つの点から地図上の他のすべての点まで縮尺を維持する地図投影法。最も重要な特性は、中心点からの距離が正確であることである。たとえば、東京を中心にした場合、東京と投影上の他のすべての点の間の距離は正確であるが、それ以外の 2 つの点の間の距離は正確ではない。

⇒ 地図投影

正距方位図法

中心点から別の点までの距離と方位を維持する地図投影法。たとえば、東京を中心にした場合、東京と投影上の他のすべての点の間の距離と方位は正確である。中心から距離が離れるにしたがって、面積および形状の歪みが大きくなる。

⇒ 地図投影



整合性ルール [Integrity Rule] ④

ジオデータベースに格納されたオブジェクトに適用されるルール。整合性ルールによりジオデータベースに定義したデータモデルと実際のオブジェクトの状態が一致していることを確認することができる。ジオデータベースは、属性、接続性、トポロジ、リレーションシップに対するルール、およびカスタムの整合性ルールをサポートする。

⇒ 接続性ルール、属性ドメイン、トポロジ ツール

整合チェック [Validation] ④

ドメイン、リレーションシップ、トポロジなどのジオデータベースのルールが定義されているフィーチャの位置・形状もしくは属性が、ルールに違反していないかチェックする処理。

⇒ 属性ドメイン、トポロジ ルール

正積図法

地図の各部分だけでなく、地図全体の面積が地表の対応箇所と同じ面積比になる地図投影法。正積図法では、形状、角度、縮尺、またはそれらの一部に歪みが生じることがある。正積でもあり正角でもある平面地図は存在しない。

⇒ 地図投影



世界測地系

「地球の正確な形状と大きさに基づき、世界的な整合性を持たせて構築された経度・緯度の測定の基準で、国際的に定められている測地基準系」。^[5] 世界測地系という呼称を持つ測地基準系として、WGS84 や 日本測地系 2000 がある。

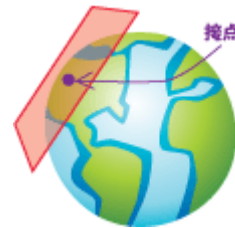
セグメント [Segment] ④

「線分」を参照。

接図法

投影面が地表に接し、地球の内部を通らない地図投影法。接平面図法では、投影面が地表面と 1 点で接する。接円錐図法と接円筒図法では、投影面は 1 本の接線に沿って地表面と接する。接点または接線の位置では、投影に歪みが生じない。

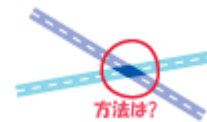
⇒ 地図投影、割図法



接続性ポリシー [Connectivity Policy] ④

ネットワーク データセットを構成するネットワーク エレメントを相互に接続する方法を定義するプロパティ。エッジとエッジの接続方法を定義する 2 種類のポリシー（端点の接続性と頂点の接続性）と、エッジとジャンクションの接続方法を定義する 2 種類のポリシー（優先とオーバーライド）がある。

⇒ 接続性ルール



接続性ルール [Connectivity Rule] ④

ジオメトリック ネットワークにおいて、相互に接続可能なネットワーク フィーチャのタイプおよび数を制約するルール。エッジ-エッジとエッジ-ジャンクションの 2 種類がある。

⇒ エッジ-エッジ ルール、エッジ-ジャンクション ルール



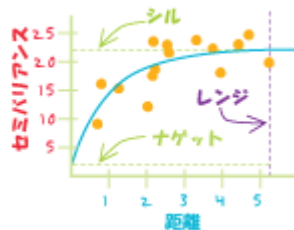
絶対座標

定義された座標系の原点からの距離で表される座標。

⇒ 相対座標

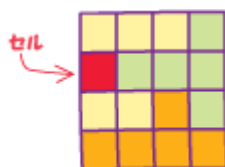
セミバリオグラム [Semivariogram]

バリオグラムを 2 分割したもの。



セル [Cell]

1. ラスタ データの情報の最小単位 (通常は正方形)。
GIS データでは、セルはそれぞれ平方メートルや平方マイルなどの単位で地表の一部分を表し、値 (例 : 標高値、土壌タイプ、植生クラスなど) を持つ。
2. ピクセル。



線形単位

距離を表示、計測する際に使用する単位 (例 : メートル、フィートなど)。

⇒ 角度単位、計測単位

選択アンカー [Selection Anchor] (A)

ArcMap におけるデータ編集時に、選択されたフィーチャの中心にある x 印。スナップ使用時やフィーチャの回転、移動、サイズ変更を行うときに表示される。

選択可能レイヤ [Selectable Layer] (A)

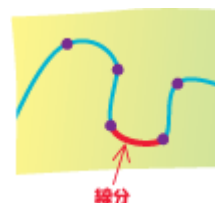
フィーチャの選択が可能なレイヤ。ArcMap の コンテンツ ウィンドウ の [選択状態別にリスト] ビューで、選択可能レイヤの確認や設定が行える。

選択セット [Selected set] (A)

ユーザによって選択されたレイヤのフィーチャまたはテーブルのレコードのセット。

線分 (A)

ラインまたはポリゴンを形成する ジオメトリ要素。始点、終点とそれらを結ぶ直線または曲線から構成される。



相対角度

線分同士の角度差。既存の線分を基準として指定した角度で線分を作成する際などに使用される。

相対座標

特定の位置からの相対的な距離で表される座標。

⇒ 絶対座標

相対測位

2 台以上の GPS 受信機を使用して位置を測定する方法。「2 台以上の受信機で同時に 4 個以上の同じ GNSS 衛星を観測し、GNSS 衛星の位置を基準とし、GNSS 衛星からの電波信号がそれぞれの受信機に到達する時間差を測定して、2 点間の相対的な位置関係を求める」。^[6]

⇒ GNSS 測量、単独測位、DGPS 測位

相対パス [Relative Path]

特定のフォルダまたはファイルの場所を現在の作業フォルダから相対的に示したパス。

総描

地図を縮小したときに、表示するコンテンツの詳細度を低くすることで、地図表現を単純化し見やすくすること。

双方向レプリケーション [Two-way Replication] (A)

親レプリカから子レプリカへ、または子レプリカから親レプリカへデータ変更を複数回送信できる ジオデータベース レプリケーション。親レプリカと子レプリカの両方とも ArcSDE ジオデータベースを使用する必要がある。

ソース [Source] ④

1. 距離解析の始点として使用されるロケーションまたはロケーション グループ。
2. ジオメトリック ネットワークのフローの起点となる ジャンクション フィーチャ。たとえば、水道網では、ポンプ場から水道管を通じて水が流し出されるので、ポンプ場をソースとしてモデリングすることができる。

⇒ シンク



ゾーニング [Zoning]

国や自治体などが都市計画で、土地を住宅、商業、農業、工業用などの用途別に規制すること。

ゾーン統計 [Zonal Statistics] ④

ラスタ データセット (対象ラスタ) の値に基づいて、指定したゾーンの統計情報を計算すること。指定した各ゾーンのセルごとに、出力値が 1 つ算出される。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションの機能の 1 つ。

属性 ④

1. 個々の地物を説明するための文字や数値などの情報 (建物为例にすると、その所有者や階数などの情報)。通常はテーブル形式で管理され、一意な ID によってジオメトリに関連付けられる。
2. ラスタ データセットにおいて、各セルの固有値に関連付けられる情報。

⇒ 属性テーブル

属性インデックス [Attribute Index] ④

フィーチャクラスの属性テーブルのフィールドに対して作成するインデックスで、該当フィールドに対する問い合わせが発生する処理 (属性検索、テーブル結合など) のパフォーマンスを向上させるために使用される。

属性検索 ④

フィーチャの属性値が検索条件と一致するフィーチャを選択する処理。

属性テーブル [Attribute Table] ④

属性情報を格納するテーブル。各行がひとつのフィーチャを表し、各列がフィーチャの属性を表すように構成されている。

⇒ 属性

FID	名前	形状
1	道路	ライン
2	高層	ポイント
3	湖	ポリゴン

属性ドメイン [Attribute Domain] ④

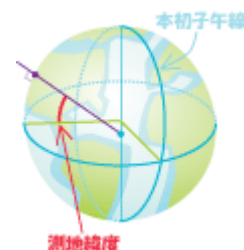
フィーチャクラスの属性フィールドに対して有効な値を定義するルール。データの整合性を維持するために使用される。

⇒ コード値ドメイン、範囲ドメイン

測地緯度

地球の回転楕円体面にある 1 点を通る体面の法線と赤道面との角度。一般的に、緯線は測地緯度を表す。

⇒ 地心緯度



測地基準系

地球の中心に対するその回転楕円体の相対位置を定義するための基準。地表面上のある位置を測地する際の参照系 (経緯線の原点と方向を定義した基準) が提供される。

測地基準系変換 ④

「地理座標変換」を参照。

さ行

測地系

「測地基準系」を参照。

測地成果 2000

2002 年 4 月 1 日の改正測量法の施行に伴い、世界測地系（日本測地系 2000）を基準として再構築（地殻変動や測量誤差による歪みの修正も含む）された測地基準点（電子基準点、三角点、水準点）成果の呼称。

測地成果 2011

2011 年に発生した東北地方太平洋沖地震において、大きな地殻変動が観測されたことに伴う測地成果 2000の改定値のこと。

⇒ 日本測地系 2011

測地線

地球の回転楕円体の表面上にある 2 点間を結ぶ最短の線。



ターゲット レイヤ [Target Layer] (A)

1. 空間検索において検索の対象となるレイヤ。
2. 編集セッションにおいて編集の対象となるレイヤ。

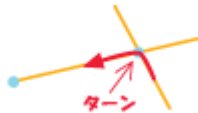
ダーティ エリア [Dirty Area] (A)

トポロジの整合チェック後に更新されたフィーチャを囲む矩形領域。

ターン [Turn] (A)

ネットワーク解析において、ナビゲーション時のエッジ間の移動を明示的にモデリングしたもの。

⇒ ネットワーク データセット、ターン フィーチャクラス、ネットワーク エレメント



ターン インピーダンス [Turn Impedance] (A)

ネットワーク解析において、ネットワーク ノードをターンする際のコスト。たとえば、左折をするためのインピーダンスは、同じ場所で右折または U ターンをするためのインピーダンスとは異なる場合がある。

ターン フィーチャクラス [Turn Feature Class] (A)

ネットワーク データセットのターン動作が定義された特殊なフィーチャクラス。ターン インピーダンスを保持する場合がある。

第 1 次メッシュ

標準地域メッシュのうち、「全国の地域を偶数緯度及びその間隔（120 分）を 3 等分した緯度における緯線並びに 1 度ごとの経線とによって分割してできる区域」。^[7] 第 1 次地域区画ともいう。1 辺の長さは約 80km である。

⇒ 第 2 次メッシュ、第 3 次メッシュ

第 2 次メッシュ

「第 1 次メッシュを緯線方向及び経線方向に 8 等分してできる区域」。^[8] 第 2 次地域区画（統合地域メッシュ）ともいう。1 辺の長さは約 10km である。

⇒ 標準地域メッシュ、第 3 次メッシュ

第 3 次メッシュ

「第 2 次メッシュを緯線方向及び経線方向に 10 等分してできる区域」。^[9] 基準地域メッシュ（第 3 次地域区画）ともいう。1 辺の長さは約 1km である。

⇒ 標準地域メッシュ、第 1 次メッシュ

大円

球体の中心を通る平面で球面を切ったときに得られる円または近似円。赤道による断面と経線による断面は大円となる。



ダイクストラのアルゴリズム [Dijkstra's Algorithm]

2 つのポイント間の最短経路を見つけることにより、ネットワークの接続性を調べるアルゴリズム。

大圏距離

大円上を通る 2 点間を結んだ距離。

大縮尺

一般的に、地球上の狭い範囲を詳細に表示している地図の縮尺。

⇒ 小縮尺

大楕円

回転楕円体の中心を通る平面で楕円体面を切ったときに得られる楕円。球体の場合は大円となる。

ダイナミック テキスト [Dynamic Text] (A)

マップ レイアウト上に配置されたテキストで、マップ ドキュメント、データ フレーム、およびデータ ドリブン ページの現在のプロパティに基づいて自動で表示される。

タイム スライダー [Time Slider] (A)

時系列データを表示するためのインタフェース。時間変化を表現したり、表示する時間ステップなどを設定したりできる。

タイル [Tile] (A)

ラスタ データセットをジオデータベースに格納するために画像を特定のサイズで分割したもの。画像のサイズはデフォルトで 128 × 128 ピクセルに設定される。

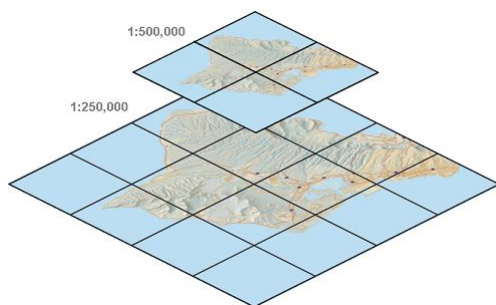
タイル キャッシュ [Tile Cache] (A)

タイル パッケージに含まれる、画像のセットのこと。タイル キャッシュによりマップが高速に描画される。

タイル パッケージ [Tile Package] (A)

特定の範囲のマップを縮尺ごとの画像ファイルにして 1 つのファイルにパッケージしたもの。モバイル端末ではオフライン環境での背景地図としても利用される。

⇒ タイル、タイル キャッシュ

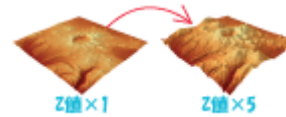


楕円体距離

大楕円上を通る 2 点間を結んだ距離。

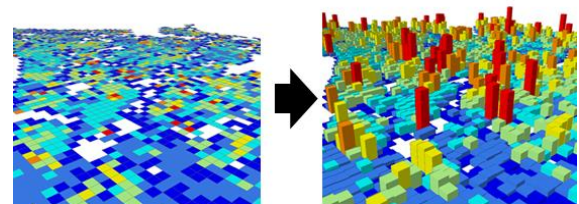
高さ強調 (A)

サーフェスの自然な変化を強調するために、3 次元モデルの Z 値に適用される乗数。X 値と Y 値の範囲が Z 値と比較してはるかに大きい場合、地形が平坦に見えることがあるが、高さ強調を設定すると、起伏の増大によってこの見かけの平坦さを調整することができる。



立ち上げ (A)

2 次元のフィーチャを 3 次元で表現すること。ポイントは垂直の線、ラインは面、ポリゴンは立体的ブロックで表現される。たとえば、井戸の深さや建物の高さなどの属性情報を基にフィーチャを 3 次元で表現することができる。



ダングル [Dangle] (A)

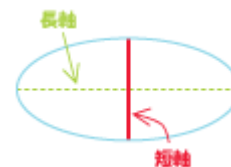
別のラインとの交点から、別のラインと接していないラインの端点までの部分。

⇒ アンダーシュート、オーバーシュート

短軸

楕円または回転楕円体における短い方の軸。

⇒ 長軸



端点

ラインやポリゴンの形状を構成する一連の頂点において、最初および最後に位置する点（始点および終点）。

⇒ 頂点

単独使用ライセンス [Single Use License] ㊤

1 つのソフトウェアを 1 台のコンピュータにのみインストールして使用することができるライセンス形態。略称として「SU」（Single Use）とも呼ばれる。

⇒ 同時使用ライセンス

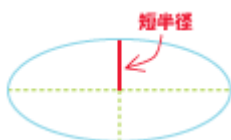
単独測位

1 台の GPS 受信機を使用して位置を測定する方法。
「位置のわかっている GNSS 衛星を動く基準点として、4 個以上の衛星から観測点までの距離を同時に知ることにより、観測点の位置を決定する」。^[10]

⇒ GNSS 測量、相対測位

短半径

回転楕円体における短い方の半径。



チェックアウト [Check Out] ㊤

ジオデータベース レプリケーションにおいて、あるジオデータベースのデータを別のジオデータベースに複製する手続き。

チェックイン [Check In] ㊤

チェックアウト/チェックイン レプリケーションにおいて、チェックアウトされたレプリカを親レプリカに同期する手続き。

チェックアウト/チェックイン レプリケーション

[Check Out/Check In Replication] ㊤

親レプリカから子レプリカへ任意のデータをチェックアウトして、編集を行い、その更新内容を親レプリカへチェックインするためのジオデータベース レプリケーション。

地球楕円体

「ジオイドに極めてよく似るように決められた回転楕円体で、地球の形を代表するもの」。^[11]

地形図

標高や地形の起伏、河川や海岸線、道路や建物などの地表面の状態を表現した地図。日本における代表的な地形図は、国土地理院が作成している一般図（1/10,000、1/25,000、1/50,000 の縮尺）である。

地軸

地球の自転軸。

地心

地球の中心。

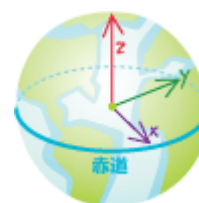
地心緯度

地表上の点から球体または楕円体の中心までの線と赤道面との角度。

⇒ 測地緯度

地心座標系

地球の中心を原点とした 3 次元の参照系。位置を X、Y、Z 値で識別する。X 軸は赤道面にあり、本初子午線と交差する。Y 軸も赤道面にあり、X 軸に直角で、90 度の子午線と交差する。Z 軸は極軸と一致し、北極方向が正の値である。原点は球体または回転楕円体の中心に位置付けられる。



地図投影

地球の曲面を平面上に描写する手法。一般に、地球の経緯線を平面上に変換する体系的な数値変換が必要になる。一部の投影については、透明な地球の中心に電球を置き、その光により経線と緯線が 1 枚の用紙に投影されると捉えることができる（ただし、すべての投影が地球の中心から生じるとは限らない）。一般に、用紙は平らで地球儀に接して配置される（方位図法）か、円錐または円柱状に丸められて地球儀上に配置される（円筒図法または円錐図法）。どの地図投影でも、距離、面積、形状、方角のいずれか 1 つ以上に歪みが生じる。

⇒ 接図法、割図法、正角図法、正距図法、正距方位図法、正積図法、平射図法

地籍フォーマット 2000

国土交通省が推奨している、「数値地籍情報の記録形式等について（平成 14 年 3 月 14 日付け国土国第 595 号 国土交通省土地・水資源局国土調査課長通知）」に基づいた、数値地籍情報を記述した CSV 形式のファイル。

地物

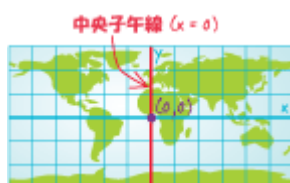
地球に存在するすべての物や概念（例：河川、森林、建物、道路、行政界など）。



中央子午線

投影の中心を定義する経線。通常は、投影座標系の X 原点を定義する。

⇒ 子午線



中間データ [Intermediate Data] (A)

ModelBuilder の処理過程において作成される一時的なデータ。

中心緯度

投影の中心、場合によっては投影の原点を定義する緯度の値。

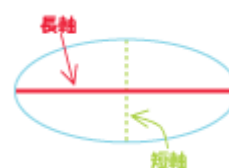
中心経度

投影の中心、場合によっては投影の原点を定義する経度の値。

長軸

楕円または回転楕円体における長い方の軸。

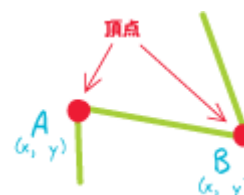
⇒ 短軸



頂点 (A)

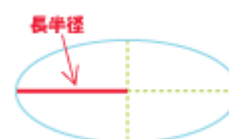
ラインまたはポリゴン フィーチャの形状を構成する点。

⇒ 端点



長半径

回転楕円体における長い方の半径。



地理院地図

国土地理院が提供する Web ベースの地図サービス。電子地形図 25000 から作成された標準地図の他、空中写真や防災関連のデータなどを提供している。

地理座標

地球の表面上の位置を緯度と経度で表したもの。

⇒ 地理座標系、投影座標

地理座標系

球体または回転楕円体の面上の位置を緯度と経度で定義する参照系。地理座標系の定義には、測地基準系、本初子午線、角度単位が含まれる。

地理座標変換 ④

ある地理座標系のデータの緯度/経度値を、別の地理座標系でそれらに相当する値に体系的に変換する手法。どの地理座標系を使用するかによって、さまざまな変換パラメータを利用することができる。日本測地系と日本測地系 2000 間の変換などでは、2 つの地理座標系の相違点が一連の座標として得られるファイルを使用して、他のポイントの値を内挿する。

地理情報システム [Geographic Information Systems]

「GIS」を参照。

地理情報標準

GIS の基盤となる空間データを、異なるシステム間で相互利用する際の互換性の確保を主な目的に、データの設計、品質、記述方法、仕様の書き方等のルールを定めたもの。ISO/TC211（国際標準化機構の地理情報に関する専門委員会）で検討されている項目のうち、空間データの整備等に必要な基本項目について、ISO/TC211 の国際標準（案）を基に、国土地理院と民間企業との官民共同研究により策定された。

⇒ OGC

地理情報標準プロファイル

地理情報標準を利用しやすくするため、平成 16 年度「地理情報標準の利用促進に関する調査研究」において、最新の ISO/TC211 国際標準と JIS 化された地理情報標準の中から、日本における実利用に必要な内容を取り出し体系化した、より実用的な標準。

地理データ [Geographic Data]

形状と表現を含め、地物の場所と属性を説明する情報。地理データは、空間データと属性データから構成される。

ツールセット [Toolset] ④

ツールボックス内の複数のジオプロセシング ツールをカテゴリなどでグループ化したもの。

ツールボックス [Toolbox] ④

ArcGIS における、ツールセットとジオプロセシング ツールが含まれたオブジェクト。ディスク上では、.tbx ファイル、ジオデータベースではテーブル形式で格納される。

ティーセン ポリゴン [Thiessen Polygon]

「ボロノイ図」を参照。

定義フロー方向 [Determinate Flow Direction] ④

ジオメトリック ネットワークにおいて、ネットワークの接続性、ソースとシンクの位置、およびフィーチャの有効/無効状態からフローの方向が一意に決定されるフロー方向。

ティソーの指示楕円 [Tissot's Indicatrix]

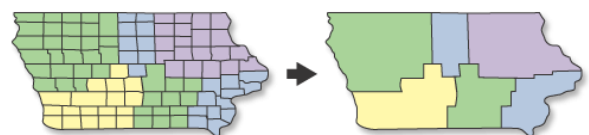
地図投影された地球上の個々の位置について、投影の歪みを楕円で視覚的に表現した手法。



ティソーの指示楕円

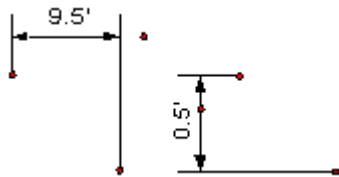
ディゾルブ [Dissolve] ④

指定した属性について同じ値を持つフィーチャを結合するジオプロセシング ツール。ポリゴン データに対して処理を行うと、隣接するポリゴン間の不要な境界線を削除することができる。



ディメンション フィーチャ [Dimension Feature] ①

ArcMap において、マップ上の特定の長さまたは距離を示す特殊なジオデータベース アノテーション。建物の側面や土地区画の長さを示す場合や、消火栓と建物の角などの 2 つのフィーチャ間の距離を示す場合などに使用する。ディメンション フィーチャは、ArcGIS for Desktop の Standard および Advanced ライセンスで作成することができる。



データ ソース [Data Source] ①

マップに表示されているレイヤやジオプロセッシング処理の対象データ セットの元データ（シェープファイル、ジオデータベースのフィーチャクラス、ラスタ データなど）。

データ ドリブン ページ [Data Driven Page] ①

ArcMap において、同じページ レイアウトで異なる場所を示す地図を連続して出力、印刷するための機能およびその機能により生成された一連のページ。

データ ビュー [Data View] ①

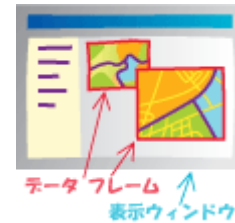
ArcMap と ArcReader において地図を表示する画面で、データの表示、検索、編集、解析を行う目的で利用される。このビューには、タイトル、方位記号、縮尺記号などのマップ エレメントはいずれも表示されない。

⇒ レイアウト ビュー

データ フレーム [Data Frame] ①

ArcMap に追加されているレイヤの集合体で、マップの表示範囲や座標系などのプロパティを定義できる。

ArcMap に複数のデータ フレームを追加できるが、データ ビューでは、1 つのデータ フレームのみが表示され、レイアウト ビューでは、すべてのデータ フレームが同時に表示される。



データベース コネクション [Database Connection] ①

①

ArcGIS からデータベースへのリンク。データベース コネクションを作成するには、データベースにアクセスするためのプロパティ（データベース名、ユーザ アカウントなど）を設定する必要がある。データベース コネクションを削除しても、コネクションのみが削除され、データベースまたはその内容は削除されない。

テーブル結合 [Join Table] ①

「結合」の 1 を参照。

テキスト シンボル [Text Symbol] ①

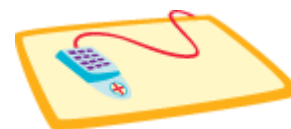
マップ上でラベルの表示を行うために、文字サイズ、文字間隔、文字色などの要素から定義される文字スタイル。

テクスチャ [Texture] ①

3D オブジェクト（建造物など）の表面に貼り付けられる模様や画像のこと。

デジタイズ [Digitize] ①

コンピュータに接続されたデジタイジング タブレット（デジタイザ）を使用して、紙地図上の地物をデジタル形式に変換するプロセス。デジタイザから座標データが送信され、ベクタ形式のデータに変換される。



テレイン データセット [Terrain Dataset] ①

ジオデータベース内のフィーチャから構築された TIN ベースのサーフェス。テレイン データセットは、通常、LIDAR データ、写真測量データなどのソースから作成される。テレイン データセットの作成時には、テレイン データセットの表示や処理の効率を向上するためのピラミッド構造のデータセットを定義する。テレイン データセットは、ArcGIS 3D Analyst エクステンションで作成することができる。



天球

観測者を取り巻く仮想的な球面のこと。

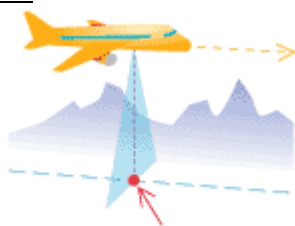
電磁波スペクトル [Electromagnetic Spectrum]

あらゆる電磁波の周波数（または波長）帯域のこと。

天底

天球上において観測者の真下にある点。

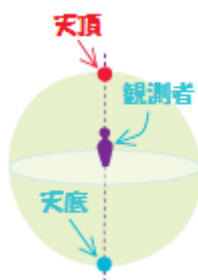
⇒ 天頂、子午線



天頂

天球上において観測者の真上にある点。

⇒ 天底



テンポラリー ワークスペース [Temporary Workspace] ①

ジオプロセッシング処理の出力結果を一時的に格納するための出力先。主に、ModelBuilder でモデルを実行した際に発生する中間データセットを格納するために使用する。

等圧線

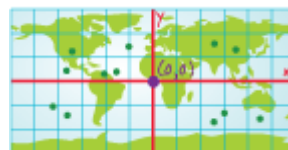
天気図で気圧の等しい地点を結んだ線。

⇒ 等値線、等高線、等深線、等降水量線、等時線、等温線

投影座標

地球の表面上の位置を 2 次元の座標系で表現したもの。東西を表す水平方向の X 軸および南北を表す垂直方向の Y 軸という 2 つの軸に沿った原点 (0,0) からの距離に基づいて地物が配置される。投影座標では、地図投影

⇒ 投影座標系、地理座標



投影座標系

地図投影された平面上の位置を XY 座標で定義する参照系。投影座標系の定義には、地理座標系、地図投影、地図投影に必要な任意のパラメータ、および計測単位が含まれる。

⇒ 投影座標

投影変換

空間データをある座標系から別の座標系に変換すること。

⇒ 投影座標系

投影法

地球 (3 次元) の表面を変換して、2 次元の平面で表現する方法。地球の表面を 2 次元で表すと、データの形状、面積、距離、方向のいずれかに歪みが生じる。投影法が異なると、生じる歪みの種類も異なる。

⇒ 地図投影

等温線

気温の等しい地点を結んだ線。

⇒ 等値線、等高線、等深線、等圧線、等降水量線、等時線

等間隔分類 (A)

マップ上でフィーチャを属性値で分類して表示する際に、格納されている数値の最小値から最大値までの範囲を等間隔に分割して分類する方法。特定の属性値について、他の属性値と比較したときの総数を強調する際に使用する。

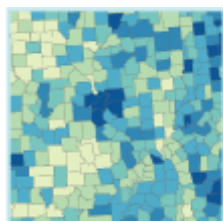
⇒ 自然分類、標準偏差分類、等量分類

同期 (A)

ジオデータベース レプリケーションにおいて、あるレプリカの変更内容を他のレプリカに適用する処理。

等級色 (A)

指定した分類法に基づいて分割された数値属性を色の範囲で示す表現方法。たとえば、人口密度の増加を色の濃淡で表したり、気温を青から赤への連続的な色の変化で表したりする場合に使用する。



等級シンボル [Graduated Symbol] (A)

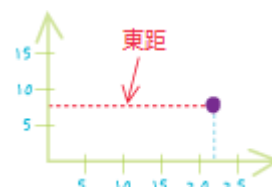
属性の値に応じてシンボルのサイズを変更させるシンボル表現方法。たとえば、人口が多くなるほど大きな円で表したり、河川の幅が広がるほど太いラインで表したりする。



東距

原点を基準にして割り当てられた X 座標値。たとえば、原点が地図の中央に位置する場合、東距に 0 が割り当てられると、原点の西にあるすべての地域は負となる。地図全体の X 座標軸を正にするには、東距を正の数値に設定する。「False Easting」とも呼ばれる。

⇒ 北距



等降水量線

降水量の等しい地点を結んだ線。

⇒ 等値線、等高線、等深線、等圧線、等時線、等温線

等高線

標高が等しい地点をつないだ線。

⇒ 等値線、等深線、等圧線、等時線、等温線、等降水量線



同時使用ライセンス [Concurrent Use License] (A)

ライセンス マネージャによって管理されるライセンス形態。ユーザは任意のコンピュータにソフトウェアをインストールすることができ、ネットワーク上のコンピュータにインストールされたライセンス マネージャに設定されているライセンス数分のユーザが同時にアプリケーションを実行することができる。略称として「CU」（Concurrent Use）とも呼ばれる。

⇒ 単独使用ライセンス

等時線

1. 特定の場所からの移動時間など経過時間の等しい地点を結んだ線。
2. 同じ時間に事象が発生している地点や状況が存在している地点を結んだ線。

⇒ 等値線、等高線、等深線、等圧線、等温線、等降水量線

等深線

地図上で水底の地形を表すため、水深の等しい地点を結んだ線。「同深線」とも呼ばれる。

⇒ 等値線、等高線、等圧線、等降水量線、等時線、等温線

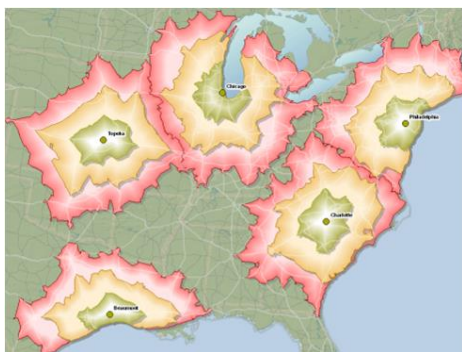
等積図法

「正積図法」を参照。

到達圏解析 ①

ある地点から特定の条件でアクセス可能なすべての道路およびその領域を検索するためのネットワーク解析。たとえば、ネットワーク上の 20 分の到達圏解析では、その位置から 20 分以内に到達できるすべての道路が含まれるポリゴンが生成される。

⇒ ルート解析



等値線

ある地点において計測されたデータの等しい値を結んだ線。「コンター」とも呼ばれる。

⇒ 等高線、等深線、等圧線、等降水量線、等時線、等温線

等量分類 ①

マップ上でフィーチャを属性値で分類して表示する際に、各階級に同じ数のデータが含まれるように分類する方法。

⇒ 等間隔分類、自然分類、標準偏差分類

トゥルー カーブ [True Curve]

「パラメトリック カーブ」を参照。

トゥルー カラー [True Color]

衛星画像の RGB カラー合成表示の一つ。可視領域の赤、緑、青に対応するバンドをディスプレイの RGB に割り当て、結果として人間の見た目に近い表示となる。⇒ ナチュラル カラー

ドーナツ ポリゴン [Doughnut Polygon]

内部に一つ以上の穴が開いたポリゴンのこと。ArcGIS でドーナツ ポリゴンを作成すると、マルチパート フィーチャとなる。



土地被覆

常緑樹や草地、雪氷、水域、裸地など土地表面を覆う植生や物質をあらわしたもの。

⇒ 土地利用

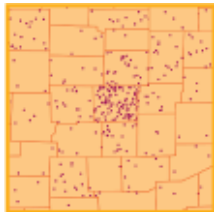
土地利用

農地や工業用地、商業用地、住宅地など、その土地の用途をあらわしたもの。

⇒ 土地被覆

ドット密度 [Dot Density] (A)

ポリゴンのフィールドの値に比例して同じサイズのドット（点）がランダムに配置されるシンボル表現方法。たとえば、日本全国を人口 50,000 人に対して 1 つのドットを使用して表現する場合、人口総数が多い都道府県ほど多くのドットが表示される。



凸包ポリゴン [Convex Polygon]

複数ポイントが存在する場合にすべてのポイントが含まれるよう、最外側の各ポイントを結んで形成されるポリゴン。

度/分/秒

経度と緯度を表す計測単位。60 進法で表された 139 度 41 分 30 秒（度分秒）を 10 進法で表すと 139.6916666 となる。

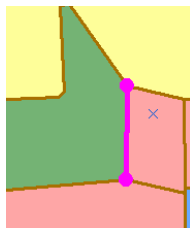
トポロジ [Topology] (A)

フィーチャ間の空間的な位置関係（接続性、隣接性、包含など）の整合性を管理する仕組みのこと。

⇒ マップ トポロジ、ジオデータベース トポロジ

トポロジ エlement [Topology Element] (A)

トポロジ編集の対象となるエッジおよびノード。



トポロジ ルール [Topology Rule] (A)

指定されたフィーチャクラス内のフィーチャ間、または 2 つの異なるフィーチャクラス間の空間的な制約条件。たとえば、「隣接する行政界は境界線を共有する」や「建物は土地区画内にある」といったようなルールを定義できる。

⇒ ジオデータベース トポロジ



ドメイン [Domain] (A)

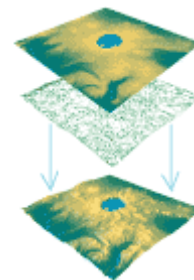
1. ジオデータベースのデータセットおよびフィーチャクラスに設定される座標範囲（最小最大 X、Y、Z 座標）のこと。データを格納できる座標の範囲を示す。データセットおよびフィーチャクラスの作成時に設定され、後から変更することはできない。
2. 「属性ドメイン」を参照。

トラック [Track] (A)

ArcMap、ArcScene、および ArcGlobe において、画面の移動や時系列変化といった同じタイプのキーフレームを繋げたもの。アニメーションとして再生することで、表示が動的に切り替わる。

ドレープ [Drape] (A)

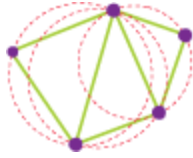
3 次元マップ上のサーフェスの表面に沿ってレイヤを重ね合わせる。たとえば、DEM（サーフェス）上に航空写真を重ね合わせることによって、現実に近いリアルな 3 次元を表現できる。



ドローネ三角形分割法 [Delaunay Triangulation]

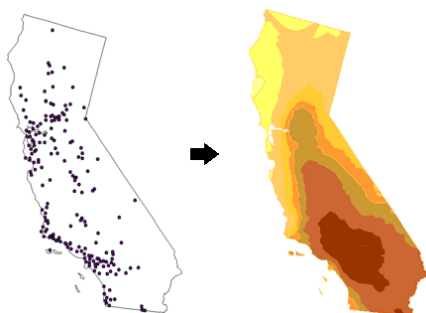
ポイント データから隙間が無くかつ重複しない三角形群を作成する手法。各三角形の外接円の内側には、ポイント データは含まれない。

⇒ TIN



内挿 ④

1. 周囲の地点の既知の計測値に基づいて、未知の地点の値を推定すること。標高値、降雨量、化学成分の濃度、騒音レベルなど、ある地点のデータについて未知の値を予測するときに使用される。ArcGIS Spatial Analyst エクステンション、ArcGIS 3D Analyst エクステンション、ArcGIS Geostatistical Analyst エクステンションではポイント データを内挿してサーフェスを作成するジオプロセッシング ツールを提供している。
 2. リニア リファレンスにおいて、ルート上の既知の 2 つの M 値間の M 値を計算する方法。
- ⇒ IDW、クリギング、Natural Neighbor、スプライン



ナチュラル カラー [Natural Color]

フォールス カラーの一種で植生が緑色に強調されて見えるようにバンドを割り当てたもの。特に SPOT HRV など可視の赤緑青に相当するバンドを持たないセンサーにおいては、バンド演算により疑似的にそれらを合成して RGB に割り当て、トゥルー カラーに近い見た目を実現するための手法。

日本測地系

「明治時代に全国の正確な 1/50,000 地形図を作成するために整備され、2002 年 4 月の改正測量法の施行前まで使用されていた日本の測地基準系。ベッセル楕円体を採用し、天文観測によって決定された経緯度原点の値と原方位角を基準として構築された。」^[12] 「旧日本測地系」または「東京測地系」と呼ばれることもある。

⇒ 世界測地系、日本測地系 2000

日本測地系 2000

2002 年 4 月 1 日の改正測量法の施行に伴い導入した、世界測地系に準拠した測地基準系。ITRF94 座標系、GRS80 楕円体を採用している。「JGD2000」(Japanese Geodetic Datum 2000 の略) とも呼ばれる。

⇒ 日本測地系、日本測地系 2011

日本測地系 2011

2011 年に発生した東北地方太平洋沖地震の影響で、2012 年 10 月の測量法によって改定された測地基準系。「JGD2011」(Japanese Geodetic Datum 2011 の略) とも呼ばれる。

⇒ 日本測地系、日本測地系 2000

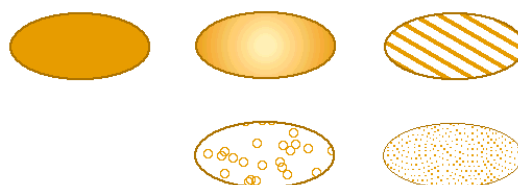
認証ファイル [Authorization File] ④

ArcGIS 製品のライセンス情報を含むファイル。認証ファイルには、機能名、バージョン、有効期限、登録番号、認証コードなどの情報が含まれる。

塗りつぶしシンボル [Fill Symbol] ④

マップ上で表示されるポリゴンに対して設定するシンボル。

⇒ マーカー シンボル、ライン シンボル



ネットワーク エLEMENT [Network Element] ④

ネットワーク データセットのコンポーネント (エッジ、ジャンクション、ターン)。これらは同じネットワーク 属性を共有する。

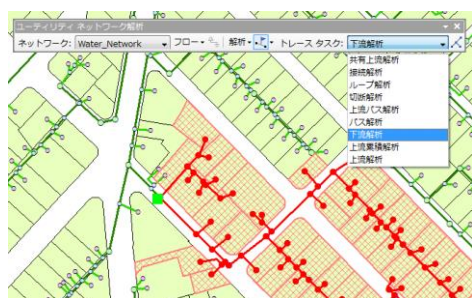
ネットワーク データセット [Network Dataset] ①

交通ネットワーク解析をする際に使用するデータ（ネットワーク エLEMENTのコレクション）。ArcGIS Network Analyst エクステンションを使用して作成することができる。



ネットワーク トレース [Network Trace] ①

ジオメトリック ネットワーク上でネットワーク解析を実行する機能。ネットワーク トレースには、接続されているフィーチャの検索、共通上流解析、ループ解析、上流解析、下流解析などがある。



ネットワーク フィーチャ [Network Feature] ①

ジオメトリック ネットワークのコンポーネント（エッジまたはジャンクション）。ネットワーク フィーチャは、ジオメトリック ネットワークの構築時にポイントとラインから生成され、ポイント フィーチャはジャンクションに、ライン フィーチャはエッジになる。

ネットワーク ロケーション [Network Location] ①

ルート解析のストップなど、ネットワーク解析の際に入力として使用できるネットワーク データセット内の位置。ネットワーク ロケーションには、ストップ、バリア、施設、インシデント、起点、終点の 6 種類がある。

ネットワーク解析 [Network Analysis] ①

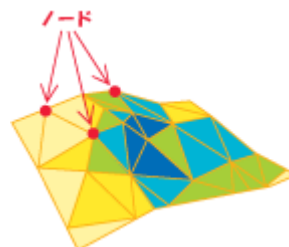
1. 最適ルートの検索、最寄り施設の検出、特定の場所からの到達圏の特定など交通ネットワークに基づいて行う解析。ArcGIS では、ArcGIS Network Analyst エクステンションを使用することで実現できる。
2. ポイントとラインの接続性とフロー（方向）を管理するモデルを使用して、発電所から各施設までの送電の流れや配水管の接続性など、主に電力やガス、水道などの設備ネットワークに対して行う解析。ArcGIS では、データ モデルとしてジオメトリック ネットワークを使用する。

ネットワーク属性 [Network Attribute]

ネットワーク データセット内のネットワーク エLEMENTに関連付けられる属性。ネットワーク属性には、コスト、記述子、階層、規制の 4 種類があり、ネットワークを通じた制御フローを支援するために使用される。

ノード [Node] ①

1. 「端点」を参照。
2. TIN を構成する三角形の頂点の 1 つ。



バージョン [Version] ①

ジオデータベース全体のある時点におけるスナップショット。個々のバージョンは、ジオデータベースの別々のコピーではなく、それぞれのバージョン内で編集された差分情報とともにシステム テーブルによって管理される。複数ユーザによる特定のデータに対する編集を行う際などに使用される。バージョンごとに個々のユーザの編集内容は独立しているため、編集用のデータのコピーを作成したり編集するフィーチャをロックしたりすることなく、他のユーザに直接影響を与えずに複数のユーザが同時に編集作業を行うことができる。バージョンは、ArcSDE ジオデータベースのみでサポートされる。

バージョン対応ビュー [Versioned View] ①

SQL を使用してジオデータベースのテーブルまたはフィーチャクラスにあるバージョン対応登録されたデータを読み取り、編集するためのビュー。

パーソナル ジオデータベース [Personal Geodatabase] ①

Microsoft Access の MDB ファイルにデータを保存するジオデータベース。パーソナル ジオデータベースは、複数のユーザが同時に参照することができるが、データを同時に編集できるのは一度に 1 ユーザのみである。ファイル サイズの上限は 2GB である。

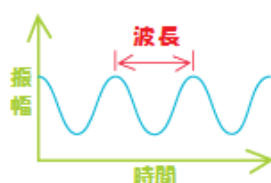
⇒ ファイル ジオデータベース

ハイパス フィルタ [High-pass Filter]

低周波の放射線を除外することで、よりシャープな画像を得ることができる特殊なフィルタ。

波長

空間を伝わる波の持つ周期的な長さ。波（電磁波や音波など）の山から次の山、または谷から次の谷までの水平距離をあらわす。



バックグラウンド処理 ①

ジオプロセシング ツールの実行モードの一つ。ジオプロセシング処理の実行中でも ArcMap などの実行元のアプリケーションを並行して操作することができる。

⇒ フォアグラウンド処理

ハッチ [Hatch] ①

1. ポリゴンを等間隔の平行線で覆うシンボル表現。
2. リニア リファレンスにおいて、指定した間隔でルート上に目盛りのように表示されるラインまたはマーカーシンボル。

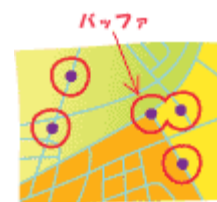


ハッチ スタイル [Hatch Style] ①

リニア リファレンスで使用するルートに適用するハッチの定義（シンボルや設定）を格納するスタイルで、スタイル ファイルとして保存される。ハッチ スタイルを利用することで、異なるマップやデータ ソース間で、一貫したハッチのシンボル表現を維持することができる。

バッファ [Buffer] ①

対象のフィーチャ（ポイント、ライン、ポリゴン）から指定された距離で周囲を囲む、等距離圏の領域を作成する処理およびその領域（ポリゴン）のこと。



パラメトリック カーブ [Parametric Curve]

細かい直線の集まりで表された疑似的な曲線ではなく、数学的に定義された曲線で、端点にそれぞれ存在する 2 つの頂点だけで構成される。「トゥルー カーブ」とも呼ばれる。

⇒ ベジエ曲線、円弧

バリア [Barrier] (A)

1. 交通ネットワーク解析において、ネットワークのエッジまたはジャンクションを経由する移動を制限する障害物や現象（例：工事箇所、浸水エリアなど）。
2. ジオメトリック ネットワークのネットワーク トレースを実行する際、トレースが遮断されるネットワーク上の地点。ネットワークの特定の部分のみをトレースする場合などに使用することで、ネットワークのその部分を分離することができる。
3. ラスタの内挿時に、入力サンプル ポイントの検索を制限する境界を示すためのポリゴンまたはライン フィーチャ。このフィーチャは、崖、尾根、その他の地形上の分断などを表す場合などに使用する。

バリオグラム [Variogram]

データの空間的自己相関を定量化する、距離と方向の関数。2 点間の値の差の分散として定義される。

⇒ セミバリオグラム、クリギング

範囲ドメイン [Range Domain] (A)

数値および日付属性に対してあらかじめ最小値と最大値を設定することで、入力可能な属性値の範囲を制限するための属性ドメイン。たとえば、水道管データの作成において入力する配水管の水圧の値が 50 ～ 75psi であると決まっている場合、この属性に範囲ドメインを設定することで、ユーザによって入力された値が範囲内であるかチェックすることができる。

⇒ コード値ドメイン

半球

1. 地球のような天体の半分。
2. 球体の半分。

パנקロマティック画像 [Panchromatic Image]

一般にグレースケールで表示される高解像度シングルバンド画像。

⇒ パンシャープン、マルチスペクトル画像

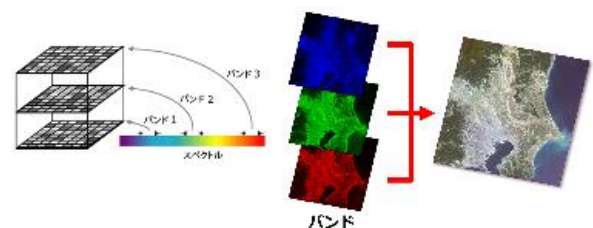
パンシャープン [Panchromatic Sharpening]

高解像度パנקロマティック画像と低解像度カラー

(RGB) 画像を利用し、高解像度カラー画像を生成するための画像処理手法。

バンド [Band]

電磁波スペクトルのカラー バンドに由来し、同じ性質を持つ隣接する波長や周波数を表したものの。たとえば、可視光は電磁波スペクトルの 1 つのバンドである。他にも電波、ガンマ線、赤外線が電磁波スペクトルに含まれる。ラスタ データは、複数のバンドから構成するレイヤ構造を持つことができ、複数のバンドをまとめて 1 つの画像ファイルに格納することができる。



バンドパス フィルタ [Band-pass Filter]

他の周波数の信号をブロックするか弱めることで、特定の周波数の信号のみを通す波長フィルタ。

バンド比 [Band Ratio]

デジタル イメージ処理技術のことで、あるバンドのピクセルの反射値を別のバンドのピクセルの反射値で除算することで地物間のコントラストを強調する。

凡例

地図に表示されている記号や色などが何を示しているかを説明するもの。

ArcMap においては、コンテンツ ウィンドウ内に表示されるほか、マップ レイアウト内に追加して表示することができる。

⇒ レイアウト ビュー



引出し線 ①

フィーチャの地理的な位置からそれに対応するアノテーションまたはラベルに伸びるマップ上の線。地図上の特定の領域に多数のフィーチャが集中して存在していて、アノテーションやラベルを地図上の本来の位置に表示するための十分な領域が確保できない場合に使用される。

ピクセル [Pixel]

イメージまたはラスタ データの情報の最小単位。通常は、正方形や長方形。多くの場合、セルと同じ意味で使用される。

ピクセル深度 [Pixel Depth] ①

「ビット深度」を参照。

ビジネス テーブル [Business Table] ①

ArcSDE において、フィーチャクラスの空間情報および属性情報を格納した DBMS テーブル。ビジネス テーブルの名称はフィーチャクラスの名称となる。

⇒ フィーチャ テーブル

ヒストグラム平坦化 [Histogram Equalization]

画像内のピクセル値を再配分し、それぞれの階調におおよそ同じ数のピクセルを含むようにすること。これにより値の分布を示すヒストグラムはほぼ平坦になる。

日付変更線

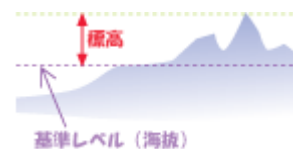
東経 180 度および西経 180 度の子午線を基本として引かれる便宜上の線で、この線を超えると日付が変わる。日付変更線を東から西に超えると 1 日進み、西から東へ超えると 1 日戻る。

ビット深度 [Bit Depth] ①

特定のラスタ ファイルにおいて、各セル（ピクセル）に格納できる値の範囲。この範囲は、2 の n 乗に基づき決定される（n の値がビット深度の値となる）。たとえば、8 ビット深度のラスタ データセットの場合、1 セルあたり 0 ～ 255 の内の 256 個の個別値を保存することができる。ピクセル深度ともいう。

標高

地理学における平均海面からの高さのこと。日本では東京湾の平均海面を 0m とする。



表示縮尺範囲 ①

「縮尺範囲」を参照。

表示単位 ①

ArcMap における座標値や距離を表示する単位。通常は、データ フレームに定義されている座標系の単位に依存するが、任意に変更することができる。

表示範囲枠 ①

レイアウト ビュー内に複数のデータ フレームが存在している場合に、あるデータ フレーム上に別のデータ フレームの表示範囲を表示する枠。概観図を表示する場合に役立つ。

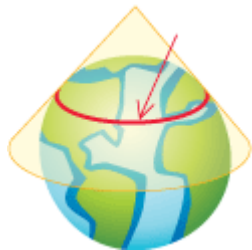
標準アノテーション [Standard Annotation] ④

ジオデータベースに格納され、他のフィーチャに形式上関連付けられていないアノテーション。たとえば、地図上で山脈の大まかな位置を示すために使用する山脈名のアノテーションなど、主に名前や位置が頻繁に変更される予定がない（このためフィーチャと関連づける必要がない）地物の表示の際などに適している。

⇒ フィーチャリンク アノテーション

標準緯線

円錐図法または円筒図法において投影面が地表面と接する緯線。接円錐図法または接円筒図法では標準緯線が 1 本、割円錐図法または割円筒図法では標準緯線が 2 本ある。投影された地図の標準緯線上では歪みが無い。



標準地域メッシュ

統計に利用するために、緯度・経度に基づいて地域をほぼ同じ大きさの網の目（メッシュ）に分けたもの。第 1 次から第 3 次までが定められている。第 1 次メッシュは約 80km 四方、第 2 次メッシュは約 10km 四方、第 3 次メッシュは約 1km 四方となる。標準地域メッシュのコードは、日本工業規格（JIS）となっており、第 1 次は 4 桁、第 2 次は 6 桁、第 3 次は 8 桁の数字でそれぞれ表される。

標準偏差

統計学において、ある値の散らばりの度合いを表す。各値とその平均値の差をそれぞれ二乗したものの平均値を求め、その平方根が標準偏差となる。

標準偏差分類 ④

マップ上でフィーチャを属性値で分類して表示する際に、格納されている数値の平均値を上回る方向と下回る方向にそれぞれ標準偏差の間隔を閾値として設定して分類する方法。特定のフィーチャの属性値が平均値からどれだけ離れているかを示す際に使用する。

⇒ 等間隔分類、自然分類、等量分類

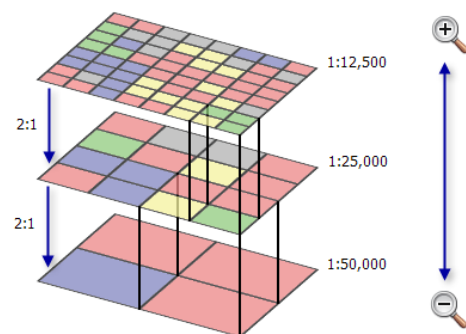
標準ラベル エンジン [Standard Label Engine] ④

ラベリングを行う仕組み（ラベル エンジン）のひとつ。表示の際の重なり回避や配置の設定を行うことができる。ArcMap のデフォルトのラベル エンジンである。

⇒ Maplex ラベルエンジン

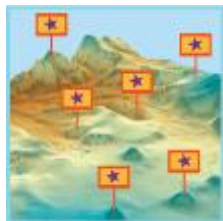
ピラミッド [Pyramid] ④

ラスタ データセットの表示パフォーマンスを向上させるデータ構造の 1 つ。表示縮尺レベルに応じて段階的に解像度を低くした元のラスタ データのコピーをレイヤ構造として持ち、小縮尺表示時にはより低い解像度で描画し、拡大表示するにつれより高解像度（元のラスタ データでの解像度に近い解像度）で描画する。これにより特に小縮尺時に表示するセル（ピクセル）の数が少なくて済むため、描画速度を早くすることができる。ピラミッドは、ソースとなるラスタ データと同じディレクトリに作成されるファイルに格納される



ビルボード表示 [Billboarding Effect] (A)

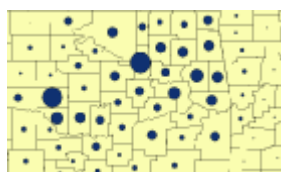
3 次元マップのフィーチャに関連付けられたグラフィックスを 2 次元のシンボルとして垂直に配置し、それらが常にユーザのほうを向くように表示する手法。



比例シンボル [Proportional Symbol] (A)

属性の実際の値に比例してシンボルの大きさを表現するシンボル表現方法。

たとえば、震度マップを円のシンボルを使用して作成する場合、マグニチュード 6.0 のシンボルの大きさはマグニチュード 3.0 のシンボルの大きさの 2 倍になる。



ファイル ジオデータベース [File Geodatabase] (A)

Esri 社独自の形式でファイル フォルダ内にデータを保存するジオデータベース。ファイル ジオデータベースは、複数のユーザが同時に参照することができるが、データを同時に編集できるのは一度に 1 ユーザのみである。各データの最大サイズは 1TB である。

⇒ パーソナル ジオデータベース

フィーチャ [Feature] (A)

現実世界に存在する地物や事象の位置や形状をモデル化した個々のデータ。ジオメトリと属性から構成される。

⇒ フィーチャクラス、フィーチャ データセット



フィーチャ ウェイト [Feature Weight] (A)

ArcMap において、対象レイヤまたは他のレイヤのラベルを重ねて描画するかどうかを決定する、フィーチャに対するパラメータ。フィーチャのウェイトが「高」で、ラベルのウェイトが「低」の場合、ラベルはフィーチャに重ならないように表示される。

フィーチャ キャッシュ [Feature Cache] (A)

ArcMap に現在表示されているマップ範囲のジオデータベースのフィーチャをローカル コンピュータのメモリに一時的に格納することにより、フィーチャの描画や編集といった操作のパフォーマンスを向上できる機能。

フィーチャ サービス [Feature Service] (A)

ベクタ データを配信する、マップ サービスの 1 つ。フィーチャ サービスを利用することにより Web アプリケーションおよびその他のクライアント アプリケーションからフィーチャを編集することができる。

フィーチャ データセット [Feature Dataset] (A)

ジオデータベースにおいて、同じ座標系を持つフィーチャクラスを 1 つのデータセットとしてまとめたもの。関連性のあるさまざまなフィーチャクラスを空間的または主題別に統合して管理するために使用される。トポロジ、ネットワーク データセット、テレイン データセット、ジオメトリック ネットワークの構築において、それぞれに関連するフィーチャクラスを共通のデータセットとしてまとめる場合に使用される。

⇒ フィーチャクラス

フィーチャ テーブル [Feature Table] (A)

各フィーチャのジオメトリを格納する ArcSDE ジオデータベースのテーブル。フィーチャ テーブルは、データをバイナリ データ タイプとして格納し、テーブル名の先頭に「f」が付く。

⇒ ビジネス テーブル

フィーチャクラス [Feature Class] ④

共有の主題（例：消火栓、道路、建物）を持つフィーチャの集合体。最もよく使用されるフィーチャクラスのデータ形式はジオデータベースやシェープファイルなどである。フィーチャクラス内の各フィーチャは、同一のジオメトリ タイプ、属性フィールド、空間参照を持つ。

⇒ フィーチャ、フィーチャデータセット



フィーチャ抽出 [Feature Extraction] ④

画像から、ピクセルの配置パターンなどを読み取って画像を分類し、地物の形状を抽出すること。

フィーチャリンク アノテーション [Feature Linked Annotation] ④

同じジオデータベース内に存在する他のフィーチャクラス内のフィーチャと関連付けられている[アノテーション](#)。たとえば、水道管フィーチャクラスとリンクするフィーチャリンク アノテーションは、水道管フィーチャクラスの属性フィールドに存在する水道管の名前をアノテーションとして表示することができる。この場合、特定の水道管の位置を移動するとリンクされたアノテーションの位置も一緒に移動し、属性フィールドの水道管の名前を変更すると、アノテーションのテキストも更新される。このため、更新頻度の高いフィーチャクラスに対するアノテーションの管理には有効である。フィーチャリンク アノテーションは、ArcGIS for Desktop の Standard および Advanced ライセンスで作成することができる。

⇒ 標準アノテーション、リレーションシップ クラス

フィールド [Field] ④

属性値を格納するテーブル内の列。

フィールド →

FID	名前	形状
1	道路	ライン
2	高層	ポイント
3	湖	ポリゴン

フィールド マッピング [Field Mapping] ④

ジオプロセッシングにおいて、入力データセットと出力データセットのフィールドの対応付けを行うこと。

フィールド演算 [Calculate Field] ④

属性テーブル内の各フィールドの値を演算処理により編集する機能。単一のレコードだけでなくすべてのレコードもしくは選択されているレコードに対して一括でフィールド値を編集することが可能。任意のフィールドの値を別のフィールドに一括でコピーしたり、複数のフィールドの値を用いた演算処理により新しいフィールドの値を算出したりする際に有効である。VBScript や Python のコード、関数を使用し、高度な演算を実行することもできる。

フィルタ設定 [Definition Query] ④

ユーザが作成した条件に基づいてフィーチャまたはテーブル内の属性情報を検索し、条件を満たしているフィーチャまたはレコードのみを表示する機能。

フィルタリング [Filtering]

1. データベース等において、特定の条件によりデータを抽出すること。
2. ラスタ データのエラーを除去したり地物を強調したりするなど品質を改善するために使用される処理。多くの場合、3 x 3 ピクセルなどのサイズのフィルタ カーネル（ウィンドウまたは近傍）を各ピクセルに順次適用し、中心ピクセルと近傍のピクセルとで演算を行う畳み込み積分が使用される。

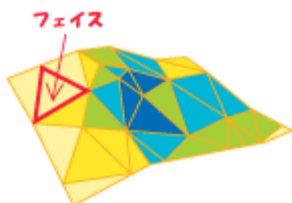
ファイレット [Fillet] (A)

ArcMap の [ファイレット] ツールで作図される、2 つの線分に正接する円弧。土地区画フィーチャでの角丸コーナーなど、角を曲線で滑らかにする場合に使用される。



フェイス [Face] (A)

TIN において、3 つのエッジと 3 つのノードによって区切られた個々の三角形のこと。フェイス同士はオーバーラップせず、それぞれ他の 3 つのフェイスに隣接する。フェイスにより、傾斜と勾配を持つ面が定義される。



フォアグラウンド処理 [Foreground Processing] (A)

ジオプロセッシング ツールの実行モードの一つ。ジオプロセッシング処理の実行中は、処理が完了するまで ArcMap などの実行元のアプリケーションを操作することができない。

⇒ バックグラウンド処理

フォーカル統計 [Focal Statistics] (A)

個々の入力セルの値と、そのセルから特定の範囲内にあるセルの値との統計値を求めること。ArcGIS Spatial Analyst エクステンションの機能の 1 つ。

フォールス カラー [False Color]

衛星画像の RGB カラー合成表示の一つ。トゥルー カラー以外の RGB の割り当て方法はすべてフォールス カラーであるが、慣例的に近赤外、可視赤、緑に対応するセンサー（バンド）をディスプレイの RGB に割り当たもの（赤外カラー）をこの名前で呼ぶことも多い。

フォルダ接続 [Folder Connection] (A)

ArcCatalog の カタログ ツリー から、ローカル ディスクまたはネットワーク上で共有されているフォルダに接続するためのショートカット。フォルダ接続を作成することにより、各種 GIS データやドキュメントに簡単にアクセスすることができる。

フットプリント [Footprint] (A)

ジオデータベースの ラスタ カタログ や モザイク データ セット に含まれる、各ラスタ データセットの範囲（多くの場合は矩形）。



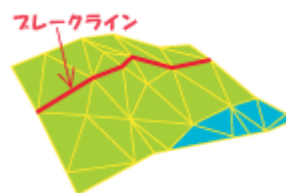
不定フロー方向 [Indeterminate Flow Direction] (A)

ジオメトリック ネットワークにおいて、未知または未発見の フロー方向。ネットワークの接続性、ソースとシンク の位置、およびフィーチャの有効/無効状態からフロー方向を決定できない場合に発生する。

⇒ 定義フロー方向、未定フロー方向

ブレイクライン [Breakline] (A)

TIN サーフェス モデル において、なめらかさと連続性に関するサーフェスの状態を定義しコントロールするために用いられるライン フィーチャ。たとえば、尾根、道路、河川などのフィーチャをブレイクラインとして定義することにより、サーフェスの勾配の明確な中断を表すことができる。



不連続データ [Discrete Data]

明瞭な境界線を持つ地物や事象を表現するデータ。例として、敷地境界線や道路のデータがある。

⇒ 連続データ

フロー方向 [Flow Direction] (A)

ジオメトリック ネットワーク内のエッジ エレメントを通じて物質（水、電気 など）がたどるルートまたはコース。

⇒ 定義フロー方向、未定フロー方向、不定フロー方向

ブロック属性 [Block Attribute] (A)

CAD データにおける 1 つのオブジェクトを形成する関連オブジェクトの集合。

平均海面

長期間にわたり計測された潮汐により変化する海面の高さの平均。毎時の測定値の高さを平均化することで決定される。

平射図法

回転楕円体または球体上の点を接平面または割平面上に投影する地図投影法。接平面投影の場合は接点に対して視点が地球の反対側に位置する。「ステレオグラフィック図法」とも呼ばれる。



平面図法

「方位図法」を参照。

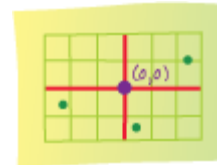
平面直角座標系

日本国内を測量するために策定された平面直角座標系で、東西 130km 以内を適用範囲とする 19 の地域の座標系が定義されている。地図投影法としてガウス-クリューゲル図法を用いており、比較的狭い範囲を対象とした大縮尺の地図に使用される。

平面直角座標系

水平方向の距離が X 軸沿い、垂直方向の距離が Y 軸沿いに計測される 2 次元平面座標系。平面上の各点は XY 座標で定義される。相対的な距離、相対的な面積、相対的な方向は、直角座標平面全体で一定である。

⇒ 座標系



ベースマップ [Basemap] (A)

主題情報の背景として、地形、道路、目標物、行政界などの参照情報を描画するマップ。「背景図」とも呼ばれる。



ベクタ [Vector]

ポイント、ライン、ポリゴンとして地物を図形で表す座標ベースの空間データ モデル。明確な位置や境界を持つ地物（例：建物、行政界）を表すのに適している。「ベクトル」とも呼ばれる。

⇒ ラスタ



ベクタ変換 [Vectorization]

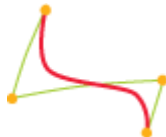
ラスタ データ（セル値の配列）をベクタ データ（一連のポイント、ライン、ポリゴン）に変換する処理。

ベクトル [Vector]

「ベクタ」を参照。

ベジエ曲線 [Bézier Curve]

互いに接続された一連の頂点によってではなく、形状が数学的に定義された曲線。通常、ベジエ曲線には 2 つの端点と 2 つのコントロール ポイントがあり、これらのポイントを移動してカーブの方向と傾きを変更する。



変化抽出

複数の期間に、特定の領域の属性がどのように変化したかを求めるための処理。主に異なる時期に撮影された領域の航空写真または衛星画像を比較する際に用いられる。環境モニタリング、自然資源管理、都市開発などで使用されている。

編集セッション [Edit Session] ①

ArcMap において、フィーチャの編集が可能な状態。フィーチャの位置、ジオメトリ、または属性の変更を対話的に行うためには編集セッションを開始する必要がある。

偏心率

楕円と円を比較して、どれくらいつぶれているかを示す尺度。中心と楕円の焦点間の距離と楕円の半長軸との比で表される。一般に、楕円体を定義するには、偏心率の二乗 (e^2) と半長軸 (a) を使用する。



偏楕円体

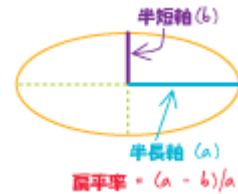
楕円を短軸のまわりに一回転して得られる楕円体。地球は扁平率がほぼ 1:298.257 の偏楕円体である。

⇒ 回転楕円体



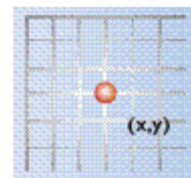
扁平率

球体と比較して偏楕円体がどれくらい扁平しているかを示す尺度。扁平率は、半長軸の長さから半短軸の長さを引いた値と半長軸との比である。



ポイント [Point] ①

一对の X 座標と Y 座標で定義されるジオメトリ。

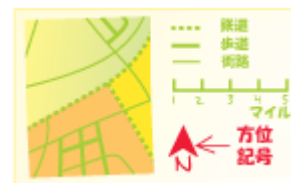


方位

他のポイントを基準にしたポイントの水平方向であり、既知の方向（通常は北）からの角度。基準方向の 0 度から時計回りに 360 度回転した状態で計測される。

方位記号

地図上の北の向きを示す記号。



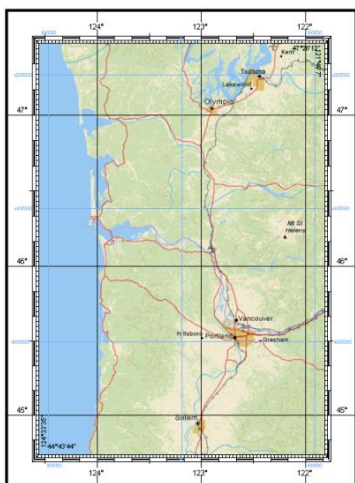
方位図法

回転楕円体または球体の点を接面または割面上に投影する地図投影法。方位図法は、「平面図法」または「天頂図法」とも呼ばれる。



方眼格子線 ①

マップ単位で等間隔に区切られた網目状の水平線および垂直線。方眼格子線はページ レイアウト内に配置される。



方眼北

投影座標系の地図における方眼の縦線の上方向。

放射量補正

大気効果（霧など）やリモート センシング データの計測誤差による歪みに応じて、データ値を補正または修正する手法。

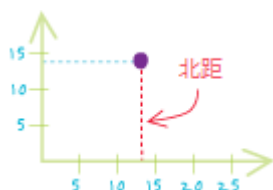
補間

「内挿」を参照。

北距

原点を基準にして割り当てられた Y 座標値。たとえば、原点が地図の中央に位置する場合、北距に 0 が割り当てられると、原点の南にあるすべての地域は負となる。地図全体の Y 座標軸を正にするには、北距を正の数値に設定する。「False Northing」とも呼ばれる。

⇒ 東距



補助曲線

緩やかに傾斜しているところや複雑な地形をしている地域などで、主曲線だけではその特徴をあらわすことが不十分な部分にわかりやすくするために表示する等高線および等深線のこと。[13]

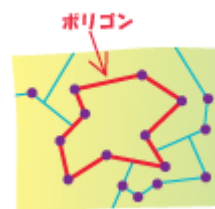
⇒ 計曲線

ポスト [Post] ①

バージョン対応のジオデータベースの編集時に、リコンサイルした編集セッションの内容をターゲット バージョンに適用する操作。

ポリゴン [Polygon] ①

接続された一連の XY 座標（頂点）によって定義される閉じた形状のジオメトリ。最初の座標と最後の座標は同一である。

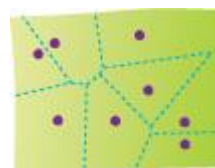


ポリライン [Polyline] ①

複数のライン（または線分）によって定義される形状。

ボロノイ図 [Voronoi Diagram]

隣り合う母点間を結ぶ直線に垂直二等分線を引き、各母点の最近隣領域を分割する手法。たとえば、すべての店舗の位置に基づいて、各店舗に最も近い商圈を定義できる。「地球物理学や気象学で（降雨量測定のような）空間分布データの解析に用いられるボロノイ図は、アメリカ人気象学者アルフレッド・H・ティーセンの名前を取って、ティーセン ポリゴンと呼ばれている。」[14]



本初子午線

他のすべての子午線の基準となる、経度 0 度の子午線。

現在、国際的に使用されている本初子午線はグリニッジ
子午線を継承した IERS 基準子午線である。



マーカー シンボル [Marker Symbol] (A)

マップ上で表示されるポイントに対して設定するシンボル。

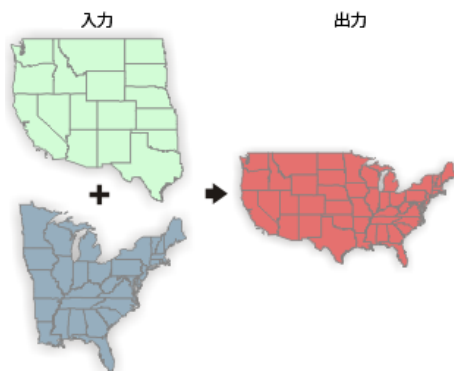
⇒ 塗りつぶしシンボル、ライン シンボル



マージ [Merge] (A)

同じジオメトリ タイプ (ポイント、ライン、ポリゴン) の複数のデータ ソースを 1 つの新しいデータセットに出力するジオプロセッシング ツール。

⇒ アペンド



マージ ポリシー [Merge Policy] (A)

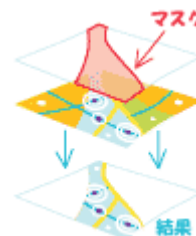
ジオデータベースにおいて、編集時にマージされるフィーチャの各属性への処理を規定するルール。マージ ポリシーを設定して、新しい属性にデフォルト値や、合計値、加重平均値などを割り当てることができる。

マス ポイント [Mass Point] (A)

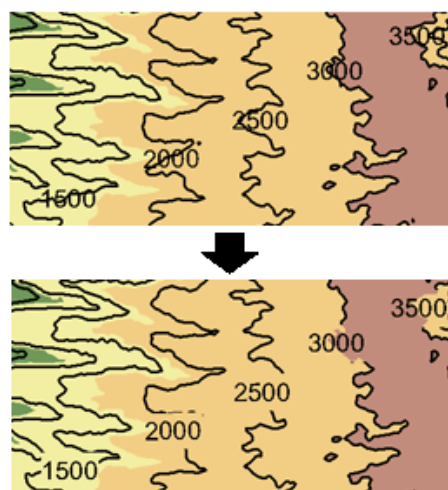
主に TIN を構築するために使用される、Z 値の情報を持つデータ (標高点、LIDAR や写真測量データなど計測されたデータ など)。

マスク [Mask] (A)

1. 解析の対象にする地域を特定する手段。このようなマスクは解析マスクとも呼ばれており、ラスタまたはフィーチャのどちらかを使用することができる。



2. マップ上のフィーチャを覆い隠す、または非表示にする手法。たとえば、テキストの下にあるフィーチャを覆い隠して、テキストを読みやすくするため使用される。



マップ アノテーション [Map Annotation] (A)

手動で入力、またはラベルから生成したテキストまたはグラフィックスで、マップに格納される。マップ アノテーションは、個別に選択、配置、変更することができる。

⇒ アノテーション

マップ エlement [Map Element] (A)

印刷用地図に追加するグラフィックスまたはオブジェクト。マップ エlementは、凡例、方位記号、縮尺記号、テキスト、テーブル、タイトル、グラフなど、地図を構成するすべてのオブジェクトの総称。

マップ キャッシュ [Map Cache] (A)

ジオデータベースの特定のマップ範囲内のフィーチャをデスクトップ コンピュータのメモリに一時的に格納する ArcMap の設定。これにより、ArcMap での編集、表示、ラベリングのパフォーマンスが向上する場合があります。

⇒ タイル

マップ サービス [Map Service] (A)

マップを Web サービス化したもの。ArcMap で作成したマップを ArcGIS for Server から マップ サービスとして公開することにより、Web アプリケーション、ArcGIS for Desktop、ArcGIS Online、およびその他のクライアント アプリケーションで使用できる。

マップ テンプレート [Map Template] (A)

新しいマップの作成元となる マップ ドキュメント ファイル (*.mxd)。よく使用するデータや印刷レイアウトをマップ テンプレートとして保存しておく、同じようなマップを作成するときに再利用したり、組織内で共有したりすることができる。

マップ ドキュメント [Map Document] (A)

ArcMap 上で行った各種設定（参照データ、マップの表示設定など）を保存したファイル（拡張子 *.mxd）。

マップ トポロジ [Map Topology] (A)

線分や頂点が一致していると見なされるフィーチャ間に一時的に構築する トポロジ。これによって、ジオメトリを共有する複数のフィーチャの形状に対して整合性を保ったまま同時に編集できる。シェープファイル、ジオデータベースのフィーチャクラスに対してマップ トポロジを構築することができる。

⇒ ジオデータベース トポロジ

マップ パッケージ [Map Package] (A)

マップ ドキュメント (*.mxd) と、そこに含まれるレイヤによって参照されるデータが、1 つのファイルにパッケージ化されたもの。他の ArcGIS ユーザとのマップ ドキュメントおよびデータの共有が容易になる。

⇒ レイヤ パッケージ

マップ ブック [Map Book] (A)

マップを印刷、エクスポートすることにより出力されるページをまとめたもの。手動でも作成できるが、データドリブン ページの機能を利用することで、同一レイアウトのページを自動的に作成できる。

マップ代数演算 [Map Algebra] (A)

ArcGIS Spatial Analyst エクステンションのツール、関数、演算子を組み合わせることで解析を行う構文。[ラスタ演算] ジオプロセッシング ツールで利用し、複雑な処理を迅速に簡単に行うことができる。

マップ単位 [Map Unit] (A)

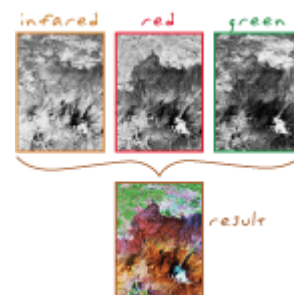
空間データの座標の格納に使用される地表の計測単位（メートル、キロメートル、マイルなど）。ArcMap では データ フレームの座標系の単位がマップ単位となる。

⇒ 表示単位

マルチスペクトル画像 [Multispectral Image]

複数の波長帯を観測して得られた画像。

⇒ トゥルー カラー、フォールス カラー



マルチスペクトル センサー [Multispectral Sensor]

衛星と航空機に搭載されるデバイスで、電磁波スペクトルの一部のエネルギーを記録する。

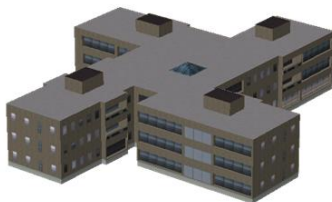
マルチパート フィーチャ [Multipart Feature] ①

複数のフィーチャを 1 つのオブジェクトとして扱うフィーチャ タイプ。複数のフィーチャが属性テーブルの 1 つのレコードに関連付けられる。たとえば、沖縄県は複数の島で構成されているが、マルチパート フィーチャとして定義することにより 1 つの県として扱うことができる。マルチパート フィーチャには、ポイント、ライン、ポリゴンがある。



マルチパッチ [Multipatch] ①

テクスチャ、色、透過性、およびフィーチャの各部を表すジオメトリ情報が格納された 3D オブジェクト。主に建物を表す場合に利用される。



マルチポイント [Multipoint] ①

複数のポイントを 1 つのオブジェクトとして扱うことができるジオメトリ。



マルチモーダル ネットワーク [Multimodal Network] ①

ArcGIS Network Analyst エクステンションにおいて、複数の移動モード（徒歩、電車、バス、自動車など）を組み合わせた解析が行えるネットワーク モデル。

⇒ ネットワーク データセット



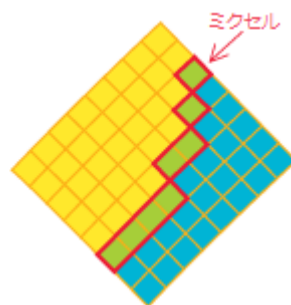
マルチユーザ ジオデータベース [Multiuser

Geodatabase] ①

ArcSDE によって RDBMS で管理されるジオデータベース。非常に大きなデータベースを運用することができ、複数ユーザが同時にデータを編集することができる。さまざまな RDBMS 製品 (Oracle、Microsoft SQL Server、PostgreSQL など) をサポートする。

ミクセル [Mixed Pixel]

1 つのピクセルに複数の要素が混在したピクセル。リモート センシングにおいて、ピクセルのデジタル値は、ピクセルが覆う地表面の地域内で、異なる種類の要素によって各々放射または反射された複数のスペクトルの集合の平均を表す。ミクセルは一般的にフィーチャのエッジに沿って見られる。



密度解析 ①

計測値が得られている複数の地点をサンプルとして、各地点における計測値の数量と各地点間の空間的な関係をもとに全体的な数量の分布を推計する処理。

⇒ カーネル密度

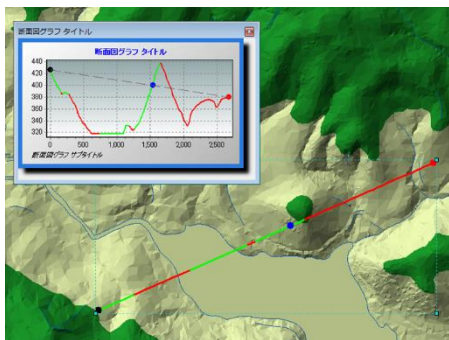
未定フロー方向 [Uninitialized Flow Direction] ①

ジオメトリック ネットワークにおいて、一部のエッジの流向が不明な状態。エッジがソースやシンクに適切に接続されていない場合や、エッジが無効化されたフィーチャだけを経由してソースまたはシンクに接続している場合に発生する。

⇒ フロー方向

見通し線 ①

観測点と目標点の 2 つのポイントの間に引かれた線。地形の高低差や建物などの障害物の有無を考慮して、観測点から目標点が可視であるかどうかを示す。見通し線解析を実行すると可視が緑の線、不可視が赤の線で表される。ArcGIS 3D Analyst エクステンションで見通し線を作成するツールを提供している。



メジャー値 [Measure Value] ①

「M 値」を参照。

メタデータ [Metadata]

データの仕様や付随情報を説明するデータ。GIS データのメタデータ項目には標準仕様があり、いつ、どこで、どのように、誰が収集したかといったデータの取得情報、配布条件、データ内容、精度や解像度、座標系などの情報が含まれる。ArcGIS で管理するデータのメタデータはプロパティとドキュメントから構成される。データの座標系情報などは、データ ソースから自動でプロパティに入力される。ドキュメントはユーザが手動で入力する。

メタデータ プロファイル [Metadata Profile] ①

標準化団体、機関、または組織が採用しているメタデータ規格に対する修正事項を示したドキュメント。プロファイルにより、元々規格に含まれていたメタデータの要素の総数を減らしたり、要素の採用を制限したり、オプションであった要素を必須にしたりすることができる。

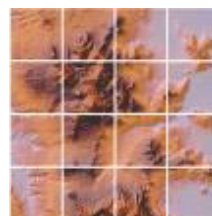
メッシュ [Mesh]

対象地域全体を同一サイズの四角形で区切る、格子状(網の目状)のデータ(通常はポリゴン データ)。地理データの検索や場所の特定、統計情報の算出、図郭の管理などに使用される。代表的なものとして、国が地域の統計に用いるため経緯度に基づき設定した標準地域メッシュがある。

⇒ グリッド

モザイク [Mosaic] ①

1. 複数の隣接する画像データを接合して作成した 1 つのラスタ。



2. 「モザイク データセット」を参照。

モザイク データセット [Mosaic Dataset] ④

複数の ラスタ データセット をジオデータベースで一括して管理する方法の 1 つ。ラスタ カタログ のように個々のラスタ データセットを管理できるほか、動的にモザイク処理されたイメージとして参照や関数演算処理、効率的な画像の検索を実行できる。モザイク データセットは、ArcGIS for Desktop の Standard および Advanced ライセンスで作成することができる。

モデル [Model] ④

ArcGIS の ModelBuilder で作成された、複数のジオプロセス ツールを組み合わせた一連の処理フローのこと。

モデル エlement [Model Element] ④

ModelBuilder におけるモデルの基本的な構成要素。ツール、変数、コネクタの 3 種類がある。

最寄り施設解析 ④

ある地点から最も近い場所（施設）を検索するネットワーク解析。たとえば、自動車事故の現場から最も近い病院を検索できる。最寄り施設を検索する際には、検索施設の数と移動方向（ある地点から施設へ、または施設から地点へ）を指定することができる。また、検索範囲を制限する閾値を指定することもできる（たとえば、事故現場から 3 キロ以内にある病院を検索するなど）。

ArcGIS Network Analyst エクステンションの機能の 1 つ。



ユークリッド距離 [Euclidean Distance]

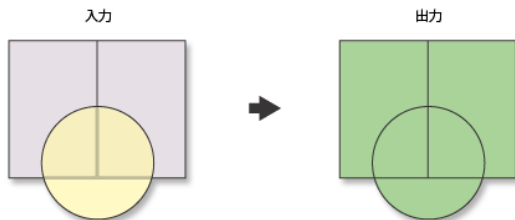
平面上の 2 点間の直線距離。



ユニオン [Union] ㊤

複数の入力ポリゴン データを重ね合わせて、すべてのフィーチャの形状を合併した状態で出力する処理。入力ポリゴンの属性値は出力ポリゴンにコピーされる。ジオプロセシング ツールのオーバーレイ解析機能の 1 つ。

⇒ インターセクト、イレース



ユニバーサル横メルカトル図法 [Universal Transverse

Mercator Projection]

「UTM」を参照。

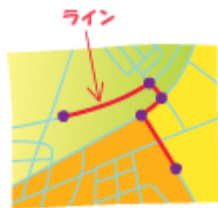
ライセンス マネージャ [License Manager] (A)

同時使用ライセンスを管理するプログラム。同時に使用できるソフトウェアの最大ライセンス数とライセンスを利用しているユーザ数をモニターし、ユーザに対するライセンスの利用の可否を制御する。

ライン [Line] (A)

接続された一連の XY 座標（頂点）によって定義される形状のジオメトリ。「ポリライン」とも呼ばれる。

⇒ ポイント、ポリゴン



ライン シンボル [Line Symbol] (A)

マップ上で表示されるラインに対して設定するシンボル。

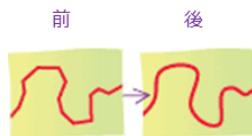
⇒ 塗りつぶしシンボル、マーカー シンボル



ラインのスムージング [Line Smoothing] (A)

ラインの線分に頂点を追加し、ラインの鋭角を滑らかにする処理。ラインを滑らかにすることで見栄えを良くすることができる。

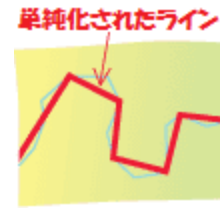
⇒ ラインの単純化



ラインの単純化 [Line Simplification] (A)

ラインの基本的な形状を保ちながら不要な屈曲を取り除くために、一定の条件を指定して頂点を削除し、単純化する処理。

⇒ ラインのスムージング



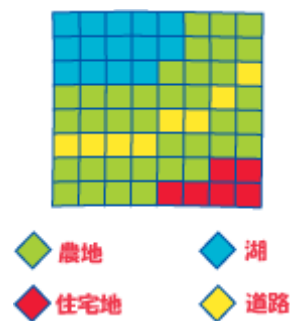
落水線

サーフェス上の最も勾配がある下り坂方向に沿うライン。落水線は、サーフェスの外周、サーフェスの凹面で終了する。

ラスタ [Raster]

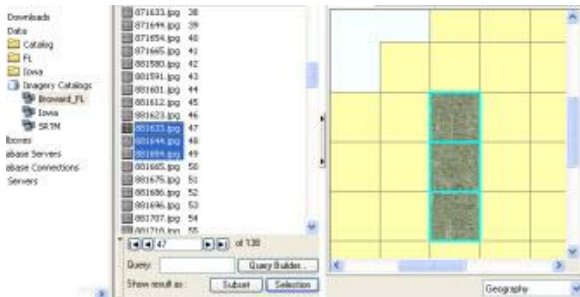
行列形式で配置され、シングル バンドまたはマルチ バンドで構成された同一サイズのセルの配列として空間を表現する空間データ モデル。各セルには属性値が格納される。連続的に変化する事象（例：標高、気温分布）を表すのに適している。主な種類として衛星画像、航空写真、DEM などがあり、その格納形式として TIFF や JPEG などの画像ファイルやジオデータベースがあり、サーフェスのデータ ソースにもなる。

⇒ ベクタ



ラスタ カタログ [Raster Catalog] (A)

ジオデータベースのテーブルで定義されたラスタ データセットのコレクション。テーブルの各レコードには各ラスタ データセットの情報が格納され、1 つのラスタ データセットのように扱うことができる。



ラスタ データセット [Raster Dataset] (A)

ArcGIS で扱うことができる位置情報を持ったラスタ データ。ファイル形式 (TIFF、Esri Grid など) またはジオデータベースに格納される。

⇒ ラスタ カタログ、モザイク データセット

ラスタ プロダクト [Raster Product] (A)

衛星画像のメタデータの情報をを使用して、自動的に生成される仮想的なラスタ データセット。画像に対する前処理が必要なく、すぐに利用できる。

ラスタ変換 [Rasterization] (A)

ベクタ データ (ポイント、ライン、ポリゴン) をラスタ データに変換すること。

⇒ ベクタ変換

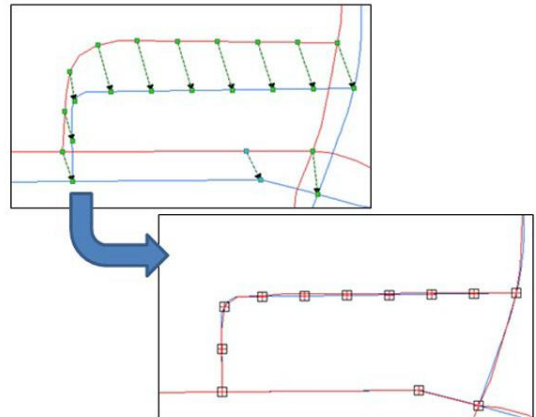
ラスタ演算 [Raster Calculator] (A)

演算子と関数を使用して数学演算を実行する ArcGIS Spatial Analyst エクステンションのツール。マップ代数演算の式を作成して実行することができる。

ラバーシート [Rubbersheeting] (A)

形状が微妙にずれている 2 つのデータセットにおいて、片方のデータセットの各頂点をもう一方のデータセットの各頂点に一致させるための手法。アジャストの補正方法の 1 つ。

⇒ エッジ マッチ



ラベリング [Labeling] (A)

マップ上にラベルを配置すること。

ラベル [Label] (A)

マップ上のフィーチャを説明または識別するための注記テキスト。フィーチャの属性の値を動的にマップ上に表示したもの。

⇒ アノテーション、ラベル条件式



ラベル ウェイト [Label Weight] (A)

ラベルの表示優先度を設定するパラメータで、その設定によりラベルをフィーチャの上に重ねて表示するか、重ならないように表示するかが決定される。フィーチャのウェイトが「高」で、ラベルのウェイトが「低」の場合、ラベルはフィーチャに重ならないように表示される。

⇒ ラベル優先度

ラベル条件式 [Label Expression] (A)

ラベルのテキストの表示内容を決定する条件式。条件式は 1 つ以上のフィールドの内容を組み合わせて表示を設定できる。ラベル条件式を用いると、複数の属性情報を改行して表示することができるなど、より柔軟にラベルを表示することができる。

ラベル優先度 [Label Priority Ranking] (A)

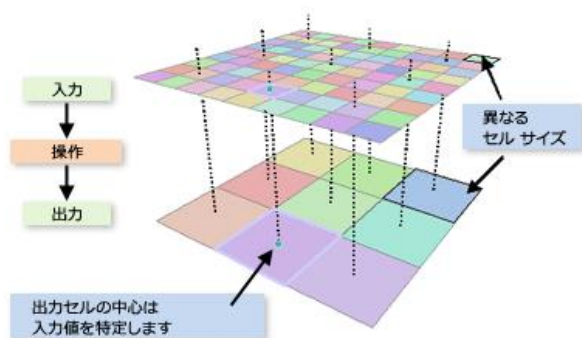
複数のラベルが重なって表示される場合に、ラベル上にある別のラベルを重ねるかどうかなどを決定するランク付けのこと。高いウェイトを持つラベルほど優先的に表示される。
⇒ ラベル ウェイト

リコンサイル [Reconcile] (A)

バージョン対応のジオデータベースの編集時に、現在編集しているバージョンの編集内容を親バージョンに反映させるために両者を比較して競合の有無を検知する処理。

リサンプリング [Resampling] (A)

ラスタ データを新しい座標空間またはセル サイズに変換するときに新しいセル値に補間する処理。
⇒ 最近隣内挿法、共一次内挿法、三次たため込み内挿法、最頻値



リニア リファレンス [Linear Referencing] (A)

既存のライン フィーチャに始点からの相対的な位置 (M 値) を設定したルートを作成したり、ルート上の事象を表現したりする機能。明示的に XY 座標を指定しなくても、ライン沿いの位置を一意に識別できる。主に道路や河川の管理に使用される。

リバース ジオコーディング [Reverse Geocoding]

地図上の位置からその場所の住所を特定する処理。
⇒ ジオコーディング

リプレゼンテーション [Representation] (A)

フィーチャクラス内にフィーチャのジオメトリと共にシンボル情報を格納することによって、フィーチャの外観を個別にカスタマイズすることを可能にするデータ モデル。

リモート センシング [Remote Sensing]

主に、地表面や大気などが放射するまたはそれから反射される電磁波を観測したり、専用のデバイスから観測対象に何らかの信号を送り反射により戻ってきた信号を観測したりすることにより、地表面などの情報を遠隔地から収集または解析すること。
⇒ マルチスペクトル画像

リレーションシップ [Relationship] (A)

データベース内の 2 つのオブジェクト間の関連性を定義したもの。フィーチャクラス間、テーブル間、またはフィーチャクラスとテーブル間に定義できる。
⇒ リレーションシップ クラス、シンプル リレーションシップ、コンポジット リレーションシップ

リレーションシップ クラス [Relationship Class] (A)

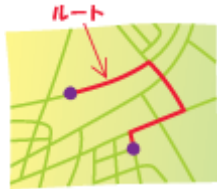
リレーションシップに関する情報を保存するジオデータベース内のクラス。
⇒ シンプル リレーションシップ、コンポジット リレーションシップ

リレート [Relate] (A)

ArcMap において、共通するフィールドをキーとして、2 つのテーブル間の関連性を定義したもの。
⇒ 結合

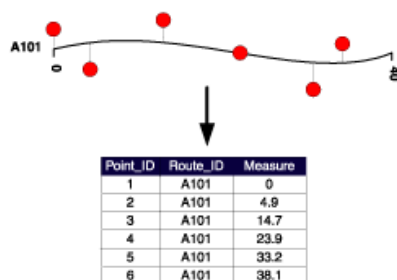
ルート [Route] ㊦

1. 道路、高速道路、河川などのライン フィーチャに M 値 を付加したデータセット。
2. ネットワークのパス。



ルート イベント [Route Event] ㊦

リニア リファレンスにおける、ルート上に沿った位置（ポイント）または区間（ライン）のこと。テーブルに格納された事象（例：事故地点、工事区間など）と M 値 の情報をもとにして、ルート上にその位置や区間を動的に表示することができる。



ルート解析 [Route Analysis] ㊦

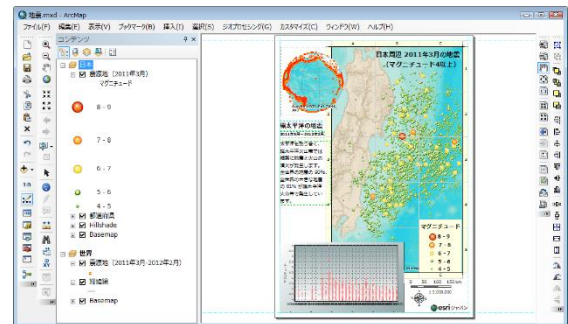
あるネットワーク ロケーションから他の 1 つ以上のロケーションへの最適なルートを決定するネットワーク解析。ストップの順序はユーザが決定でき、選択された インピーダンスに応じて、最速または最短ルートを計算できる。



レイアウト ビュー [Layout View] ㊦

ArcMap と ArcReader において、マップの印刷用レイアウトを表示する画面。このビューには、タイトル、凡例、方位記号、縮尺記号などの マップ エLEMENTを配置することができる。

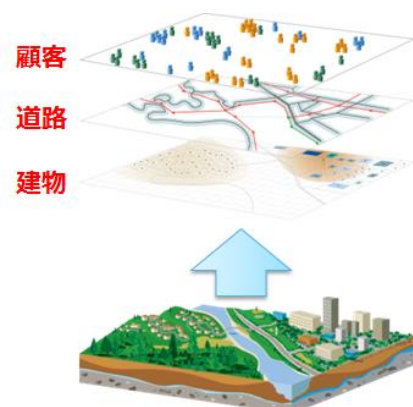
⇒ データ ビュー



レイヤ [Layer] ㊦

現実世界に存在する地物や事象を GIS で管理、表現するために、主題ごとに分類された各々の層（例：河川、道路、建物、行政界など）のこと。ArcGIS では、シェープファイル、ジオデータベースのフィーチャクラス、ラスタなどのデータをマップに追加すると、個々のデータはレイヤとして扱うことができる。各レイヤに対して表示/非表示、シンボル、透過などの設定を行うことができる。レイヤが参照しているデータの場合や各種設定の情報は、マップ ドキュメント (.mxd)、レイヤ ファイル (.lyr) に保存できる。

⇒ レイヤ パッケージ



レイヤ パッケージ [Layer Package] ④

地理データとレイヤ ファイルがパッケージ化されたファイル。他の ArcGIS ユーザとのデータおよびそのシンボル設定の共有が容易になる。

⇒ マップ パッケージ

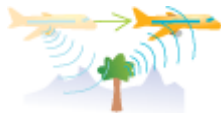
レイヤ ファイル [Layer File] ④

レイヤが参照しているデータ ソースへのパスとシンボル設定などのレイヤに関する設定情報を格納したファイル（拡張子 *.lyr）。

レーダー [Radar]

電波を対象物に向けて発射し、その反射波を測定することにより、対象物までの距離や方向といった地表面の傾向を明らかにする装置やシステムのこと。

⇒ LIDAR



レーダー干渉 [Radar Interferometry]

InSAR もしくは人工的に作成された干渉画像の分析。レーダー干渉は異なる場所から撮影した同一のエリアの画像の比較結果と調査済みの地点の情報を利用して、DEM、もしくは地物の微細な移動を示すモデルを生成するのに利用される。

⇒ インターフェログラム

レクティファイ [Rectify] ④

ジオリファレンス機能を用いて一時的に地理的な情報が付加されたラスタ データを、その情報を永続的に保持した新規ラスタ データセットに変換する処理。

レプリカ [Replica] ④

ジオデータベース レプリケーションにおける、複製元（親レプリカ）および複製先（子レプリカ）のジオデータベース。

レプリケーション [Replication]

複数のデータベース間のデータの一貫性を保つために、あるデータベースに対する変更を他のデータベースにも反映させて同期をとるための処理。

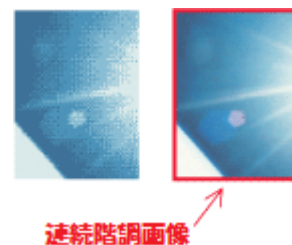
⇒ ジオデータベース レプリケーション

レベル スライス [Density Slicing]

グレースケール画像において値をグループ化し、グループに応じて色を割り当てる表現手法。

連続階調画像

明確な区切りを持たず、暗 → 明ですべてのトーンの変化を表現する画像。



連続データ [Continuous Data]

標高や気温のように値が滑らかに変化するデータ。

⇒ 不連続データ

ローパス フィルタ [Low-pass Filter]

高周波の放射線を除外することで、より滑らかな画像を得ることができる特殊なフィルタ。

ロケーション アロケーション [Location Allocation] ④

ネットワーク解析において、施設の収容数や制限に達するまで、需要地点を割り当てる処理。たとえば、ある小学校（施設）に最も近い場所に住む小学生（需要地点）を定員になるまで割り当てる など。

ロケータ [Locator] ④

「住所ロケータ」を参照。

論理ネットワーク [Logical Network] ④

ジオメトリック ネットワークを構成するエッジおよびジャンクションの接続関係を管理するジオデータベースのテーブル群。論理ネットワークで管理される接続関係の情報は、ジオメトリック ネットワークに対する解析時に参照され、処理時間の短縮に役立つ。論理ネットワークは、ジオメトリック ネットワークの構築時に自動的に作成される。



ワークスペース [Workspace] ㊦

GIS データの格納先。シェープファイルの場合はフォルダ、ジオデータベースのデータの場合はジオデータベースがワークスペースとなる。

ワールド ファイル [World File] ㊦

航空写真や地形図などのラスタ データや CAD ファイルの地理的位置情報（座標位置情報）を記述したシンプルなテキスト形式のファイル。ワールド ファイルとデータをセットで扱うことで、正確な位置にデータを配置できるようになる

数字

10 進経緯度	3
19 座標系	3
3D グラフィックス	3
3D シェープ	3
3D シンボル	3
3D フィーチャ	3
3D ポリゴン	3
3D マルチパッチ	3

A

AOI	3
ArcCatalog	3
ArcGIS	3
ArcGIS 3D Analyst	3
ArcGIS Data Interoperability	3
ArcGIS Engine	4
ArcGIS for Desktop	4
ArcGIS for Server	4
ArcGIS for Windows Mobile	4
ArcGIS Geostatistical Analyst	4
ArcGIS Network Analyst	4
ArcGIS Online	4
ArcGIS Publisher	4
ArcGIS Runtime SDK	4
ArcGIS Spatial Analyst	4
ArcGIS Tracking Analyst	4
ArcGIS データコレクション	5
ArcGlobe	5
ArcMap	5
ArcObjects	5
ArcPad	5
ArcPy	5
ArcReader	5

ArcScene	5
ArcSDE	5
ArcSDE Enterprise ジオデータベース	6
ArcSDE Personal ジオデータベース	6
ArcSDE Workgroup ジオデータベース	6
ArcSDE ジオデータベース	6
ArcSDE システム テーブル	6
ArcSDE データベース サーバ	6
ArcToolbox	6
AVHRR	6

B

BLOB	6
------------	---

C

CAD	6
CAD データセット	6
CAD ファイル	7
CAD フィーチャ データセット	7
CAD フィーチャクラス	7
COGO	7
CU	7

D

DBF	7
DBMS	7
DEM	7
DGN	7
DGPS 測位	7
DM	7
DMS	7
Douglas-Peucker アルゴリズム	7
DRA	8
DSM	8

DTM	8
DWG	8
DXF.....	8

E

EDN	8
EPSG ID.....	8
Esri Grid	8

F

False Easting	8
False Northing	8
FID	8

G

GCP	8
GDB	8
GeoTIFF	9
GIS	9
GIS データ モデル.....	9
GlobalID	9
GLONASS.....	9
GML	9
GNSS 測量	9
GPS.....	9
GPS 測量	9
GPX.....	9
Grid スタック	9
GRS80.....	9

I

IDW	10
IERS 基準子午線.....	10
InSAR.....	10
ISO/TC211.....	10

J

JGD2000.....	10
JGD2011.....	10
JMP	10
JPGIS	10
JSGI	10

K

KML	10
KMZ	10

L

Landsat	10
LAS	10
LAS データセット	10
LIDAR.....	11

M

M 値.....	11
Maplex.....	11
Maplex ラベル エンジン	11
MMS.....	11
ModelBuilder	11
MODIS.....	11
MXD	11

N

NaN	11
Natural Neighbor	11
NDVI	11
NetCDF.....	12
NITF.....	12
NoData	12

NULL 制約.....	12
NULL 値	12

O

ObjectID.....	12
OD コスト マトリックス	12
OGC	12
OGC/ISO Simple Features	12
OLE DB プロバイダ.....	12

P

PMF	12
PRJ	12
Python.....	13

R

RDBMS.....	13
RMS エラー	13

S

SDC	13
SDE ユーザ	13
SIMA	13
SPOT.....	13
SQL.....	13
SU	13
SXF.....	13

T

TIN	13
-----------	----

U

UTM.....	14
----------	----

V

VAT.....	14
VPF.....	14
VRP.....	14

W

WCS.....	14
Web マップ	14
Web メルカトル	14
WFS	14
WGS 1984	14
WGS84.....	14
WKB.....	15
WKID	15
WKT.....	15
WMS	15
WMTS	15
World Geocoding Service	15

X

X、Y 値	15
XData.....	15
XY イベント.....	15
XY 許容値.....	15
XY 座標	15
XY 座標精度.....	15

Z

Z スコア	16
Z 許容値	16
Z 座標	16
Z 値	16
Z 値の倍率.....	16

あ

アクティブ データ フレーム	17
アジャスト	17
アタッチメント	17
アドイン	17
アドレス マッチング	17
アニメーション	17
アニメーション マネージャ	17
アノテーション	2, 17
アフィン変換	17
アペンド	18
アンダーシュート	18
アンチエイリアス	18

い

一意識別子	18
一意性制約	18
一方向レプリケーション	18
緯度	18
移動抑制許容値	18
移動リンク	18
イベント	18
イベント テーブル	18
イメージ	18
イメージ サービス	19
イレース	19
陰影起伏	19
インシデント	19
インターセクト	19
インターフェログラム	19
インデックス格子線	19
インピーダンス	20
インピーダンス モデル	20

う

ウェイト	20
ウェイト フィルタ	20
ウェーブレット圧縮	20
埋め込みフィーチャクラス	20

え

衛星測位システム	20
エイリアス	20
エクステンション	20
エッジ	21
エッジ マッチ	21
エッジ-エッジ ルール	21
エッジ強調	21
エッジ-ジャンクション ルール	21
エッジ-ジャンクション基数	21
エッジ抽出	21
エバリュエータ	21
エフェメリス	21
エリア	21
円弧	22
円錐図法	22
エンタープライズ GIS	22
エンタープライズ ジオデータベース	22
鉛直座標系	22
円筒図法	22
エンベロープ	22

お

オーバーシュート	22
オーバーライド	22
オーバーレイ	22
オブジェクト クラス	23
オフナディア	23
親レプリカ	23

オルソ画像	23
オルソ幾何補正	23

か

カートグラフィ	24
カーネル密度	24
概観図	24
街区	24
解析範囲	24
階層	24
外挿	24
解像度	24
回転楕円体	24
外部キー	24
ガウス-クリューゲル図法	24
拡張 DM	24
角度単位	25
加重オーバーレイ	25
可視領域	25
画像解析ウィンドウ	25
画像強調	25
カタログ ウィンドウ	25
カタログ ツリー	25
割図法	25
カバレッジ	26
カラー コンポジット	26
カラー マップ	26
カラー ランプ	26
関数チェーン	26
ガンマ補正	26

き

キーフレーム	26
幾何補正	26
疑似ノード	26
基準縮尺	26
規制	26

基盤地図情報	27
キャリブレーション	27
共一次内挿法	27
競合	27
競合の解決	27
教師付き分類	27
教師無し分類	27
極投影図法	27
極半径	27
距離単位	27
切り盛り	27
近接解析	28

く

空間インデックス	28
空間解析	28
空間結合	28
空間検索	28
空間参照	28
空間データ	28
空間データベース	28
空間的自己相関	28
空間統計	28
クエリ レイヤ	28
クラスタ許容値	28
クラスタ分析	28
クラスタリング	29
クラッキング	29
クリギング	29
グリッド	29
グリッド子午線	29
クリップ	29
グリニッジ子午線	29
グループ レイヤ	30
グローブ ドキュメント	30

け

経緯線.....	30
計曲線.....	30
傾斜角.....	30
傾斜方向.....	30
計測単位.....	30
経度	30
結果ウィンドウ	30
結合	31
けば	31
検索ウィンドウ	31
検索許容値.....	31
原点	31

こ

公共座標系	31
航空レーザー測量	31
航程線.....	31
高度	32
高度段彩.....	32
コード値ドメイン	32
コスト.....	32
コスト距離解析	32
子レプリカ.....	32
コロプレス マップ.....	32
コンター	32
コンター間隔	32
コンテンツ ウィンドウ.....	32
コントラスト.....	33
コントロール ポイント.....	33
コンフィグレーション キーワード.....	33
コンプレックス エッジ フィーチャ	33
コンプレックス ジャンクション フィーチャ.....	33
コンポジット リレーションシップ.....	33

さ

サーフェス.....	34
サーフェス モデル.....	34
差異画像.....	34
最近隣内挿法	34
最小/最大表示縮尺	34
最小コスト パス.....	34
最短パス.....	34
最頻値.....	34
再分類.....	34
最尤法分類.....	35
索引図.....	35
差し込みマップ	35
座標.....	35
座標系.....	35
座標精度	35
座標変換.....	35
サブタイプ	35
差分テーブル	36
サムネイル	36
三次たたみ込み内挿法.....	36
参照整合性	36

し

シームライン	36
シーン.....	36
シーン ドキュメント.....	36
シェーブ.....	36
シェーブファイル	36
ジェネラライズ	36
ジオイド.....	36
ジオイド高	36
ジオコーディング	37
ジオコード サービス.....	37
ジオタグ付き写真	37
ジオデータ	37

ジオデータベース	37
ジオデータベース トポロジ	37
ジオデータベース レプリケーション.....	37
ジオデザイン	37
ジオフェンス.....	38
ジオプロセッシング	38
ジオプロセッシング サービス	38
ジオプロセッシング ツール	38
ジオメトリ	38
ジオメトリック エフェクト	38
ジオメトリック ネットワーク	38
ジオリファレンス	38
ジオロケーション	39
磁気偏角.....	39
時系列データ	39
自己交差.....	39
子午線.....	39
自然分類.....	39
磁方位.....	39
磁北	39
シャープニング	39
射影変換.....	39
写真測量.....	39
ジャンクション	39
住所フィールド	39
住所ロケータ	40
住所ロケータ スタイル	40
重心	40
集水域.....	40
集約	40
主キー.....	40
主曲線.....	41
縮尺	40
縮尺記号.....	40
縮尺係数.....	40
縮尺範囲.....	41
主題図.....	41
主題データ	41
受動型センサー	41

準天頂衛星	41
準天頂衛星システム	41
小円.....	41
小縮尺.....	41
シンク.....	41
シンプル エッジ フィーチャ	41
シンプル フィーチャ	41
シンプル リレーションシップ	42
真方位.....	42
真北.....	42
シンボル.....	42
シンボル レベル ドローイング	42

す

水深測量	42
数値分類.....	42
スキーマ	42
スクリプト	42
スケッチ	42
スタイル.....	42
スタイル マネージャ	43
ストップ	43
ストリーム モード デジタイズ	43
ストリーム許容値	43
ストレッチ	43
スナップ	43
スナップ許容値	43
スナップ対象ラスタ	43
スプライン	43
スプリット ポリシー	44
スペクトル分解能	44
スムージング	44
スリバー ポリゴン	44

せ

正角図法	44
正規化.....	44

正距図法.....	44
正距方位図法.....	44
整合性ルール.....	45
整合チェック.....	45
正積図法.....	45
世界測地系.....	45
セグメント.....	45
接図法.....	45
接続性ポリシー.....	45
接続性ルール.....	45
絶対座標.....	45
セミバリオグラム.....	46
セル.....	46
線形単位.....	46
選択アンカー.....	46
選択可能レイヤ.....	46
選択セット.....	46
線分.....	46

そ

相対角度.....	46
相対座標.....	46
相対測位.....	46
相対パス.....	46
総描.....	46
双方向レプリケーション.....	46
ソース.....	47
ゾーニング.....	47
ゾーン統計.....	47
属性.....	47
属性インデックス.....	47
属性検索.....	47
属性テーブル.....	47
属性ドメイン.....	47
測地緯度.....	47
測地基準系.....	47
測地基準系変換.....	47
測地系.....	48

測地成果 2000.....	48
測地成果 2011.....	48
測地線.....	48

た

ターゲット レイヤ.....	49
ダーティ エリア.....	49
ターン.....	49
ターン インピーダンス.....	49
ターン フィーチャクラス.....	49
第 1 次メッシュ.....	49
第 2 次メッシュ.....	49
第 3 次メッシュ.....	49
大円.....	49
ダイクストラのアルゴリズム.....	49
大圏距離.....	49
大縮尺.....	49
大楕円.....	49
ダイナミック テキスト.....	50
タイム スライド.....	50
タイル.....	50
タイル キャッシュ.....	50
タイル パッケージ.....	50
楕円体距離.....	50
高さ強調.....	50
立ち上げ.....	50
ダングル.....	50
短軸.....	50
端点.....	50
単独使用ライセンス.....	51
単独測位.....	51
短半径.....	51

ち

チェック アウト.....	51
チェック イン.....	51
チェックアウト/チェックイン レプリケーション.....	51

地球楕円体	51
地形図	51
地軸	51
地心	51
地心緯度	51
地心座標系	51
地図投影	52
地籍フォーマット 2000	52
地物	52
中央子午線	52
中間データ	52
中心緯度	52
中心経度	52
長軸	52
頂点	52
長半径	52
地理院地図	52
地理座標	52
地理座標系	53
地理座標変換	53
地理情報システム	53
地理情報標準	53
地理情報標準プロファイル	53
地理データ	53

つ

ツールセット	53
ツールボックス	53

て

ティーセン ポリゴン	53
定義フロー方向	53
ティソーの指示楕円	53
ディゾルブ	53
ディメンション フィーチャ	54
データ ソース	54
データ ドリブン ページ	54

データ ビュー	54
データ フレーム	54
データベース コネクション	54
テーブル結合	54
テキスト シンボル	54
テクスチャ	54
デジタイズ	54
トレイン データセット	55
天球	55
電磁波スペクトル	55
天頂	55
天底	55
テンポラリ ワークスペース	55

と

等圧線	55
投影座標	55
投影座標系	55
投影変換	55
投影法	55
等温線	56
等間隔分類	56
同期	56
等級色	56
等級シンボル	56
東距	56
等降水量線	56
等高線	56
同時使用ライセンス	56
等時線	57
等深線	57
等積図法	57
到達圏解析	57
等値線	57
等量分類	57
トゥルー カーブ	57
トゥルー カラー	57
ドーナツ ポリゴン	57

土地被覆.....	57
土地利用.....	57
ドット密度.....	58
凸包ポリゴン.....	58
度/分/秒.....	58
トポロジ.....	58
トポロジ エlement.....	58
トポロジ ルール.....	58
ドメイン.....	58
トラック.....	58
ドレープ.....	58
ドローネ三角形分割法	59

な

内挿	60
ナチュラル カラー	60

に

日本測地系	60
日本測地系 2000	60
日本測地系 2011	60
認証ファイル	60

ぬ

塗りつぶしシンボル	60
-----------------	----

ね

ネットワーク エlement.....	60
ネットワーク データセット	61
ネットワーク トレース.....	61
ネットワーク フィーチャ	61
ネットワーク ロケーション	61
ネットワーク解析	61
ネットワーク属性	61

の

ノード.....	61
----------	----

は

バージョン	62
バージョン対応ビュー.....	62
パーソナル ジオデータベース	62
ハイパス フィルタ.....	62
波長.....	62
バックグラウンド処理.....	62
ハッチ.....	62
ハッチ スタイル.....	62
バッファ	62
パラメトリック カーブ	63
バリア.....	63
バリオグラム	63
範囲ドメイン	63
半球.....	63
パンクロマティック画像.....	63
パンシャープン	63
バンド.....	63
バンドパス フィルタ	63
バンド比.....	63
凡例.....	64

ひ

引出し線.....	64
ピクセル.....	64
ピクセル深度	64
ビジネス テーブル.....	64
ヒストグラム平坦化	64
日付変更線.....	64
ビット深度	64
標高.....	64
表示縮尺範囲	64

表示単位.....	64
表示範囲枠.....	64
標準アノテーション.....	65
標準緯線.....	65
標準地域メッシュ.....	65
標準偏差.....	65
標準偏差分類.....	65
標準ラベル エンジン.....	65
ピラミッド.....	65
ビルボード表示.....	66
比例シンボル.....	66

ふ

ファイル ジオデータベース.....	66
フィーチャ.....	66
フィーチャ ウェイト.....	66
フィーチャ キャッシュ.....	66
フィーチャ サービス.....	66
フィーチャ データセット.....	66
フィーチャ テーブル.....	66
フィーチャクラス.....	67
フィーチャ抽出.....	67
フィーチャリンク アノテーション.....	67
フィールド.....	67
フィールド マッピング.....	67
フィールド演算.....	67
フィルタ設定.....	67
フィルタリング.....	67
フィレット.....	68
フェイス.....	68
フォアグラウンド処理.....	68
フォーカル統計.....	68
フォールス カラー.....	68
フォルダ接続.....	68
フットプリント.....	68
不定フロー方向.....	68
ブレイクライン.....	68
不連続データ.....	69

フロー方向.....	69
ブロック属性.....	69

へ

平均海面.....	69
平射図法.....	69
平面図法.....	69
平面直角座標系.....	69
平面直交座標系.....	69
ベースマップ.....	69
ベクタ.....	69
ベクタ変換.....	69
ベクトル.....	70
ベジェ曲線.....	70
変化抽出.....	70
編集セッション.....	70
偏心率.....	70
偏楕円体.....	70
扁平率.....	70

ほ

ポイント.....	70
方位.....	70
方位記号.....	70
方位図法.....	70
方眼格子線.....	71
方眼北.....	71
放射量補正.....	71
補間.....	71
補助曲線.....	71
ポスト.....	71
北距.....	71
ポリゴン.....	71
ポリライン.....	71
ボロノイ図.....	71
本初子午線.....	72

ま

マーカー シンボル.....	73
マージ.....	73
マージ ポリシー.....	73
マス ポイント	73
マスク.....	73
マップ アノテーション.....	73
マップ エlement.....	73
マップ キャッシュ.....	74
マップ サービス.....	74
マップ テンプレート.....	74
マップ ドキュメント.....	74
マップ トポロジ.....	74
マップ パッケージ.....	74
マップ ブック	74
マップ代数演算.....	74
マップ単位.....	74
マルチスペクトル画像	74
マルチスペクトル センサー	75
マルチパッチ	75
マルチポイント	75
マルチモーダル ネットワーク	75
マルチユーザ ジオデータベース	75

み

ミクセル.....	75
密度解析.....	76
未定フロー方向	76
見通し線.....	76

め

メジャー値.....	76
メタデータ	76
メタデータ プロファイル.....	76
メッシュ.....	76

も

モザイク.....	76
モザイク データセット.....	77
モデル.....	77
モデル エlement.....	77
最寄り施設解析	77

ゆ

ユークリッド距離	78
ユニオン.....	78
ユニバーサル横メルカトル図法	78

ら

ライセンス マネージャ	79
ライン.....	79
ライン シンボル.....	79
ラインのスムージング.....	79
ラインの単純化	79
落水線.....	79
ラスタ.....	79
ラスタ カタログ.....	80
ラスタ データセット.....	80
ラスタ プロダクト.....	80
ラスタ演算.....	80
ラスタ変換.....	80
ラバーシート	80
ラベリング	80
ラベル.....	80
ラベル ウェイト.....	80
ラベル条件式	81
ラベル優先度	81

り

リコンサイル	81
--------------	----

リサンプリング	81
リニア リファレンス	81
リバース ジオコーディング	81
リプレゼンテーション	81
リモート センシング	81
リレーションシップ	81
リレーションシップ クラス	81
リレート	81

る

ルート	82
ルート イベント	82
ルート解析	82

れ

レイアウト ビュー	82
レイヤ	82
レイヤ パッケージ	83
レイヤ ファイル	83

レーダー	83
レーダー干渉	83
レクティブファイ	83
レプリカ	83
レプリケーション	83
レベル スライス	83
連続階調画像	83
連続データ	83

ろ

ローパス フィルタ	83
ロケーション アロケーション	83
ロケータ	83
論理ネットワーク	84

わ

ワークスペース	85
ワールド ファイル	85

1. 出典：「デジタルマッピング」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』。2014 年 7 月 10 日 (木) 06:40 UTC
<http://ja.wikipedia.org/wiki/デジタルマッピング>
2. 出典：国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/LAW/G2000-g2yogo.htm>
3. 出典：国土交通省ホームページ
<http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha04/13/130428/01.pdf>
4. 出典：「グリニッジ子午線」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』。2014 年 7 月 12 日 (土) 15:05 UTC
<http://ja.wikipedia.org/wiki/グリニッジ子午線>
5. 出典：国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/LAW/G2000-g2000-h3.htm>
6. 出典：国土地理院ホームページ
http://terras.gsi.go.jp/geo_info/GNSS_iroiro.html
7. 出典：総務省統計局ホームページ
http://www.stat.go.jp/data/mesh/m_tuite.htm
8. 出典：総務省統計局ホームページ
http://www.stat.go.jp/data/mesh/m_tuite.htm
9. 出典：総務省統計局ホームページ
http://www.stat.go.jp/data/mesh/m_tuite.htm
10. 出典：国土地理院ホームページ
http://terras.gsi.go.jp/geo_info/GNSS_iroiro.html
11. 出典：国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html>
12. 出典：国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/LAW/G2000-g2000faq-1.htm>
13. 出典：国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/KIDS/map-sign-tizukigou-h13-01-03hojokyokusen.htm>
14. 出典：「ボロノイ図」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』。2014 年 3 月 4 日 (火) 03:53 UTC
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ボロノイ図>

ArcGIS 関連用語集

2014 年 12 月 26 日 発行

ESRI ジャパン 株式会社

URL: <http://www.esri.jp>

Copyright(C) Esri Japan.

※本書に記載されている内容は予告なく変更される場合があります。

※本書の公開にあたっては正確な記述に努めましたが、ESRI ジャパン株式会社は本書の内容に対して何らかの補償をするものではなく、内容に基づきいかなる運用結果に関しても一切の責任を負いません。

※本書に関する更新情報などについては、下記の Web サイトをご参照ください。

https://esri-japan-support.custhelp.com/app/answers/detail/a_id/5917

※ArcGIS、ArcGIS for Desktop、ArcMap、ArcCatalog、ArcToolbox、ArcScene、ArcGlobe、ArcReader、ArcInfo Workstation、ArcGIS for Server、ArcSDE、ArcObjects、ArcGIS Online、Esri は、米国、欧州およびその他の管轄区における Esri 社の登録商標または商標です。

※本書に記載されている会社名、製品名は各所有者の登録商標および商標です。

